

高速度道路に次では「鐵道と停車場」「大洋及内國水路と港灣」「航空路及航空港」「輸送管線」「通信機關」が問題としてあげられてる。

航空機に關しては「航空機は原始的な郵便輸送車を車庫へ閉込めた。夏季航空便の最重要な用途は山火事と闘ふ人々と器具の輸送である。飛行機は又洪水地帯へ出入する人々、食料品、郵便の輸送に測る可からざる價值を實證した」とのべてる。

輸送管線 Pipe lines はガソリン及天然瓦斯等に對するものが考へられてる。

インデアナ州では此の管線を用ひ出した爲、石油輸送の労働者を失業させたと云ふ。

公共的改良事業計畫並に公共用建物については大して特殊な問題はあつかわれて居ない。

先ず公共事業についてはその緊急性その他について評價をなす標準が問題になり（公共事業道路、治水、埋立、給水、その他）又、公共事業と失業救済の關係も考慮に入つてる。

公共建築物としては教育施設、公共營造物、官廳建築物等につき建設計畫が建てられてる。

此等は將來の人口分布に對し規模その他相互の連絡等についても配意されてる。

最後に社會的並經濟的傾向と云ふ項が興味がある。

先ず此に對しては或州は次の様な見解のもとに考へを進めて居る。

(1) 公共精神並に風紀の向上。

(2) 慰樂並に閑暇施設の増進。

(3) 一般住民の社會的活動への關與の機會。

又、ペンシルヴァニアでは「人間の需要」の充足を主題とし「合衆國に於て『人間の需要』なる語は單なる最低限度の生活維持以上のものを意味する。

其故にペンシルヴァニアの調査に於ては合理的なる生活標準を眼中に置いた。

扱て人間の需用とは食料、住居、衣服、保健及福利並愉樂に必要な最少限度の慰樂並娛樂の如き不可缺の要素である。

之には普通の個人及家族の合理的な慾望を満足せしめるに足るだけの教育並交通機關及其他の施設並物資が含まれる。其は贅澤と稱するものとは遙かに遠い。換言すれば其は生活の『アメリカ的標準』を構成する」云々とのべてる。

完全に繁榮の普及化主義である。

又、工業立地に對しては「過去に於ける工場的位置は稀な例外を除き長短兩要素の詳細は調

査に基いて選定されるよりも寧ろ機會の問題であつた事を示してゐる。

工業發展が或程度交通系統に追隨する事は事實であり交通施設の改良に依つて、従前に於ては接近し難しと考へられた市町村に工場の設置を見た事は確かに事實である」云々。

又「ニュー、イングランド地方計畫委員會は全國を通じ中都市への工業集中の傾向が顯著であると信じて居る」

或は「イリノイ州計畫顧問は同洲内の工業傾向を調査して後製靴工場を除き分散の證據は極めて微々たるものであるけれども『工業の郊外分散』は次第に顯著となりつゝあるを結論して居る」等をのべてゐる。

尙州計畫として失業問題を扱ひその救済を考慮し又一般教育問題に迄調査をすゝめて居る。

此を要するにアメリカの地方計畫は明に自由主義、下意上達で特に構成的でなく夫々の部門に於ての發展計畫にすぎない。

又、全體としては失業救済乃至は農業の離耕問題に考慮をよせてゐる以外いわゆる國民生活と云ふ様な問題に集中して居らずましてや全く防空的な觀方を缺いてゐる。

第六章 結 語

以上「技師の現場報告」としての「國土計畫研究」である。

思考その他に於て不備な點は自から氣づき得た點でも可成りである。

たゞ然し一個の都市計畫技師として二〇年の經驗を通して云ひ度い事は

大東京に何等手を加へ得ざるものは國土計畫でない。

と云ふ事と、工業地方分散の重要な眼目として

工業の人的立地

農業との關聯

がある事の強調である。

更に「一際の國土計畫の最後の目的は大和民族の繁榮である。それは量のみの繁榮ではない質―それも「心の質」である。それは生活圏の計畫によつてのみ達せられる。」と云ふ事もそれ以上の強さで主張して置き度い。否。むしろ以上の縷々の解説も結局此れが云ひ度かつた丈である」と云ふ事が出来る。

以上に於て國土計畫に對する自分の解釋の概要を盡した。然しその中で自分は「生活計畫」及「地方都市振興」に關する項について尙云ひ度い事を殘した。

そしてそれが自分の此の著の主題でもあるので既に二三の方面で發表したそれ等に關する論文を改訂の上加へる事にした。従つて内容に多少の重複ある事は諒せられ度い。

第二部 國土計畫に關する特殊論考

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」

について

第一節 生活計畫

一、生活計畫の要諦

「國土及國土に即する現象を動員し、これを國家その時の最大要請に應ずる様整備構成する國

土計畫」はおよそ一つの國家たる以上當然備へなければならぬ體制であらふ。我が國が世界の
大勢に従ひ「漸く」これを國策として取り上げるに至つたのは、當然とは云ひながら欣快にた
へなす。

事實我が國の過去の「總て」は國土計畫的に見て遺憾の點が多過ぎた。それは平和であり、
自由主義がその任務を誇り得る時代には、容認され得たかも知れないが、今にして渾身の力を
要する時、此の「利己のモザイク」は國、民族、子孫、祖先を賣る態度の外の何ものでもな
す。これは一日も速かに清算されなければならない。

たゞ、こゝに問題として深き考慮を要するのは、此の實に世界的の難事であり、これ迄の古
き經驗者たる英米が、その長き努力にも拘はらず「物」にし得なかつた國土計畫が、これを試みる
事さへしなかつたものが我國によつて、一朝にして實施し得るものなりや否やと云ふ事である。
恐らく、此の當然の國家要務が、長くその形を得なかつたのには、夫々の國に夫々の克服し
がたき理由があつての事であらう。又それを「試みんとさへ」しなかつた國家には「試みんと
さへ」せしめなかつた原因があつての事と考へられる。

その容易ならぬ「根本」に省る事なく、これを易々たりと輕斷するは未だしも、これを自己

の安易なる解釋により又八方に最も抵抗少なき路を撰びたいとする「實施の偽態」を楽しまんとする時、國土計畫は全く形體に止り、求められる所の實體は逸し去つて、跡をとどめない事になる恐れがある。

かくの如きは、國家喫緊の要請に報ふべき時に報ひ得ざるのみならず、國民をして國土計畫そのものに失望せしめ再びこれが眞の相にて、顯はれる機會を失はしめんとさへする。國家の不幸危険これに過ぎるはない。

我が國の國土計畫が表面化して未だ半歳を出でない。恐らくそれは健全なる出生の準備をとげつゝあると考へる。

たゞ然し、それが強力なる實體として實社會に望む前には、何としても幾つかの荆棘岐路を経べき様豫想される。

少くも自分は現下既に、輿論として上下される國土計畫論の中に、その多分なるものを感じるのである。

(一) 例へば先ず第一に我々は國土計畫の定義を明快にする必要がある事を感じる。

國土計畫は何としても土に關する地域秩序であるべきにかゝはらず、屢々それは計畫經濟乃

至國家計畫の如き上位計畫と混亂されて論じられる。

その結果、それは實在たる國土の實態をはなれ、いたずらに當爲の論に精細となり、具體化を臆せしめる。

(二) 又、國土計畫が國土再編成と國土振興と二つの面を有する事は識らるゝ如くである。

夫々、その國土の情勢により決定されるのであるが、たゞ、後者は政治經濟上の自由主義的な國家にても行ひ得るが、前者は絶對的に強權による統制なくして行ひ難い。

我國現下の國土計畫の重點は、實に此の再編成のそれである。

従つてそれは、自由主義の揚棄なしには遂げ得ないものである様に思へる。

それが果してその様に認識と覺悟を有たれて居るかどうか。恐らく否であらう、然りとせばそれは問題にならない状態である。

(三) 國土の再編成に當つて、先ず着手すべきは大都市の抑制及分散である。

然しそれは次の様な配意なしに實行する事の不可能なものである。

イ、分散抑制を爲すには、當然それ以前に於てその分散抑制が日本の既往の經濟力を減損せしめざる様準備を爲しておく必要がある。

例へばナチスが總てに先き立つて自動車國道を建設してかゝつた様なものである。
ロ、又分散抑制の最效果ある對象は工業である。

然るに此の工業は、これを直ちに農村に投すべきか否かについては大きな疑問がある。

少くもそれは農村の生産力、出生力等を弱める事なく、且、日本の精神力の根元たる農村精神を損ふ様な事があつてはならない。

且又、食糧自給の關係よりして、無限の收容は不可なりと考へられる。

これ等に對しても十二分の考慮が必要である。

(四) 又大都市が特にその工業を主力として分散せんとする時、地方には一際に人口が溢出する。

その時の問題は、それが單に工業その他の産業立地のみに応じ定着するのであつてはならぬと云ふ事である。

何となれば、若しそれが單に産業立地のみに従ふならば、再び大都市乃至工業偏倚を來すおそれなしとしないのみならず、かくして結果したる「人口地方」は必ずしも最上の地理的社會形式であるとは限らない。

然るに國家が最必要とするのは此の最後のものたる「最上の社會」なのである。

およそ一つの國家は、かくの如き「最上の社會」によつてのみ健康と教養を兼ねたる國民を保ち、且その國民の精神をして國家に歸一せしめる事が出来るのである。

かくの如き、重要至極なる國土體制をたゞ偶然に待つ如き事は、爲すある國家の方法論ではなす。

むしろ國土計畫はかゝる「社會」を前提として、これの支持力としての工業配置を爲すべきである。

(五) 以上の總ては決して既往の如き分權的行政形態で果し得る事でない。

これ等を完全に遂行する爲には、何としても一切の行政が、渾然として一體を爲し得る様再構成されなければならない。

これ等が如何に取り扱はれて行くのであらうか。

少くも、これ等に何等ふれずしては一步も前進なし難きが日本の國土計畫である筈である。

然も現實は、何となくこれを見送らんとする如き形を察知せしめてる。

岐路を誤るのでないかといふことが杞憂に終らん事切望にたへないのである。

よつて自分はこゝに一つの試みに於てはあるが、國土計畫最終の課題たる「最上の社會」たる「地方」を「生活の面」に於て如何に構成すべきか一案をのべ、せめて此の方面における基本的な考察を喚起し度いと思ふのである。

x

およそ國土計畫にはその國その時の唯一の形式がある。

それは決して他の國の既存のものをそのまま、真似て、よき成果を得べきものでない。然し我々は、我が國の國土計畫要請よりして（國土の再編成、廣義國防國家建設等）獨逸のそれに多くの學ぶべきものを發見する。

特に我々は、彼等が國土計畫の要諦として、防空の點よりも、強兵の點よりも、産業の點よりも乃至は獨逸永遠の繁榮の意味よりして賢く健全なる獨逸人の構成する「獨逸的生活」「獨逸的社會」を考へて居る點に首肯せざるを得ないのである。

彼等はいふ云ふ。

「國土計畫は、ドイツのジードルング（定住地計畫）事業に對し洪大なる指導方針を與へる。

此の方針に基いて、我々は各地方に赴き、そこに存在する人間、土地、動植物に關する地方

個有の法則を認識しなければならない。

こゝに我が國土計畫より入つて行くべきものは、任意的に定められた政治的境界による州計畫ではなく、ドイツ國民の夫々の生活地域を認識し且形成する郷土計畫である。」

「建設は人間及家庭を以つてしなければならぬ。その他のもの即ち村落及都市は、たゞこの大工事の外観に見へる要石に過ぎぬものである。」

「ドイツのジードルング事業は決して石や鋼鐵を構成要素とする建設事業でなく、ドイツ人並にドイツ労働者及農民の家庭を以つてすると云ふ事である。」（「獨逸のジードルング事業」より）

「人間自體の肉體的並精神的性質に對し特別な要求があるもので、而してその特性と云ふものは、或る、特定の地方風土内の人種は其の自然的素質に依つて特別な適應性を現はす事があるものである。」

「職工以外に如何に多くの未婚者や妻子のある既婚者が居着き、定着者となつて工場周圍の何處に如何にして定住するかを考へに入れなない様な工場移設計畫は總て不完全なものである。」

「健全な家庭は健全な住居にあつてこそ、初めて生長するのである。

自分の土地に再び土着して住み得る労働者こそ工業と最緊密に結び付き得るのである。」

「工業材料の出る處又はある處にのみ職場乃至住宅地を一方的に定めたことの惡結果は既に大戰前に見る事が出來たのである。」

「人間は大地からの心の糧を失ひつゝあつたのだと云ふ事を都市の人間は漸くはつきり自覺するに至つたのである併し心の糧は都市へ輸送し得べくもないのである。」

都市民が週末旅行をするが如きは土地と結び付かなくなつた缺陷に對する不可避的な現はれであるが、併し高價な反作用と謂ふべきである。」(工業移設より)

「土地と人との二つの要素は一體となつて一地方の經濟の外的現象形態を決定するのみならず、同時に内的な經濟力生産力をも決定する。」

此の内的な力を出来る限り増進し、その方向を決定し、その進路を誤る事前に防止する事は其の地域の住民に課されたる任務である。

此の任務は單に土地の側からのみ土地の物的所與の合目的々形成によつて解決されるものでもなければ、又單に人の側からのみ人の動員の意識的管理に依てのみ解決されるものでもな

5。創造的な形成意志を有する者の爲すべき此の任務は寧ろ人的經濟根基と物的經濟根基とを不

斷に同化調和せしめるにある。

考察を進めてゆくと、人と土地の目的中調整と云ふ此の任務は重き性質を有する事が明らかになる。

此の任務は夫々独自のエネルギーを放射する兩極の調整にある。

人は土地を形成し、土地はその住民を形成する。それ故に、此の動的な現象を認識し、生きた發展経路を正しく把握し且善導する事が問題である。」(中部ドイツ開發計畫の概要より)

「アドルフ、ヒットラーは民族協同體なる語を強調して居る。此の語を通じてわが民族の成員たちは、民族協同體の一員たることなくしては個人が何者でもあり得ないこと、また、自然的協同體とは、たゞ、血統、言語、文化を同じくする人達の構成せる團體、すなはち、民族協同體なる事を識るべきである。」

民族協同體なる概念は、一民族の成員が自然的に協同體に結合し、しかも、生活上の全事象に關しては自己をば協同體に結合したものとして感じなければならぬと云ふ事、すなはち自己を民族協同體の一員なりと感じなければならぬと云ふ意味を表はして居る。」

「一民族の運命はその觀念的並に、物質的基調によつて規定せられる。その觀念的基調は次の

三條件に依據する。

(一) 各同胞の民族全體への感情的結合。
(二) 各個人が自主的、獨立的自由なる民族の一成員たらんとする意志、さらにドイツ民族の利益を保護するに必要ないかなる時、いかなる場所においても、あらゆる犠牲を顧慮することなく、この意志を貫徹せんとする決意。

(三) かゝる感情的結合、意志、決意こそ本源的性質の力——固有の力——眞の民族の力を表はすものなることの認識、そしてかくの如き、眞の民族の力はたゞ民族協同のうちに於てのみ生成し存続し得る事の認識。」「(民族協同體の本質)より」

以上斷章的主張を通じて、我等は正に我國にそのまゝ、移し植ゑて可なる生活計畫の指針を見出すのである。

即我等は、これ等の中より次の様なものを撰む事が出来る。

- 一、國民をして郷土に定着せしめる事の必要。
- 二、郷土に於ては居住者が自己の存在の尊貴を確認し且そこに成立する隣保社會の價値をも確認し得る事の必要。

三、かくして生じたる隣保的な社會單位を最後に於て「家庭→聚落→地方→國家」の關係にて「全體」に續かしめる事の必要。

四、職場と文化を郷土的に分布せしめる事の必要。

恐らく、四は一の爲の條件となるのであらふし、二、三は結局一つのものなりとも考へられ

る。
或は又、一は二の爲の條件とも云へる。

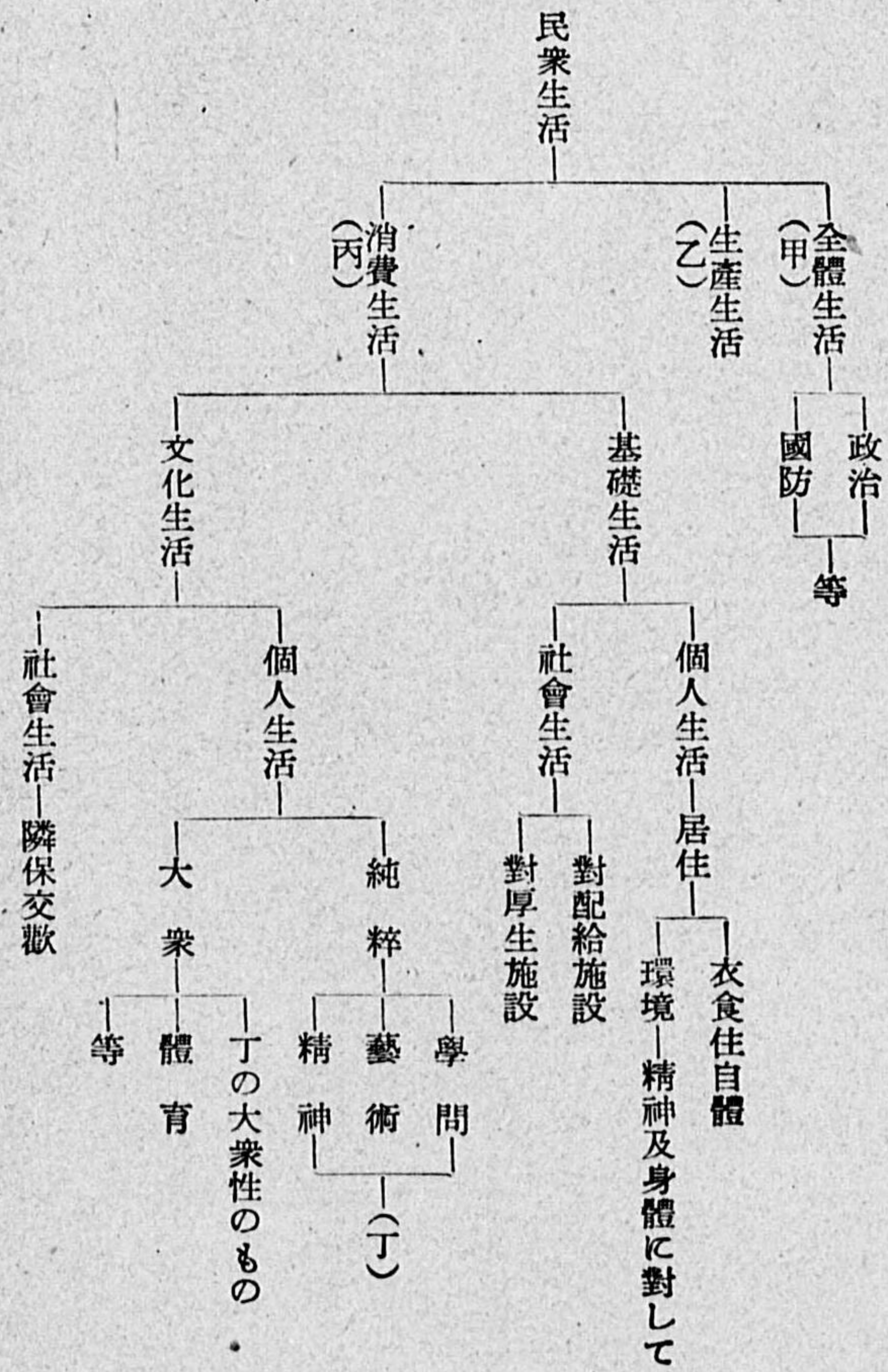
結局、これ等の條件は、相互に關聯しつゝ、國民生活を規定するのである。

而して此の中で最重き條件は結局三であると云へる。

恐らく人間は、近隣相結び更にその「結び」を近隣より聚落に、聚落より地方に、地方より國家へと續けてゆく時最人間としての最高能力を發揮し、文化と生産を高め且、單位たる個人自身を最幸福なる状態に置くであらふ。

(その逆に孤立せる時、人間は最貧しく微力であり不幸である。)かくの如き時の綜合表出は決して數學的な「綜和」でなく、化學的な「異質への昇華」である。此れが國民生活の建設要諦でなければならぬ。

第二節 生活自體



よつて今國民生活の條件に應じ構成すべき段取りとなる譯であるが、その前に一應、生活自體の内容につき、吟味して見る必要がある。

生活内容については未だ明快なる學的系列は出來て居ないが、これを便宜日常經驗的に表示すれば前表の様になる。

これは我々の生活の全系列であるが、上述のナチスの精神及我等の強き主張は、此の生活夫々に順位と強弱を附する事である。

即、一般にこれ等の生活は生産に重點を置き、消費はその残滓をあてがはるゝ順位となる。それに對し我々は、あく迄消費生活自體の重要性をあげ、これを首位に置き、生産を従たらしめよと主張する。

勿論さればとて生産を閑却せよと云ふのではない。生産はあく迄人類、國家の下部基構である。

消費はこれによつて規定せらるゝ性質のものである事云ふ迄もなし。たゞ問題は「一〇」の生産を「九」に減じた爲に「〇」の消費が「一〇」に高まるならばその配意を以つて生産計畫を爲すべしと云ふのである。

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」について

尤、その消費生活は零細卑近なる低位のもののみを意味するものではない。

それは「消費」と云ふ字義が或はその眞意を没却するおそれがあると思へる高位の人類創造の軸に沿へる高さに迄及ぶ生活である。それあるが爲國家が榮へ國家が強大を爲す「精神」の糧となるべき生活全部の謂なのである。

此等について久山氏の次の論文は大衆娛樂についてののみではあるが自分の主張を云ひ盡してゐる。

x

娛樂の價値がもつと正當に評價されなければならない。理論的科學的な研究が要求されなければならない。

50

x

人間の浪費的享受生活は、その生産的寄與生活に比して著しく社會的に閑却され、多くは私事に屬する問題として放任せられたのである。

殊に娛樂慰安に到つては不當に卑められ、娼婦扱ひにされて殆ど顧みられる所がなかつたが労働が社會的となり、労働の問題が益々社會の不可欠の緊要事として國家的に調整を受ける様になつた今、かゝる労働の

ために、重要な役割をつとめる娛樂慰安の問題ももつと社會的に反省されなくてはならないと思ふ。

x

娛樂の種類

- 家庭娛樂
- 郷土娛樂
- 貴族娛樂
- 民衆娛樂

x

娛樂の一つの特徴たる社會性は、先づ娛樂が多くの場合個々人の單獨な享受ではなくて必ず相手又は同輩があると云ふ事にあらはれる。

—大勢が同時に一つの娛樂を歡賞享受すると云ふ事はそれ丈で明に社會的行爲である。

x

慰安や休養はそれ丈では何等積極的な社會現象とはなり得ない。

それは労働に對して養生的、消極的な生活形式に過ぎない。

然しながらかゝる生活形式を必要とする労働生活、従つて、社會生活が現實の姿と云ふ事は、それ丈で慰

安や、休養の持つ社會的な存在理由があるわけである。

ましてかゝる生活形式を埋める實質の最重要な一つとして娛樂が採用され、それが慰安的、養生的な役割を持ち、労働生活のバランスを保たしめると云ふ事は娛樂の積極性、建設性を雄辨に物語るものである。

x

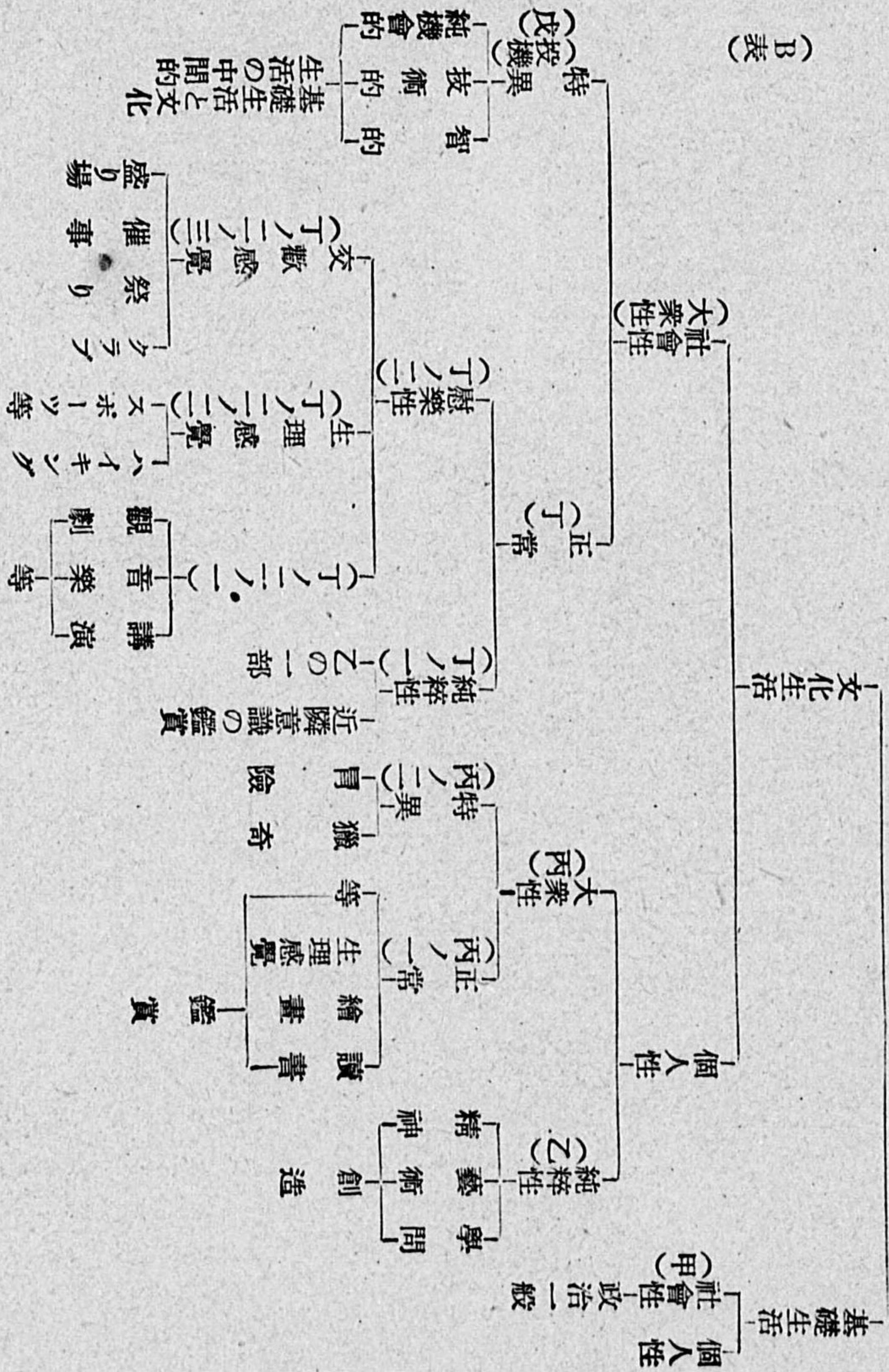
「楽しませつゝ高め、慰めつゝ教へ、害はれたる心身のエネルギーを補給し、明日への生活感情を快感もて鼓舞し生活のバランスを保たしめつゝ民衆を感情的に結合してゆく。」

これこそ娛樂の本質的な機能であり、社會性、積極性の眞髓である。かゝる機能を最安易に、また完全に營むものは實に民衆娛樂であり、その本質の中に根ざす特性に他ならないのである。

(民衆娛樂の概念、日本社會學年報第七輯)

然らばその消費生活は如何なる施設と環境を要するか。

先ず施設については次の様なものが考へられる。



此の資料に對しては次の様なものがある。

- (甲)(乙)(丙ノ一)(丁ノ二ノ一)等の文化生活正系のものに對してはA、B(一第一系)
- (乙ノ一)(丁ノ二ノ二)等の中生理感覺を含めるもの及第一系を含めたものにC、D(一第二系)
- (丁ノ一)(丁ノ二ノ三)の如き隣保感覺系のものに對してはE、F(一第三系)
- (戊ノ一)(丁ノ二ノ二)等の中慰樂に關するものに對してはG、H、I(一第四系)
- 更に(戊)等の特異性のものに對してはJ(一第五系)

A、社會中心の要素となるもの(ウイスコンシン大學 ワード氏)

公開講座中心、圖書館支部、美術展覽會、音樂中心、催事中心、映畫館、慰樂中心、職業紹介所、公衆衛生局。

B、獨逸の國文化院構成(Die Reichs Kultur Kammer)

(一九三三年 國文化院法)

國音樂院、國造形美術院、國演劇院、國新聞院、國ラヂオ院、國映畫館

C、K. D. F. 國の内容(改造二十三卷七號、邦正美氏)

運動部

労働美化部

旅行、遊覽部

獨逸國民教養部

催し物部

運動部

屋内運動場

運動競技指南所

屋内綜合運動場

職場單位クラブ

労働美化部

職場の美化作業

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」について

一五、〇〇〇個所

一、〇〇〇

一、〇三五

一一、〇〇〇

第二部 國土計畫に關する特殊論考

職場附屬の踊り場

四、三〇〇

映畫映寫場

六、四〇〇

圖書室

四、二〇〇

等

旅行遊覽部

豪華船旅行

汽車遊覽

登山列車

バス旅行

小船旅行

海洋旅行

K、D、F自動車

等

獨逸國民教養部

講演

講義

協同研究會、

小研究會

見學

研究調査

研究徒步旅行

展覽會

移動展覽會

教養の夕べ(職場、都會、農村)

文化探求旅行

等

催し物部

音樂會、舞踊會

映畫

民謡會、民踊會

展覽會

オペラ、オペレット等

見世物

演劇

その他

ヴェリエテ、曲馬類

自動車道路工事場催し物等

混合催し物

D、伊太利デポラボロ會 (The National Depolavaro Foundation in Italy) 目次

組織

國民デポラボロ創設の精神と性質

組織

デポラボロの地方支部、農村デポラボロ

藝術教育及民衆教化

演劇部門、野外演劇、歌劇的、音樂運動、唱歌隊學校、樂隊、競走、一九三七年統計報告、映畫、ラヂオ

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」について

料金の遞減、一般教化、短篇競争、圖書館、一九三七年統計報告、民衆の慣例、牧羊業の工藝展覽會及勞働器具の裝飾、歌、音樂及ダンス、ドボラポローに於ける傳説、唱歌隊及舞踏隊、聲樂競争、民衆祭、特
有な水祭、五月祭、及歌祭り、國民ダンス、結論

體 育

體育、綱引、球戲、野球及庭球、漕艇、體力證明、長距離レース、國民競争、一九三七年度體育運動關係統計、ドボラポロー競技、C.O.N.I.と協同の運動競技、遠足、一九三七年遠足統計、結論

社會公益及保健計畫

公益、公益事業の諸種の型、諸集會及閑暇時間の保險額遞減及割引、防空、保健事業、家庭及家庭菜園の問題、一九三七年度公益事業關係統計、出版圖書

E、大衆慰樂内容の參考として古來の隣保的市民生活をあげれば左の如し(著者説)

古代、中世等の西歐都市

廣場、市場、教會、祭り、等

現代外國都市

喫茶店、クラブ、劇場、隣保館(アメリカ)等

江戸時代

祭り、盛場、縁日、遊廓、相撲、遊山、劇場、等

支 那

祭り、廟、茶館、劇場、等

F、商業中心と慰樂性の關係(デボアの著書より)

× 嘗ての市場廣場は今日のビジネス區域である。

× 市民は群集に魅かれる。

× であるからビジネス區域の第一の仕事は社會的な集會所とする事である。

× 昔しの市場廣場は今日の商店街よりはるかに盛り場であつた。

× 群集に會ひ度い慾望、美しい店を見度い氣持、陳列、建築物と云ふものが客を集める。

G、學生娛樂問題に關する調査（大原社會問題研究所）

要望されたる公的施設

- 一、娛樂的催物の公的開催
- 二、學藝講演會の開催
- 三、劇場、映畫館、音樂會等に學生日を特設せしめる事
- 四、學生専門の映畫館、音樂會館の建設
- 五、學生旅行の爲汽車、汽船賃の免除又は大割引
- 六、圖書館の設置及普及
- 1、大規模の圖書館を市中央部に建設する事
- 2、簡易圖書館の増設普及
- 七、スポーツ設備の公的施設
- 八、純潔なる青年男女社交俱樂部の建設
- 九、學生會館の建設

學校施設への要望

學生生活を樂しめる設備

- 1、適當なる娛樂趣味機關の設備
 - 2、圖書雜誌閱覽室、控室、喫茶室、談話室、娛樂室等の設置
 - 3、校内に學生クラブの設置
 - 4、校内に運動場、遊歩場、ベンチ等の設置
 - 5、スポーツ、旅行、ハイキングに關する團體の奨勵及び助成
 - 6、簡易にして清潔なる食堂の設備
 - 7、湯茶、菓子等の供給に對する特別の配慮
- 學生娛樂に對する積極的施設
- 1、名映畫、高級レコードの鑑賞會開催
 - 2、スポーツ、觀覽の奨勵とその施設
 - 3、學生自治團體の奨勵及助成

H、映畫利用率調査(都市年鑑より)

都 級	演 劇		リ入場頻度		リ館數		リ入場頻度	
	一〇萬人當 リ劇場數	一〇萬人當 リ入場頻度	一〇萬人當 リ館數	一〇萬人當 リ入場頻度	一二年	一四年	一二年	一四年
六大都市	〇・九	〇・六	二・二	一・一	三・六	三・九	七・〇	一三・九
二〇萬以上	一・六	一・二	〇・九	〇・七	三・三	三・五	五・五	七・八
一〇萬以上	二・五	二・三	一・三	〇・九	四・二	四・六	六・四	八・八
五萬以上	四・一	四・九	一・九	〇・九	五・〇	六・四	六・二	五・八
五萬以下	四・七	七・〇	二・六	一・三	七・一	五・〇	六・三	七・五
全國平均	二・七	三・二	一・八	一・〇	四・六	四・七	六・三	八・七
伯 林					九・〇			
ブレイメン					八・〇			

1、上海の娛樂場の種類及數(著者調)

正當のもの	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場	戲 場															
京 戲 場	三	二〇	二九	一	一三	四五	五	八	一三(二二)	射 的 突	三九	ナイトクラブ	一	キャバレー	一	ダンスホール	一	遊 戲 場	一	玉 突	一	射 的 突	一	ダンスホール	一	ナイトクラブ	一	キャバレー	一	ダンスホール	一	ナイトクラブ	一	キャバレー	一

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」について

クラブ(總會)

五二

茶館

五四〇

茶館

一

酒店

一、九九二

スポーツランド

スケートリンク

プール

ゴルフ

特異のもの

純賭博

ハイアライ

競馬

競犬

麻雀

一 一 三 一 一

J、企業性娛樂(抄)

The City-Stuart Alfred Queen

小都市には未だ精神映畫以外の企業性娛樂はない。

然るに大都市に於てはあらゆる種類のものがある。

Legitimate Vaudeville, burlesque 及映畫

娛樂園、カンサス市の Play-Mor の様な大娛樂中心、舞踏場、Cabarets 巡遊船、玉突、水泳場、

スケート場、職業運動の觀物場、競技場、等々。

それ等は純粹に見物向きである事もあれば賭博の對象になつてゐる事もある。

x

最近の企業性娛樂の王座は何と云つても映畫であるが、それに次ぐものはダンスホールである。

ダンスホールの中 Dance Palace は最豪華なもので特定のものしか入場出来ない。

それはダンスよりも社交が主だと云つてよい。

又、Dance Pavilion は多く都市の周邊で行はれるものであるが時には、娛樂場のアトラクションとな

つて出る事もある。

巡遊船や料理屋やホテル等でダンスが行はれる事もある。

Dancing Academies と云ふやうな少數高級なものが ballroom ダンスを味ふ事もある。

然し、その中で最も多いのは矢張り Taxi-dance ホールであるが、この女達は元來が家庭や、仕事等に失敗してなだれ込んだ連中でしまひには又こゝから下級の Cabaret に下つてゆく道程のものである。又こうしたダンスホールに惑溺する男はヒリッピン人や支那人等と云ふ他に社交的な場所を求め難い連中移民や五十近い老人で、ヤモメになつたもの、結婚が思はしくなかつた青年、孤獨な旅人、Worthless-trotter, Slammer, 等であり、先づハンチキヤツソのつゝた連中が性のたわむれに群れて來てる。

その他 Cabarets Night clubs, Road house 等にもダンスはあるが、質は下る一方で Road house に致しては犯罪性を帯び都市の警察圏の外へ外へと逃げて行く。

x

過去半世紀で企業性娛樂が非常に増へた、之は段々地方へ分散してゆく傾向がある。

x

娛樂の都市内に於ける分布。

下町 劇場、玉突、タキシ、ダンスホール

都心 大映畫館、ダンスホール、玉突 bowling alleys, social settlement 青年クラブ (YMCA 等)

山の手 少年團、婦人クラブ、近隣映畫館
市外 ヨルフ、Road house 娛樂園、競技場
公園や、運動場は全市的に擴がつてゐる。

K、文化政策論(近藤春雄氏)

取り扱ひ題目

一、國民演劇の創生

演劇 巡回演劇、移動演劇、野外劇場

舞踊 總親和形態の演劇

二、映畫藝術の高揚

三、國民構成と文化統制

x

具象的なそして協同體精神を基調とする特別な慰安施設を提供して、その精神生活を醇化潤澤にし、不純な不健全な享樂面の吸収力を終熄させて了ふ。

x

第一章 國土計畫の最終課題たる「生活計畫」について

所謂商業主義的企業形態による演劇映畫の興行性が勢ひ、その利潤獲得の目安を消費面の多寡により決定する結果都會集中主義を辿らざるを得ないのは當然の現象であつて、國民文化の醇化と向上に就て、當局自體が如何に無方針であり、これ等商業主義を放任したその惡果に注意を拂つて居なかつたかゞ遺憾ながら立證出来るのである。

×
かうした文化の國民層への開放運動に積極的協力を期待し得る集團として現存の青少年層を中心とする各種團體の動員を考へる。

×
農村演劇とは決して、都會的演劇の亞流であつてはならない。

×
士から生れ農村人士によつて創られ演技され鑑賞されてこそ云々。

×
青年團の喇叭鼓隊の編成も、單にそれが團と團員のみのためであるならば、尙、獨善孤立の誹りを免れな
い、……更に進んで、農村や市町の一般住民の夕べを慰むる手段として健康なる音楽と明朗なる唱和を送
るならば明日の勤勞の新しい源泉として云々。(資料の項終り)

此等の中第五系のもは少くも日本内地に於ては用ふ可からざるものに屬する。

その他の内容は總て重要であるが、たゞ日本今日としてはいずれにせよ、「保健」「隣保(國民心)」を主題とする内容及それに對する施設を第一位とす可きである様に思へる。

又、これ等の質的分類とならんで、規模的分類があり得る。それはこれ等の施設に高度なもの
と低度なものとの存在し、民衆は日常に於いては低度な規模に満足し、間歇的に高度なものを
求めるからである。而して、これは概ね民衆の生活の段階に應じて行はれる。

例へば、我々の生活が大體に於て、

日常生活
週末生活
月末生活
季末生活

等に分けられるとすればこれ等の施設も亦此の規模に應じ分類されることになるのである。

第三節 環境論

かくして、これ等の諸内容が環境に對し求める所を吟味するのであるが、此をその一つく

について行ふ煩瑣をさけて、こゝでは便宜上これ等の生活が更に次の四つに類別され得ると考へる事にする。即ち

- 教 養
- 朗 生 (慰樂生活を積極的に考へて)
- 保 健
- 隣 保 (或は社會的満足)

これ等の夫々が、その聚落的環境に對し如何なる條件を要求するか、これを土地秩序の角度より吟味して見る。

(イ) 保健生活

保健生活の要求する環境は云ふ迄もなく、清淨なる大氣、充分なる日光、廣濶なる空地であらう。

これ等を與へる聚落形態は、云ふ迄もなく小聚落性のものである。

大都市の形態は此の點では絶対に拒否される。

紫外線、空中塵、交通機關の排氣、騒音等如何としてもさけ難き惡條件が集積してゐるから

である。

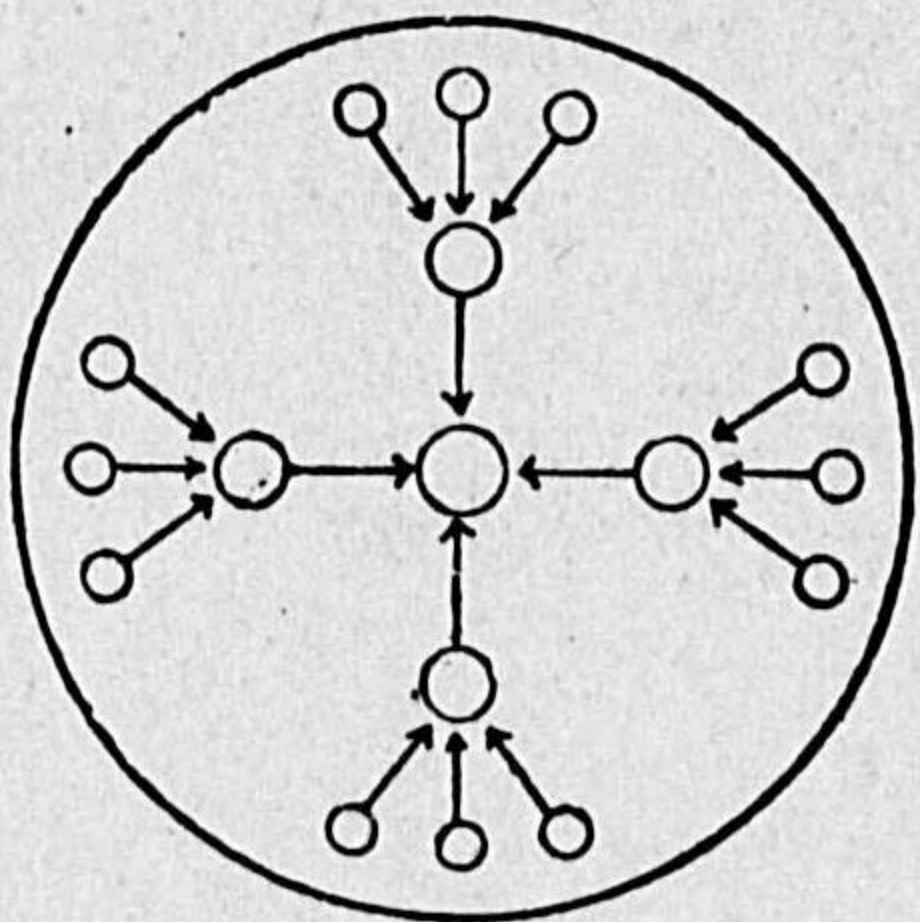
その結果、一九〇〇年來の都市計畫は大體この點に終始し、先づ人口五萬の田園都市論を出し、最近には獨逸のフェーダアが人口二萬の理想都市をあげて居る。

(ロ) 隣保生活

隣保生活についてもギリシヤ以來小聚落が行はれて居る。

プラトンが「都市の大きさは市民が相互に顔を見識り合へる程度を理想とする」と云つたのは常に正しい。

少くも今日の大都市の如く、近隣相互の職場を知らず、從つて相互に何等依存關係なく且つ意識し得る集團的限界がない場合、市民相互の感情にはいさゝかの温きものをも期待出來な



かくして、我々は、單位としての結び合ひを有たずして、何で全體の結合歸一を企圖する事が出來よう。若しそこに何等か精神的結合ありとするも、それは觀念の外の何ものでもあり得な

たゞ、これが保健の如き性質のものとは異なるは、その單位として望まれるものが小聚落であるとしても結局に於て人類はあく迄人類全體と結合する事を欲求してゐる事である。

而して、それが國家の程度に於て一と先づ一段落をつける事が世界を通じての要請である。

即ち、この場合、夫々の單位が小聚落であるとしても、その小聚落は又大きく結成されて第二第三の中心を結び、國家に迄統合される必要がある。

(これを假りに積分構成と名づけ得る)

(六) 朗生及教養生活

以上二つの生活は、夫々明快な條件を要求してゐるが、朗生及教養は聚落的な環境については、餘り明なものを求めて居ない。

たゞ朗生は自から隣保と通じ、教養は保健と同じ様な要求を有つてゐる様に思へる。

即ち朗生は過剰なる人口の集結を求めないが、然しさりとして、稀少なる人口に満足する事は出来ない。

又、教養生活はひたすら安靜なる環境を求めてゐる。これは小聚落の中に於て最本質的なものを與へられ得るかも知れない。

以上を通じて求められる條件は、大體に於て

小聚樂なると共にその積極的構成

とても云ふ可きであるが、此の他に聚落内部に於ては大體に於て夫々の生活專一なる事、安靜なる事等

が必要とされる。

この爲には騒音及通過交通等が拒否される事云ふ迄もない。

又廣場、等を與ふる事により環境條件が完成されるものである事も田園都市論者乃至ナチスの都市計畫家達が説く如くである。

「獨逸のジードルング」は次の様な事をのべて居る。

現代の交通機關は農村廣場、小都市の市場廣場から、そこに住む人達の社交集會場と云ふ意味を奪つた。嘗て、慰樂、討議、雜誌、子供の遊戯等の場所であつた所は、今日では騒音塵埃、生命の危険の場所である。

村落及小都市の住民の憎惡は、大砲の通過より寧ろかゝる重大なる公共社會の破壊にある

と云ふことも出来るのではないか。

新ジードルングに於ける廣場の形態については藝術的形態に對する原則は教へる事も規定する事も出来ないが、その外に尙次の見地より最大の考慮が拂はれねばならぬ。

先づ廣場が交通廣場として價值あるものであるか、若くは住民の生活に對する廣場として價值あるものを明にし確定せねばならぬ。

道路は次の様に區別される「通過交通用道路」「間地交通用道路」「住宅用道路」
通過交通道路は交通上の原理によつて設けられるもので、一方に於て、通過交通が成る可く障害を受けざる様、且ジードルングに迷惑を及ぼす事なき様配す可きものであり、他方ジードルングと外界との連絡をとる可きものである。(獨逸のジードルング終り)

第四節 人口の社會構成

さて、以上の如き「生活自體」を支持するのも人口であり、これを受容するのも人口である。人口の量は高度にして豊かなる生活を育生すると共に、人口の質は生活の質を高める作用を

有つ。

又逆に生活の中の文化自體が生活を深めてゆく事は云ふをまたない。即ち、これは相互に作用し合ひつゝ深めゆく働きを有つものであるが、然しいづれにせよこの際根基を爲すは人口の構成する「社會」である。

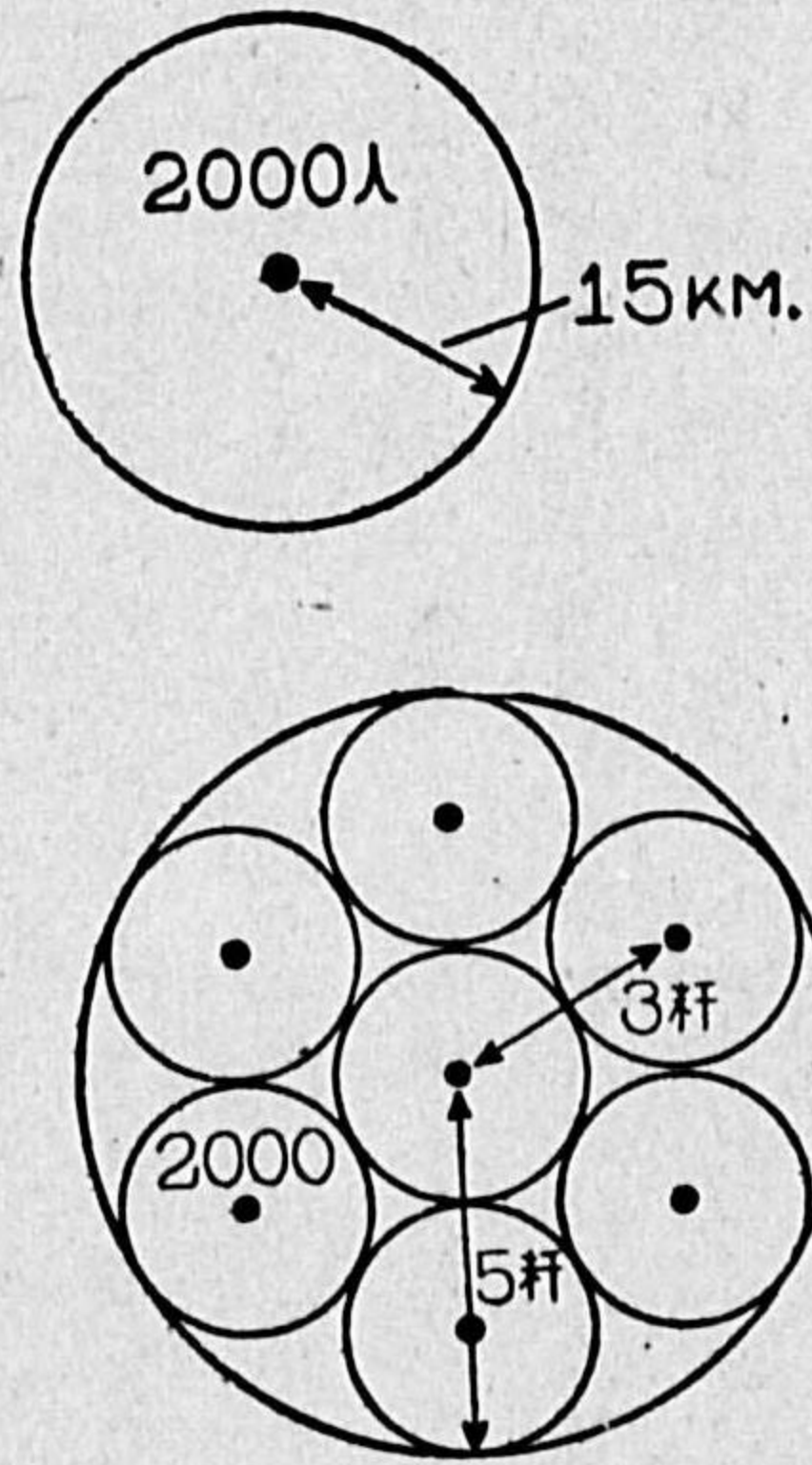
而してその「社會」は實に生活に於ける隣保生活がその單位となり隣保の精神が發展してその「社會心」となる。

構成

即ち先づ我々は最も望ましき形態としての居住聚落を構生する必要がある。

而してそれはその最初に於いて農地面積により決定せられる。

即ち先づ農耕半徑を一、五軒とすれば、耕



地各戸宛一町歩半として四百戸、二千人の聚落が出来る。

次にこの農村聚落の一群は、その中心約五軒の所に日常中心を抱く事になる、この中心人口

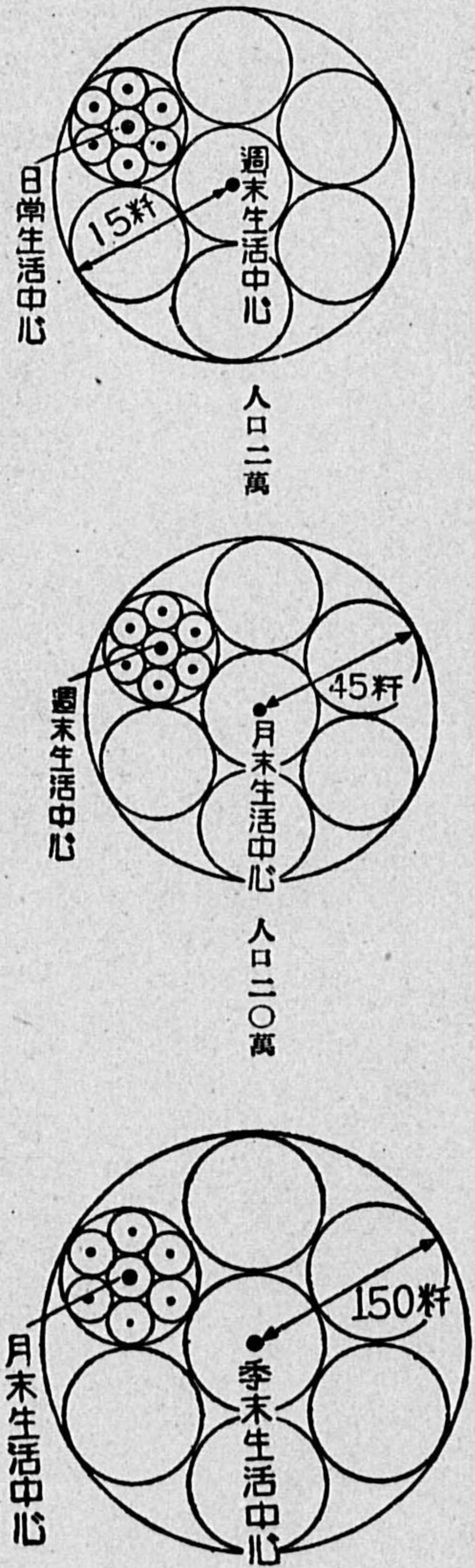
二萬とする(中二、〇〇〇はやはり農業人口)これはフューダーの考へる最適の都市人口である。續いてこれ等の日常生活中心が更に週末中心を抱く、これは通勤半徑より推定する、更に週末中心の中央に、月末中心が出来る、この半徑三〇—五〇軒であるが、これは中心都市影響圏の最大なものとして知られてる。

而して、これが一先の實際上の生活圏の最大限度であるが、更に強大なる都市を育生し得る場合には、この他に又季末生活中心として、巨大都市を有つ事になる、この半徑は恐らく人口移動圏よりして一五〇軒内外なる事を知る事が出来る。この場合の總中心人口は、五〇萬人以上となり得るであらう。

(これ等の人口計算は更に精細なるを要する)

かくして我々は、こゝに層々として築かれ行く聚落の構成する地方社會を得るのであるが斯くの如く、構成される社會が、即ち人類の希望する典型的なそれであるように思へる。即ちこの形に於いて我々は聚落内の隣人を明確に意識し、(そのような聚落は最大を二〇萬人とする事はソ聯の規定する所である)更に農業地帯によつて他と隔絶される事により益々血縁意識を深くする。

しかもそれは組織により明快に國家の大と血縁的密着を感得せしめる。



此は何としても人類の「最幸福」であり「最強大」であり得る形態である。

その醸成する効果は當然、人口の數學的な和に比して化學的に大なるものでなければならぬ。

たゞかゝる際に重要なのは、

結集せる施設の社會價值がその地方人口重心に近づく程重要なものである様な配置である事及びそれに對する紐帶としての交通機關が整備されて居る事である。

但しその整備度合はあく迄日常を最大とし季末を最小とするものでなければならぬ。

備考 農村聚落の中へ文化を分與する事については池田善長氏は

「農村に於ては生計狀況、換言すれば經濟的要件のみが其生活内容を支配的に規定するに比して更にその一要件として地方的中心地又は地方的文化中心地への距離的關係が多分に經濟的要件による規定を制約乃至阻止するの傾向があると斷じ得る。」とのべてゐる。農村社會生活の實態調査（日本社會學年報第三輯）

基礎條件

以上は人口の相互關係的社會構成であるが、これを完成せしめる基礎條件は、何としても各人口をして土地及び家屋をその土地に於て所有せしめる事、及びその土地家屋が永年居住の條件を具備してゐる事である。

この點に關しては、ナチスの採つた方法論は全く正しいと考へられる。

第五節 人口構成と生活構成の複合

さて、以上の如き人口構成となつた時人類は最強大にして最聰明となり得るのであるが、かかる時の生活配分は如何に行はれるであらうか。云ふ迄もなく小聚落であり積分構成なるが故

に、總ての生活環境は満足される。而して問題は施設であるが、これは云ふ迄もなく支持人口の累積により重心に近づく程高度且つ豊かになる。

これは社會結成を有效ならしめると共に、地方分權を可能ならしめる。

而して人口集結圏が小さくなるに従ひ、支持人口も減じ自から規模の小なる施設を分派する形を採る。

それは、結局、季末、月末、週末、週末、週末、日常の級に従ひ、季末より日常に向ひ、放射的に擴がる形を採る。

これは人口が、あたかも周邊聚落より發して大集しつゝ、中心を抱く形と相補足し、完全なる一體を成す如き外觀を與へる。

かく二つのものが、一體を形成する時、社會化された人類は、その社會構成的効果により、生活を支持し質を上等ならしめる。

又生活はその働きを交流して社會を向上せしめる。この形は地方構成の最上のものと云はざるを得ない。

第六節 二、三の吟味

かくして提示されたる此の案は、尙二三の吟味を残して居る。

大都市構造に對して

その第一はかくの如き結果は現代大都市の構成をそのままにては果し得ざるか——と云ふ事であるが、これは、否である事云ふ迄もない。

先づ、現代都市は、環境條件の一切を失つてゐる。

又施設としては、人口結成が自由放任である爲、一つの施設は支持人口を確保し得ない。

従つて、中心施設は最高度なものを得易く、此の點、此の案の示すものより利であるが、その二次三次的な局所的なものを育生する事が出来ない。

又、此の自己の存在を失ひ、全體結合の途を認識する事の出来ない人口は、虚無的になつてゐる。

この虚無人口の構成する全體の社會的結果は頹廢的なものでなければならぬ、従つてその育生生活——特に文化は健全であり得ようはずがない。

従つてその交互作用は國家を決して幸福に導かない。

食糧自給の計算

一つの地方が食糧の自給性を有たなければならぬと云ふ事は、今日の國土計畫の通則となつてゐると云つてよゝ。

縣名	總人口	都市人口	農業人口	全面積	都市面積	(作付面積)	收石高
埼玉	153万人	17万人	43万人	38萬町歩	0.72萬町歩	(農業面積) 17(14)	291
群馬	125万人	23万人	31万人	57萬町歩	0.53萬町歩	12(9.5)	191
岐阜	128万人	17万人	70万人	56萬町歩	0.05萬町歩	12(9)	150
標準化(埼玉を標準とす)							
規畫	—	250	70	60	—	27	460
埼玉	153	—	43	38	—	17	291
群馬	125	—	31	57	—	12	205
岐阜	128	—	30	56	—	12	220

(統計は總て昭和十二年度以前)

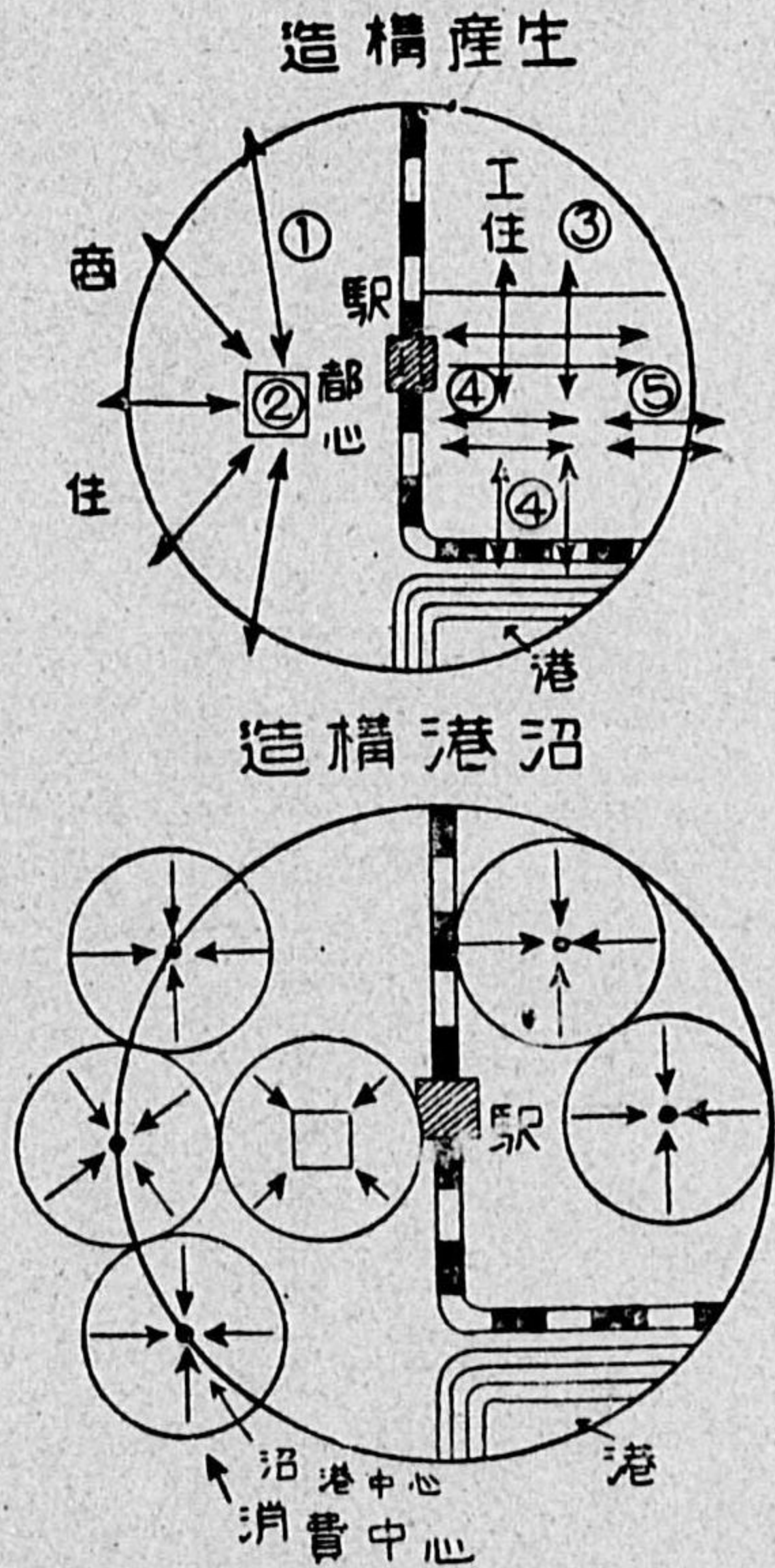
而して、それは規範計畫的な計算でゆけば、上述の案でそれが可能なのである。

自分はそれを群馬、埼玉、岐阜等の縣の實狀と比較吟味し、大差なきを見出したのである。

参、考

以上の参考として左の二論を添へる。

大都市の生産消費兩生活の構造



現代大都市は生産消費の二重の構造を有つてゐる。而して、その機構となるのは勿論生産である。

生産は更に工業及商事の二つに分かれその事は又次の様な働きを藏してゐる。

- 商事 通勤(1) 相互關係(2)
- 工業 通勤(3) 運轉中心との關係(4) 相互關係(5)

これが現代都市の機構であるが、現代大都市の玄妙さは、更に此の上に徒歩を主とし通勤交通機關を補助として、全然別系統の消費組織を成立せしめてゐる事である。

此の夫々の中心は、盛り場と稱する區域でありそれは商店街を主體とし大體長さ七、八町、これは晝間は買ひもの中心、夜間は市民クラブ的使用されて居る。

此の中の大きなものは娛樂中心を有する。

此の娛樂中心は映畫館を主體とし、商店街と丁字構を成してゐる。

かくの如き中心を核とし、半徑一軒内外の地域が集結されてゐる。

此の人口大凡一〇—五萬人であるが、此の状はまことにギリシヤ以來中世に到る都市人が、徒歩半徑の都市を造り、その中心に市民廣場を設け朝夕そこに會し、時に市を開き時に宗教上の催事等をなしつつ愉快なる市民生活を營んだそれに酷似して居る。

現代大都市はかくる中心を全市に一つ設ければ足る如く見ゆるにかゝはらず尙舊の如く、徒歩半徑の集團の價値を墨守し、その夫々に中心を設け、それ等を併せて初めて聯合市を構成せんとして居る。此の點誠に興味深い。

特に興味あるは、かくる際全市の中心の地價は、かく中心分裂せざる一〇萬人以下の小都市

中心地價に比し、はるかに割安なる事である。

中心地々價、人口一人當り(厘)

東	京	大	名	京	神	横	上	酒	敦	栃	高	中
京	阪	古	屋	都	戸	濱	田	田	賀	木	田	津
〇・六	一・三	一・八	二・八	一・七	一・一	五・七	六・三	三・二	八・六	三・二	九・九	

これは大都市の中心が決して完全なる全市中心でない事を立證してゐるのである。かくして、此の現代大都市の構造に於て「消費生活」が、強大なる生産構造の上なるにもか

はらず、平然と都市發達史以來の独自の形式を守れる事を見出し驚嘆すると共に、これをそのまゝ活かし、更に失へるものを回復せしめんとするのが、前説地方圏の構造であると云ふ事が云へるのではないであらうか。

まことに此の夫々の中心を一〇軒、三〇軒と離し、その間に農耕地帯を存せしめれば、そのまゝ「地方圏」が顯出するのである。

大都市の地方都市存立に及ぼす影響

大都市がいかに地方都市の後背地をうばひ、これを窮乏せしめつゝあるかを、我々は二三の實例によつて知る事が出来る。

その一つを、自分は所謂大都市圏の存在によつて示し得る。即大阪、名古屋、東京の如き強大なる都市は、その周圍に自己の力に應じ、都市圏を造る。例へば、東京は横濱、川崎の如き準、東京都市は別とし、七里圏内には實にしばらく「市」を育生せしめなかつた。

而してその影は遠く一〇〇軒に及び、そこに至つて初めて水戸、宇都宮、前橋、高崎、甲府、沼津等の地方首府級の都市の存在を許してゐる。名古屋、大阪も同様の美しき圏を有してゐる。

これは明にその都市自體の人口に力を及ぼせしのみならず、その周圍の下位都市を吸引した結果である。

地名	一五軒圍	三〇軒圍	六〇軒圍	八〇軒圍	一〇〇軒圍
關東平野 中心都市 東京 六六七	市川 川崎 二六五	横濱 千葉 大宮 浦和 九八八	熊谷 土浦 川越 八王子 四七四		水戸 宇都宮 桐生 足利 高崎 前橋 甲府 沼津 一九七
攝津平野 中心都市 大阪 三四五	西宮 堺 尼崎 一一一	神戸 奈良 岸和田 一〇二	明石 和歌山 大津 京都 二〇五	姫路 津 一一七	
濃尾平野 中心都市 名古屋 一二七	瀬戸 桑名 六六四	岐阜 大垣 岡崎 四日市 一四六	豊橋 津 一四七	宇治山田 五	濱松 一八

數字は人口萬單位

第二章 都力測定及都力より見たる

日本の國土構造

第一節 都力の標準とその表出

ちよそ一つの都市に就て、都市計畫その他の都市處理を爲す時、我々は常に莫然ながらその案が果して、市民自體の求むる所のものなるや否やにまどふ。その計畫が時に餘りに過重ならざるや、或はその都市本來の趣かんとする目標を失し居る様な事なきやを懸念する場合が多

5。都市計畫は、都市の整形外科手術である。外科醫が外科は外的處理なりとして内診をおこなふならばその結果は危険であるにきまつて居る。

都市計畫も、その意味で先ずその都市の容態を識つてから後、施すのでなければ効果ある仕事の爲し得様筈がない。その意味で自分はそうした場合必ず都力と云ふものを考へ、その測定

をする事をすゝめて居る。

而して此の事は近頃、國土計畫、地方計畫が漸く實施の氣運に際して來たにつけ益々その必要を憶ふのである。

云ふ迄もなく、此の國土計畫、地方計畫は大都市の處理、小都市の振興、都市の建設等から出發する。それは先ず都市の經營方策を定めそれが決定して「計畫」となる。

その「經營」となると此の都力測定なしには一步も前進し得ない筈である。

その他、都市計畫技術者でなく共、およそ都市を對象とする企業の関係は、その企業が都市の力及その「力の質の系數」として發展するものである事を考へるならば、都力測定は先ず第一次の仕事でなければならぬ。

又自治體振興の擔當者たる都市當事者は勿論の事、一介の觀光客と雖、旅先きの都市の力を知る事は徒らに舊蹟に倦みつゝ風光のみを求める旅に比しどれ丈、知性的な興味を加へ得るものであらうか。尤もさればと云つて此の自分の方法が唯一のものであるとは考へて居ない。

たゞ、是は自分の年來手なれたものと云ふ意味で將來の此の途の踏石として掲げ御參考に供し度いと思ふ丈である。

問題を嚴密にする爲には先づ何を以て都力とするか。又果して、そこに都力と云ふ様なものありやと云ふ様な所から出發しなければならぬのであるが、それは恐らく錯雜した論理の綾と長き時間を要する事とならう。

若し是等を実用價値に満足してよしとするならば我々は先づそこに「都力の存在」を認めてかゝつて好いと思ふ。現實に我々は發展力ある都市と發展力なき都市を認めて居るのである。

従つて問題は、その時に我々は、何を以つて都力と爲して居るか——と云ふ事に移る。

「我々は何を以つて都力となすか。」思ふに一つの都市に綜合せる「一つの力」を考へるわけにゆくまゝ。

都市は決して單一なる機能ではない。

それは、あらゆる機能の中樞部の集合體に過ぎない。

依つて此の「綜合」に對する力は量定し得ないのが當然である。

問題は、我々が、都市に對して「力」の對象として、要求してゐるものは何であるかと云ふ事から單純化してゆかなくてはならぬ。

而してそれは云ふ迄もなく、經濟力である。

此の經濟力も亦實際に於ては一箇のものとして、なく生産力と消費力とに分かれて表出して
る。

而して、此の夫々は決して必ずしも同一系式 function の中に入らなす。

此の夫々が單位として、獨立に都力を表はして居る。

然らば此の二つの都力は相互に何等關聯を有たないか——と云ふに、必ずしも然らずと云ふ
事にはなる。

それ等について解説を爲す前に、我々は先ず都力自體の標準について知らなければならな
す。

都力及其の標準については自分は年來、日常得易き材料により次の様なものを造つてゐる
(市政調査會出版都市年鑑より採り得るもの。)

一、生産力

- 甲、生産率標準 人口一人當 生産額二〇〇圓
- 乙、人口増加率標準 年 二%

二、消費力

- 甲、商 品 業
 - 地價率標準 最高地價 人口一人當 五厘或は最高地價 = $K \sqrt{V}$ / 人口
 - K は一般都市なら 2. 工業都市にては 1.
- 乙、歡 興 業
 - 甲、妓率標準 藝娼女給を併せしもの、人口千當り 五人
 - 乙、灯率標準 人口一人當 〇・九灯

三、蓄積力

- 甲、稅率(省接國稅)標準 人口一人當 五圓
- 乙、預 金 率標準 人口一人當 七〇圓

是れによつて都市は、都力の夫々を量定せられ、生産力強大なれば、生産型の都市、消費強
大ならば消費型、又以上の如く偏れるものは共偏性都市兩者相伴つて調和して居れば均正都市
と云ふ様な事になる。

均正都市にも強大なるもの、普通なるもの、微弱なるものある事勿論である。



偏性都市
 生産型
 消費型

次に是等を実數にて説明して見る。

先づこゝに甲乙丙丁の都市があり次の様な都力であつたとする。

	甲	乙	丙	丁
生産率	100	600	100	1000
人口増加率	1%	5%	1%	10%
地價率	二厘	五	七	一
歡興率	五	10	10	二
稅率	三	八	九	三
貯蓄率	20	70	70	20

此の場合甲、乙共に均性都市であるが、甲は微弱にして下降性を帯びてゐる。(東北に多い型である)

乙は、總ての條件に於て平均を越へ、隆々として上昇する天日の如き都市である。

丙、丁はいずれも偏性都市で丙はその中の消費型の都市である。

此は姉妹都市として附近に生産型の都市を有するのでなかつたら(後に説明)舊資本の商業活

動(問屋的)によつて餘榮を享受して居る城下町である。(金澤、仙臺の如き)

丁は恐ろしき勢で伸暢して居る新興生産型の都市で、自市内に消費力を育てる暇のなかつたものである。(川崎、八幡、尼崎、宇部等の如き)等々。

さて、こゝに興味深きは、是等生産消費兩力の相關であるが、是に次の様なものがある事が推定せられる。即、

イ、人口五〇萬以上の都市にては大體此の兩力は平均しその強さは中庸である。

ロ、五〇萬以下の都市にも勿論中庸なるものはあるが、此の級の人口の都市の中には屢々生産力乃至消費力の偏れる偏成都市が顯れる。

此の偏性都市が強大なる生産型である時、消費力は極端に貧し。

ハ、而してかゝる際には概ね此の生産力高き都市に對し既存の消費都市として一定距離にある都市が選ばれ、多くの場合は消費型の偏性都市となる。

都市の人口が五〇萬を越へると都市に何等か一つの質的變化を與へられるらしく、總ての力が中庸なる均整を保つて來る。

例へば、五〇萬を越へると生産に於て多く三—四〇〇圓、消費係數も地價をのぞき(是は都

心が分裂するので割安となる。(尤、 $\frac{2 \times \sqrt{人口}}{人口}$ の式に於ては變りない)大體中庸となる。然るに此の限界點を下ると偏性都市が顯はれる。

即八〇〇—一〇〇〇圓の生産率を示し、消費率、是に伴はぬものも及、地價率高く、五厘は遙か越へ、その他消費率に伴ふも、生産は二〇〇を下る低率と云ふ様なものが出る。

何故かゝる都市が顯はれるか——と云ふ生産型都市に對する説明は直に消費型の都市の解説にもなる。

而して是は都市現象及現代工業資本の性質上より説明し得るのである。(尤、人口量によつて生ずる限界的な問題についてはふれ得ない)

即、都市現象として、工業過重となれば、都市景觀の一際が消費に適しなくなりそこに當然(居住も併せて)消費の逃避が起る。

又、現代工業資本は、巨大都市以外の場合、不在資本である事が多く、その利潤の大部は資本所在の他の大都市に吸収される。又労働賃金はその正常状態に於ては甚だ低率で高度消費に適しなす。

しかも、その収益は工業の景況の變動により時に甚しく收縮する事がある。此は消費施設の

恒久なる支持力として好ましくなす。

又、かゝる都市は大工場多きを以つて自から工場内に配給機關が備はり、その働きは概ね巨大都市の配給中樞に吸収されてる。——かくして偏性する。

然らばかくの如き工業力強大なる偏性都市が出来上つた時、その消費は全部その工業力の源泉たるはるか遠在の大都市に吸収せられるかと云ふに勿論是は必ずしも然りとはならない。

我々の調査によれば都市生活圏の最大は一〇〇軒を中庸として三〇軒前後を限度としている。過生産都市からして逃避せる大衆消費は此の三〇軒の外周に踏み止まる事になる。

即かくして純粹消費の都市が姉妹的に發生する譯である。尤その際、これは發生の環境と核の存在する所、及これの常時の支持力ある所に育生する。

その意味では縣廳所在地と云ふ様な政治文化の所在地を選ぶ實例となつてゐる。然らば此の際、何故にかゝる都市が消費偏性となり易いか。

恐らく、それは既に地理的に工業的に立地性なき事、及特に地價の高揚等にも原因するのであらふ。

備考 都市勢力圏の三〇軒限界説は種々の方法で説明し得、又實現に實證し得る。

大東京の現況は勿論、長野の如き山間、東北の盛岡附近、臺灣等々いかなる部分でも、我々は消費中心の大なるものを六〇軒毎に有つ事になつてゐる。

以上、大體に於て都市現象に對する解説を爲したが、然らば一つの都市としていずれの都力を重視す可きか。

都力がいかなる状態にある事を理想となす可きか若干の問題が残る。

先ず純粹なる國土構成の理論よりすれば、生産が重要である事は云ふ迄もない。

對外的なる國力は此の生産力の綜合自體である。

然るに地方に於ける「市民として求める都力」は恐らく消費にある様に思へる。

消費率は結局に於て生産の成果が、その土地に吸収される指標であるからである。

よつて此の場合は、その都市現在の消費率の高き事が第一の條件。

第二としては、自市乃至その勢力圏(三〇軒以外)に生産力高き都市あり自市はその環境が消費に適し且その消費施設の月常支持の人口(或は出入人口)あり、而してその生産都市が、消費に適さざる状態にある事が望まじき事であらふ。尤、かくの如き「地方の構成的發展」の形式は

自市が縣廳所在地であるか、温泉その他の有力な消費を有せざる場合には困難である。

それ等の條件なき都市は先ず總ての基礎として自市工業を誘致しなければならないのであるがたゞその際、決して生産率が消費を壓する如き——即生産型の都市とならざる様、飽く迄均性都市たる事を企圖しなければならない。

その爲には生産計畫と併行し、強力なる消費計畫(都市美、公園、乃至商業中心の經營等)を伴ふ必要がある。

第二節 都力より見たる國土の構造

かくしてこれ等の都力により全國の各都市を量定して見る時、我々はその副次的産物として國土の構造を髣髴とする事が出来る。(尤、是には都市は結局に於て、その支配領域の文化の指標であると云ふ假定が必要である)

先ず人口増加率の分布に於て表日本に強力なる片寄りがある事は認めざるを得ない。而して、その重點が東京、大阪(名古屋を含む)北九州の三地帯にある事も既知の通りである。

たゞ我々は、此の東京、名古屋、北九州を結ぶ一線が約北緯三十五度線に沿ふ事に心附く。

これは或は此の間の風土が古來の日本の生産諸力の發展によき條件を與へ、その資本乃至習練を積める勞働質乃至商才等が益々こゝに今日の股賑を固めたのではないかと推測せしめる。

(雨量少なく日照時最も長し)

生産率の分布は當然人口増加率と形影相伴ふ。

そして是は人口増加率の分布の示すものを更に明確に限定せんとする如く配置されてる。

こゝに面白いのは人口増加率の補助指數として出生率及死亡率を調べると、又異狀なる現狀に當面する。

即、出生に於て四日市、高岡を結べる線以北が斷然高率。以南に於ては北九州稍高さに止りあとは殆曠野の感である。(これにより東北方面の人口増加率が生産と關係なく延びてゐるものである事が解る)。

是に對し早婚及、人的資源移出の價値をもつて説明せんとするものと、一つの風土地帶性を以つてするものとある。死亡率は更に奇にして、それは殆ど現在の股賑地帶及北緯三十五度線をさぐるかの如き感を呈してゐる。

これを、是等の地帶が股賑地帶に對し、先ず勞働力を補給し後にその廢疾者處理を引うくる故と説明せんとするものと、股賑地帶が股賑故に、その設備を十分ならしめたる結果なりと説明するものとある。

消費力指標としての灯率は、大體他の率と同じ配置を示してゐるが、たゞ中部日本に於て、一帯に北漸し擴がるは資源地帶を指向する以外の何ものでもない。

妓率は云ふ迄もなく、生産率に伴つてゐる。地價も亦同様である。たゞ地價の分布は稍散漫であり、中部日本乃至山陰北部にかけて高率である。

是は舊資本の所在としての表出であらう。地價に於て特に奇なるは明石、姫路、今治等此處に南北の強大なる軸が存在するらしき事である。

最後に税率の分布を見る時三度生産消費の結果の眞容にふれる。

而して大阪平野の強靱性と、瀬戸内海沿岸の豊かなる潜在力を感得するのである。

各都市人口比率其他に關する表及略圖を表示すれば次の如くである。

B

第二章 都力測定及都力より見たる日本の國土構造

種別 都市別	人口増加率(%)				死亡率(人口1000=付)			
	自大正14年 至昭和10年	自昭和5年 至昭和10年	自大正14年 至昭和5年	自大正9年 至大正14年	昭和11年	昭和10年	昭和5年	大正14年
千代田	27.6	12.7	13.2	21.0	20.1	19.9	22.2	24.7
東京	14.4	7.1	6.9	19.4	15.1	14.2	14.6	17.9
神奈川	90.6	64.5	15.8	15.0	15.8	14.9	17.1	16.2
千葉	18.3	2.7	15.2	18.2	15.9	15.9	16.4	20.2
茨城	31.0	17.8	11.1	19.4	14.9	14.4	18.1	22.7
栃木	9.5	0.7	10.1	15.8	19.2	18.4	19.9	23.0
群馬	45.9	16.8	24.9	26.1	17.2	16.2	15.8	15.5
埼玉	16.2	4.6	11.1	15.3	16.3	15.8	17.5	20.3
東京(西)	24.5	11.0	12.1	16.6	16.6	17.5	17.5	17.6
東京(東)	41.4	19.7	18.1	10.7	16.8	16.0	20.8	24.7
山梨	79.7	31.2	30.9	11.6	16.5	14.7	15.4	17.3
長野	15.6	1.7	13.7	18.5	15.2	14.9	13.9	18.0
新潟	29.2	11.0	16.3	18.5	19.4	18.1	17.9	21.8
富山	19.6	5.7	13.1	16.0	16.7	16.0	18.7	18.2
石川	15.3	6.6	8.2	10.2	17.2	16.3	17.5	21.9
福井	30.1	16.5	11.6	10.8	16.8	17.8	17.4	19.9
山梨	19.3	7.7	10.7	1.4	15.8	14.7	13.9	15.2
長野	38.3	9.9	25.9	22.8	16.7	16.7	17.6	16.9
新潟	16.6	7.3	8.7	21.8	16.1	14.3	18.5	19.0
富山	33.7	17.6	13.7	17.9	21.4	19.0	21.0	23.8
石川	17.0	4.9	12.1	20.8	16.4	14.8	17.0	19.5
福井	24.2	9.0	13.9	25.2	22.0	17.3	21.9	18.7
山梨	16.9	7.4	18.9	17.5	18.3	16.3	18.1	21.0
長野	15.7	7.7	8.7	23.0	17.5	14.8	17.2	16.2
新潟	22.4	12.4	13.7	3.2	20.0	21.5	17.0	20.7
富山	31.9	9.8	20.1	24.9	13.0	14.0	16.1	19.1
石川	31.4	14.7	14.0	16.3	15.4	14.9	15.8	18.4
福井	17.4	7.3	9.5	14.2	18.4	17.2	19.0	21.1
山梨	19.4	5.5	13.1	15.5	14.1	14.5	15.4	14.6
長野	23.5	12.9	9.5	13.9	17.4	16.2	17.7	19.4
新潟	17.4	7.0	9.8	11.6	17.4	14.7	15.5	20.0
富山	58.2	30.0	21.7	29.6	14.1	14.6	18.8	23.1
石川	11.4	5.0	6.1	8.7	22.0	20.8	20.4	23.5
福井	32.7	8.9	21.9	7.5	18.2	16.7	17.1	20.8
山梨	53.6	26.4	21.5	27.4	15.7	13.5	14.5	19.1
長野	15.5	6.0	8.0	17.0	15.1	16.3	16.0	20.2
新潟	27.3	6.5	19.5	37.6	16.8	15.2	16.0	18.2
富山	20.1	16.4	3.2	5.8	—	—	22.5	19.0
石川	27.0	17.9	7.7	19.1	15.3	14.2	18.1	18.8
福井	17.8	6.7	10.5	6.7	17.7	15.5	20.7	19.9
山梨	17.2	2.8	14.0	14.1	16.7	17.0	16.6	22.2
長野	22.5	7.4	14.1	22.2	16.8	18.0	16.3	16.6
新潟	13.1	12.8	0.3	3.7	17.6	17.2	18.5	19.3
富山	31.0	13.2	15.7	24.8	16.5	14.0	18.0	20.9
石川	17.1	7.2	9.2	13.4	25.4	—	22.2	23.9
福井	19.0	8.6	9.5	6.9	20.1	18.9	19.9	20.7
山梨	52.0	27.9	19.3	21.4	13.2	12.9	18.1	18.3
長野	15.9	1.8	13.8	17.3	20.2	20.2	21.6	22.8
新潟	24.0	11.3	11.4	17.1	14.4	12.6	15.8	16.5
富山	58.2	23.0	28.0	64.8	13.0	12.3	14.0	15.3

附表 各都市都力表

第一表A 各都市人口増加率及死亡率

種別 都市名	人口増加率(%)				死亡率(人口100=付)			
	自大正14年 至昭和10年	自昭和5年 至昭和10年	自大正14年 至昭和5年	自大正9年 至大正14年	昭和11年	昭和10年	昭和5年	大正14年
東京	43.5	18.2	21.3	22.4	12.7	12.9	13.0	16.1
神奈川	41.4	21.9	16.0	19.6	13.3	13.9	15.4	19.1
千葉	41.7	18.9	18.2	26.5	15.2	14.2	16.7	19.1
茨城	30.8	13.5	15.2	17.7	15.2	13.9	16.2	18.9
栃木	29.5	15.8	11.8	9.2	14.8	14.4	16.7	19.2
群馬	36.9	13.9	20.2	2.5	14.3	14.9	15.6	18.7
埼玉	29.9	14.7	18.3	23.0	17.3	14.1	15.8	18.0
東京(西)	39.2	16.3	19.5	15.6	18.3	16.3	17.4	17.8
東京(東)	36.8	21.6	12.5	5.7	14.7	13.3	14.7	17.8
山梨	62.4	34.1	30.9	14.8	17.8	17.0	18.5	21.2
長野	29.6	12.1	15.7	21.1	16.9	16.2	18.4	19.1
新潟	11.3	3.4	7.6	6.7	18.2	16.3	18.4	17.1
富山	26.5	5.2	20.3	13.3	15.0	16.4	18.4	21.3
石川	28.5	14.9	11.3	19.7	15.6	16.0	16.7	19.6
福井	31.6	12.8	16.7	42.0	18.6	18.3	22.2	22.2
山梨	43.7	27.2	16.9	6.7	11.9	12.6	13.0	16.7
長野	21.3	3.9	11.4	13.7	17.9	16.3	17.5	19.4
新潟	9.8	3.4	6.1	7.1	22.8	20.3	22.3	22.7
富山	56.0	28.2	18.4	11.0	14.8	13.9	14.9	13.7
石川	18.7	9.3	8.6	18.6	15.3	15.7	16.5	15.2
福井	22.5	12.0	9.4	14.9	16.6	18.0	16.7	20.8
山梨	80.1	32.8	35.6	40.7	12.8	14.5	15.0	20.3
長野	24.3	11.8	11.2	7.9	17.1	15.1	15.9	16.9
新潟	45.4	22.0	19.2	12.6	15.3	12.8	17.1	19.6
富山	14.2	6.0	7.7	24.4	18.9	16.6	17.9	20.4
石川	29.6	17.7	10.3	19.1	16.5	15.5	17.0	20.6
福井	10.9	9.5	6.4	16.5	17.3	14.7	17.9	18.4
山梨	18.7	1.5	17.0	16.4	16.6	15.0	14.6	18.9
長野	87.4	39.0	20.5	27.7	13.1	16.4	17.1	20.6
新潟	51.2	22.9	23.1	5.4	18.3	17.6	19.1	24.5
富山	23.9	7.9	14.8	18.2	16.2	15.2	16.6	19.9
石川	21.9	8.7	11.2	27.0	18.2	16.5	17.8	20.4
福井	22.7	12.5	9.1	10.9	16.6	15.5	17.6	17.1
山梨	15.2	7.6	7.0	9.4	19.7	19.3	19.8	23.6
長野	141.1	52.2	58.4	50.6	—	—	16.8	16.1
新潟	19.8	7.9	11.1	9.6	18.0	16.9	18.5	17.3
富山	20.8	5.0	15.1	19.6	15.6	16.4	16.3	19.0
石川	19.9	8.8	10.2	13.0	16.2	13.8	14.8	16.2
福井	18.8	3.3	15.1	14.2	21.7	20.6	21.5	24.9
山梨	20.3	13.8	14.9	25.9	20.5	20.0	20.5	22.2
長野	52.8	24.7	22.6	37.8	13.7	13.6	14.9	17.8
新潟	35.5	18.9	14.0	6.9	18.9	20.3	23.0	23.2
富山	27.3	10.7	14.9	16.1	18.2	15.7	18.9	19.6
石川	20.2	10.3	14.1	18.0	20.7	19.4	22.0	24.0
福井	60.1	31.3	21.9	11.2	14.0	13.3	15.1	20.1
山梨	16.4	6.5	9.3	10.7	19.9	18.9	20.3	28.7
長野	20.8	8.7	11.1	15.9	18.0	17.5	17.2	19.4

第二部 國土計畫に關する特殊論考

第二表A 各都市人口一人當生産物價格 (生産率)

年 度	昭						
	和5年	和6年	和7年	和8年	和9年	和10年	和11年
東大古	228	251	161	231	261	291	321
京阪	389	343	367	458	532	525	572
名京	308	301	316	405	453	483	477
神	223	208	208	228	259	276	305
古	411	281	296	380	434	490	516
廣	431	—	268	333	428	530	647
福	332	276	275	308	296	333	388
八	157	157	165	154	112	162	193
仙	79	61	61	60	61	71	71
長	86	86	70	105	94	116	1,370
須	85	85	76	95	94	108	128
世	284	284	188	168	242	370	298
兒	116	102	94	97	100	107	107
歌	240	202	226	248	341	804	336
和	136	98	92	100	124	118	119
川	28	—	33	287	31	24	24
松	132	227	227	220	221	233	233
演	173	166	166	206	267	258	320
小	52	52	49	51	53	49	54
坂	99	87	82	90	125	110	108
下	533	467	509	816	609	602	720
壘	1,558	—	1,045	1,661	1,706	1,903	1,987
尼	235	194	206	249	247	292	313
小	317	237	285	371	369	494	454
坂	133	94	99	258	131	178	179
新	402	361	393	510	578	557	534
門	151	111	175	189	204	248	287
德	278	219	229	258	216	309	303
大	246	1,124	1,048	1,328	1,387	2,375	1,557
甲	146	246	266	363	531	431	446
高	154	177	225	213	250	250	280
青	—	443	320	338	327	387	387
西	527	527	493	628	536	757	603
留	244	217	217	282	287	316	317
福	477	477	422	560	624	826	800
久	—	196	137	133	208	225	225
旭	43	332	342	457	468	482	427
桐	115	107	110	119	133	136	121
富	94	94	86	140	151	164	150
山	—	382	417	542	570	640	677
生	376	344	344	426	429	366	496
川	231	231	312	553	464	453	464
生	127	86	96	123	114	136	136
山	648	432	453	648	631	530	491
松	233	179	167	176	197	233	277
高	159	136	136	161	170	192	192
千	—	84	102	109	130	130	146

第二章 都力測定及都力より見たる日本の國土構造

C

種別 市名	人口増加率 (%)				死亡率(人口1000=村)			
	自大正14年 至昭和10年	自昭和5年 至昭和10年	自大正14年 至昭和5年	自大正9年 至大正14年	昭和11年	昭和10年	昭和5年	大正14年
島根	12.1	6.7	5.1	7.7	21.0	18.0	20.9	20.5
福松(福島)	17.2	6.1	10.4	15.7	17.7	19.8	17.7	19.8
若尾	11.3	6.1	4.9	13.0	17.1	15.5	18.1	18.0
尾半	13.1	6.6	5.8	7.3	15.1	15.7	19.0	19.7
浦直船明豊	8.2	7.2	0.9	2.9	—	—	—	—
和方橋石中	64.4	20.4	36.6	41.5	12.6	12.6	14.4	15.4
三原	— 3.5	9.7	— 11.9	— 5.8	18.5	16.9	15.4	20.5
三原	35.6	16.8	16.1	24.4	—	—	18.0	21.4
三原	14.5	9.4	4.6	12.5	16.8	16.6	16.8	18.0
三原	116.1	50.4	43.7	46.0	—	—	10.2	16.6
三原	45.2	37.0	6.0	3.0	—	—	20.0	18.5
三原	22.0	11.4	9.5	9.4	15.6	17.6	18.6	20.1
三原	20.7	14.5	5.4	56.2	19.6	15.8	17.8	17.7
三原	21.0	0.9	22.1	13.4	19.8	16.7	17.2	20.8
三原	14.6	3.4	10.8	17.9	18.8	19.1	20.7	23.2
三原	76.4	26.9	39.2	25.7	19.8	21.2	21.8	24.8
三原	61.0	18.4	36.0	8.9	—	—	15.3	17.0
三原	14.7	4.8	9.4	14.4	15.1	17.2	15.9	17.4
三原	19.8	8.5	7.8	12.8	18.9	19.3	19.6	21.4
三原	14.9	7.2	7.2	9.6	—	—	19.9	22.0
三原	14.3	5.6	8.2	5.6	18.3	17.8	17.4	18.9
三原	14.6	7.2	6.8	19.1	18.6	18.3	18.3	22.4
三原	24.7	15.3	8.2	15.3	17.4	14.9	16.7	14.1
三原	18.6	23.3	9.9	10.7	—	—	7.7	5.7
三原	21.3	10.9	9.4	16.6	16.4	17.4	15.9	20.8
三原	12.2	4.8	7.0	15.1	—	—	18.0	21.2
三原	55.5	40.9	10.3	7.9	16.7	—	18.8	17.3
三原	12.2	7.5	4.4	11.3	21.2	17.9	16.6	15.7
三原	10.3	2.9	7.2	19.5	18.8	17.4	18.9	21.9
三原	8.6	0.7	7.8	8.8	16.1	15.2	15.9	18.8
三原	31.0	9.1	20.1	16.0	20.4	19.4	20.5	23.1
三原	13.6	10.7	2.6	1.5	19.1	20.5	22.0	21.8
三原	— 1.9	1.5	— 3.4	— 11.0	21.7	18.5	22.3	21.2
三原	7.8	1.4	6.3	5.1	—	—	16.3	17.2
三原	14.7	5.3	8.7	12.6	17.5	19.8	15.9	22.0
三原	21.2	12.0	8.5	4.9	—	—	18.3	22.8
三原	14.5	5.6	8.5	11.4	—	—	16.1	17.7
三原	10.9	6.6	4.1	7.1	20.3	18.5	22.9	20.9
三原	1.3	1.1	0.1	8.8	21.7	21.2	16.6	20.8
三原	12.0	5.2	6.5	10.3	17.9	—	20.9	20.8
三原	12.1	16.2	5.6	11.7	16.2	16.8	18.5	17.4
三原	26.3	14.8	11.0	4.7	—	—	21.6	25.7
三原	17.6	4.3	12.8	14.9	15.6	19.2	16.0	—
三原	5.9	2.7	3.1	14.3	16.2	15.9	17.6	17.9
三原	13.7	3.2	10.1	10.3	—	—	16.4	15.8
三原	7.1	1.3	8.6	12.0	—	—	14.8	19.3
三原	65.3	25.4	22.2	24.9	—	—	17.3	18.2
三原	6.2	4.0	2.2	9.9	16.2	17.8	—	19.2
三原	78.8	42.2	25.8	13.1	—	—	—	—
三原	9.3	11.6	2.1	18.8	—	—	—	—

第二部 國土計畫に關する特殊論考

C

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

年度 都市名	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
鳥取	—	61	66	104	102	143	135
福島	—	106	114	128	115	122	120
松(福島)	—	124	117	139	151	152	159
若尾	—	171	171	134	125	150	157
尾浦	—	—	—	—	24	49	42
直船	—	—	97	05	105	178	189
明三	—	—	—	—	—	63	—
三岸	—	191	164	201	336	338	314
和	—	—	—	—	—	—	404
平飯	—	323	439	489	599	544	581
米帶	—	—	—	—	—	—	—
釜	—	—	210	216	264	332	255
熊鶴	—	—	124	159	195	247	200
桑津	—	142	100	110	97	129	164
松	—	—	47	273	61	63	63
谷岡	—	—	—	—	—	1,503	1,503
名山	—	—	309	—	187	339	319
山阪	—	92	121	162	189	189	187
敷谷	—	—	—	—	—	—	429
條根	—	157	162	172	162	181	193
山	—	—	161	193	237	308	513
口越	—	—	—	—	—	—	—
田卷	—	337	364	491	987	568	547
宮	—	—	—	—	310	620	628
萩	—	—	—	—	135	165	179
知	—	—	—	—	—	495	—
山田	—	—	—	—	—	850	703
木津	—	64	69	68	72	73	88
津	—	102	195	197	206	247	277
幡	—	—	116	139	105	155	175
山南	—	—	133	156	170	178	184
南	—	—	148	194	243	232	291
龜	—	87	189	234	262	192	159
田海	—	—	—	—	—	213	203
里	—	—	—	36	54	38	63
飯熱	—	—	—	—	—	126	170
首	—	—	105	122	173	176	21
高八	—	128	126	131	132	145	149
中	—	—	—	—	—	295	356
高海	—	284	367	429	336	348	353
海	—	—	—	—	—	—	116
九	—	—	261	—	436	385	488
飯熱	—	227	200	216	211	318	341
首	—	—	—	—	—	55	87
田海	—	—	—	—	—	102	118
里	—	82	100	118	119	130	101

B

第二部 国土計畫に關する特殊論考

年度 都市名	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
宮岡	48	73	71	60	107	135	118
橋崎	—	—	308	513	972	674	889
山	227	146	155	188	151	234	240
宇延	340	229	256	303	345	491	581
前岡	138	125	125	134	138	149	147
松	—	—	—	—	—	—	—
宇長	302	250	280	340	468	655	107
若松	67	61	71	78	70	83	85
(福岡)	319	319	314	430	491	574	554
津烟	—	86	79	635	715	541	520
大戸	448	448	399	689	1,029	1,212	688
松盛	171	132	107	143	108	154	182
山	88	71	79	77	83	89	82
津	60	58	64	73	76	686	91
室	329	282	346	440	454	495	582
蘭	279	198	166	275	382	498	498
那宮	62	62	55	60	66	83	82
高八	136	97	86	102	105	136	149
水	167	172	209	221	209	257	238
府岡	94	124	159	152	98	187	187
分子	143	207	276	208	203	267	297
水	—	58	57	58	55	58	62
別長	146	133	128	153	161	201	189
大鏡	186	164	196	241	218	233	225
清	—	—	266	321	336	391	486
子田	174	166	175	284	236	256	736
王	349	349	348	375	382	271	329
日	68	72	94	80	83	92	89
四福	—	76	76	94	89	109	234
川高	327	233	283	510	620	615	649
高	—	238	238	262	284	286	334
一奈	—	—	—	607	562	733	667
郡防	228	193	241	293	343	323	322
大松	—	100	94	116	140	164	164
宇	145	520	525	663	694	709	811
治山	—	145	156	166	191	211	284
山	228	309	231	253	247	256	215
江田	—	—	—	—	—	—	298
宇	—	124	124	127	1,148	976	1,051
今米	267	184	188	220	255	275	142
沼弘	—	420	420	578	619	788	796
佐	—	134	149	175	176	125	124
濱	—	126	134	173	168	192	278
宇	—	115	91	109	111	157	172
足	—	167	185	198	222	227	235
市	—	229	313	314	230	267	300
和	—	175	175	139	173	—	229
島	—	337	379	474	495	436	455
別	—	—	—	—	737	874	732
川	—	—	—	—	—	—	—

B

都市名	人口 昭和10年	カフェー 及 女 給	酌婦數	藝妓數	娼妓數	計	人口 1,000人 當
千代田	87,551	382	85	138	82	687	7.8
東京	87,129	325	194	146	148	723	8.3
神奈川	76,544	95	—	138	27	260	3.4
大阪	87,181	395	124	216	—	735	8.4
京都	77,195	160	72	499	304	1,041	13.5
名古屋	81,940	215	422	281	31	959	11.6
福岡	76,642	112	234	119	176	641	8.4
札幌	77,325	151	96	164	101	512	6.6
仙台	73,345	154	400	159	68	841	11.5
大津	71,003	62	41	135	125	363	5.1
神戸	67,800	117	488	62	—	667	10.0
横浜	73,353	165	73	262	87	587	8.0
新潟	69,130	149	33	110	37	329	4.7
金沢	69,931	61	128	91	20	300	4.3
盛岡	67,881	215	392	193	51	851	12.5
水戸	65,095	250	269	109	32	660	10.1
宇都宮	65,208	29	0	247	599	881	13.5
前橋	64,724	83	—	141	110	334	5.1
高松	62,283	201	232	114	—	567	9.1
松本	62,210	239	73	72	—	384	6.2
富山	63,816	170	298	160	—	673	10.5
石川	62,345	78	457	315	67	917	14.7
福井	62,152	100	—	219	79	398	6.4
岐阜	61,732	30	58	72	179	339	5.5
長野	60,712	22	317	60	19	418	6.9
山梨	61,123	72	306	92	88	558	9.1
甲府	59,494	256	—	116	72	444	7.5
長野	60,646	139	88	82	—	309	5.1
青森	60,239	68	—	89	74	231	3.8
岩手	58,471	172	85	152	90	499	8.5
秋田	58,186	150	158	49	—	357	6.1
山形	58,716	147	149	48	—	344	5.8
宮城	57,249	59	205	205	—	469	8.2
茨城	56,170	494	131	116	119	857	15.3
栃木	53,376	135	163	403	—	701	13.1
群馬	55,494	212	285	113	285	891	15.9
埼玉	54,709	45	144	100	10	299	5.5
千葉	51,402	77	47	79	130	333	6.5
東京	51,129	90	—	315	120	525	10.3
東京	52,016	105	5	183	72	365	7.0
山梨	52,494	226	399	201	184	1,010	19.9
山梨	51,602	143	347	112	—	602	11.7
山梨	50,448	45	163	42	—	250	4.9
山梨	49,824	190	146	146	35	517	10.4
山梨	50,717	230	118	34	—	82	1.6
山梨	50,154	42	198	122	60	420	8.4
山梨	47,553	172	47	119	—	338	7.1
山梨	51,380	60	156	156	—	491	9.6
山梨	48,875	117	182	182	11	485	9.9

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

第三表A 各都市人口一人當女給・酌婦・藝妓・娼妓數 (妓率)

都市名	人口 昭和10年	カフェー 及 女 給	酌婦數	藝妓數	娼妓數	計	人口 1,000人 當
大東	2,989,874	24,550	—	12,029	7,097	43,676	14.6
名古屋	5,895,882	20,740	776	7,669	8,236	37,421	6.3
東京	1,110,314	2,301	2,312	2,402	2,491	9,406	8.5
大阪	1,080,593	1,168	2,374	1,561	3,524	8,627	7.9
京都	912,179	6,937	2,182	2,133	1,808	13,060	14.3
神戸	722,902	2,770	185	1,237	688	4,860	6.7
横浜	310,118	1,050	685	553	—	2,288	7.4
福岡	291,158	491	636	1,019	330	2,476	8.5
仙台	234,333	211	1,165	278	—	1,654	7.1
大津	212,473	221	710	287	234	1,452	6.8
新潟	219,547	211	182	191	220	804	3.7
金沢	225,158	212	1,169	356	—	1,737	7.7
前橋	207,480	548	177	301	136	1,162	5.6
高松	200,737	156	659	202	213	1,230	6.1
松本	196,541	1,411	365	413	227	2,416	12.3
水戸	187,188	488	385	140	100	1,113	5.9
宇都宮	191,730	81	379	107	687	1,568	8.2
前橋	174,659	165	—	412	—	577	3.3
高松	187,889	82	944	298	—	1,294	6.9
松本	181,736	315	126	307	418	1,166	6.4
山梨	179,732	716	533	332	—	1,581	8.8
山梨	169,012	370	—	107	195	671	3.9
山梨	166,144	491	714	421	505	2,131	12.8
山梨	147,243	276	795	700	247	2,018	13.7
山梨	153,597	606	396	228	49	1,279	8.3
山梨	144,866	454	60	518	572	1,594	11.0
山梨	153,830	321	198	572	110	1,201	7.8
山梨	140,735	123	197	457	459	1,236	8.7
山梨	125,558	652	206	61	—	919	7.3
山梨	129,215	217	495	187	249	1,148	8.9
山梨	134,992	284	—	293	238	915	6.8
山梨	128,721	495	—	784	335	1,614	12.5
山梨	121,611	258	106	215	114	693	5.7
山梨	122,394	150	133	305	262	880	7.2
山梨	95,898	436	—	—	—	430	4.5
山梨	104,992	28	346	323	191	888	8.5
山梨	103,350	—	321	263	116	700	6.8
山梨	91,375	440	388	218	108	1,154	12.6
山梨	103,405	185	326	130	328	969	9.4
山梨	93,414	338	223	124	—	685	7.3
山梨	89,909	472	258	123	315	1,168	13.0
山梨	91,203	177	202	289	169	837	9.1
山梨	91,920	89	398	409	104	1,000	10.9
山梨	91,021	304	303	168	97	877	9.6
山梨	83,948	259	60	242	—	561	6.7
山梨	89,127	94	229	184	41	548	6.1
山梨	86,840	203	130	141	126	600	6.9

第二部 国土計畫に關する特殊論考

第四表A 各都市藝妓數

都市名	年末現在				
	昭和5年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和12年
東京	10,220	9,640	10,192	11,288	12,026
大阪	4,723	6,250	6,711	7,148	7,669
名古屋	2,773	2,283	2,484	2,321	2,402
京都	1,731	1,601	1,543	1,603	1,561
神戶	989	989	1,885	2,040	2,133
横濱	1,002	1,046	1,083	1,175	1,237
福岡	—	558	556	553	553
廣島	855	863	932	932	1,019
仙台	—	231	232	278	278
八戸	250	255	283	277	287
仙台	228	198	119	189	191
仙長	—	—	—	350	356
函館	334	254	288	285	301
静岡	183	190	168	220	202
札根	424	501	436	524	413
須賀	277	141	158	208	140
熊鷹	435	433	357	422	427
佐鹿	839	687	818	818	412
鹿島	360	360	360	298	298
歌山	395	301	342	279	307
山形	—	410	410	317	332
山松	92	29	90	91	107
川崎	—	368	402	430	421
濱小	536	554	76	583	700
小樽	319	226	202	235	228
堺	454	441	492	475	618
下關	670	556	672	604	672
豊尼	514	481	625	521	457
小倉	42	42	48	49	61
新門	161	147	190	195	187
徳大	—	312	311	359	293
甲斐	405	635	—	873	784
高青	213	212	201	191	215
西	370	250	256	282	305
留	215	256	295	342	323
甲斐	139	254	190	232	264
高青	205	141	179	209	218
留	121	97	97	106	130
留	207	148	135	201	124
留	15	84	97	106	124
留	16	389	410	476	289
留	384	381	337	361	404
留	206	261	280	284	168
留	159	183	183	183	242
留	148	160	160	199	184
留	314	145	130	149	143
留	137	137	156	130	138

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

C

都市名	人口 昭和10年	カフエー 及 ベ 給	酌婦數	藝妓數	娼妓數	計	人口 1,000人 當
市川	46,711	75	131	131	—	237	5.1
尾松	43,545	111	107	107	88	806	18.5
若尾	48,507	62	92	92	79	333	6.9
尾松	48,574	23	176	176	—	302	6.4
尾松	47,868	163	75	75	—	586	12.4
半浦	47,814	42	174	174	—	333	7.0
直船	44,328	185	59	59	—	279	6.1
船明	43,943	51	133	133	121	642	14.4
船明	43,020	134	54	54	178	394	8.6
船明	42,644	290	143	143	126	782	17.6
豊三	36,688	92	—	—	—	92	2.5
三岸	36,831	63	68	68	—	154	4.2
和	39,097	114	149	149	—	263	7.2
和	38,348	114	40	40	104	258	6.8
和	39,629	72	217	217	—	1,026	25.1
米帶	45,660	147	100	100	—	326	7.2
金熊	35,695	237	64	64	15	554	15.3
熊鷹	36,230	140	42	42	47	271	7.4
熊鷹	37,949	112	84	84	—	277	7.4
熊鷹	37,224	17	40	40	36	202	5.4
桑津	37,291	35	146	146	125	438	11.8
松倉	36,092	111	65	65	87	433	11.8
松倉	35,661	77	147	147	112	567	15.7
松倉	34,716	307	40	40	149	667	18.6
松倉	41,333	4	73	29	—	106	2.9
三彦	34,649	19	—	72	40	137	3.8
彦德	35,306	11	80	75	77	243	6.7
德山	32,062	167	129	93	194	580	16.3
山川	34,803	53	228	96	97	474	13.6
山川	35,192	94	57	33	—	584	16.3
上石	35,380	90	65	102	33	290	8.2
石新	33,530	133	239	66	—	438	12.5
石新	32,055	196	105	172	102	575	16.7
萩	32,587	67	63	35	31	186	5.3
萩	32,451	58	50	62	150	310	8.6
酒敦	31,866	—	116	21	36	173	4.8
敦	30,911	129	35	57	69	290	8.1
敦	31,335	106	155	79	22	361	10.1
敦	31,058	23	116	116	97	352	9.8
敦	31,284	71	—	96	60	227	6.4
八中	30,500	71	87	84	—	242	6.7
中海	30,328	50	62	33	—	149	4.3
丸	28,962	47	—	103	55	205	5.7
丸	29,917	151	290	99	—	540	15.1
丸	29,615	50	7	111	172	349	9.8
飯	28,990	170	448	166	25	809	22.8
飯	29,598	26	123	147	53	349	9.8
飯	21,831	50	123	168	—	341	9.5
飯	19,305	—	373	1	—	374	10.5
飯	31,604	73	243	72	—	388	10.9

第二部 国土計畫に關する特殊論考

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

都市名	年末現在				
	昭和5年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和12年
取島	115	103	182	102	107
福島	128	100	194	96	92
松島(福島)	152	209	215	232	176
尾山	—	93	82	75	75
道田	—	—	—	—	174
和方橋	—	65	38	61	59
石原	—	128	140	139	133
明三	103	—	—	53	54
三原	—	114	250	145	143
田塚	—	—	—	08	08
塚子	—	123	183	136	143
廣	152	45	34	41	40
石谷	125	165	154	207	217
岡名山	82	37	100	100	100
名山	—	147	64	62	64
阪敷	33	—	—	42	42
谷	106	68	39	83	47
名	68	86	82	77	6
山	—	75	61	70	65
阪敷	—	146	126	126	147
谷	—	39	42	42	40
俵根	—	—	39	23	29
三彦	—	62	58	67	72
三彦	—	—	—	77	75
山口	—	—	98	68	93
越田	87	89	85	94	96
田卷	50	47	35	56	33
卷	—	118	102	103	102
宮	65	65	72	48	66
山田	—	144	414	163	172
賀	50	33	37	51	35
賀	—	—	—	58	52
山田	50	60	43	42	21
賀	—	—	—	89	57
木津	—	—	—	62	79
田濱	—	62	62	92	110
津	132	79	52	67	96
濱	—	—	49	80	84
津	165	165	95	126	33
山南	—	—	—	85	103
龜	—	—	62	71	99
田	98	104	110	109	111
田	—	—	—	141	166
海	—	—	—	156	177
里	—	—	—	—	—
新	—	—	—	174	168
新	—	—	—	1	1
新	—	—	—	—	72

都市名	年末現在				
	昭和5年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和12年
宮岡	205	129	145	153	146
橋山	86	113	152	142	138
前	353	219	219	219	216
岡	369	467	474	377	499
松	183	183	238	254	231
都野	76	86	85	107	116
津	—	183	183	168	164
津	121	144	122	152	159
畑	165	160	123	131	135
畑	72	43	62	59	62
本	—	268	281	289	262
岡	128	190	344	106	110
形	182	85	85	83	91
津	214	196	172	172	193
室	96	89	94	99	109
關	—	341	136	303	247
關	382	212	144	134	141
崎	173	147	147	147	144
崎	82	76	83	69	72
崎	719	119	119	160	160
府	165	184	309	346	313
府	251	213	215	209	218
分	73	73	63	78	72
子	—	—	67	60	60
水	100	103	93	88	93
子	101	111	109	110	116
田	124	96	96	504	82
城	88	56	66	85	89
市	127	112	135	135	152
山	—	46	46	49	49
口	—	40	53	39	48
岡	165	177	177	112	207
路	128	168	175	197	116
宮	325	417	370	358	403
良	155	137	114	120	113
山	111	220	119	104	100
府	—	—	—	88	79
垣	210	282	320	280	317
江	149	165	168	185	183
田	237	220	220	220	201
治	107	170	72	122	112
澤	48	54	51	53	42
津	121	106	102	103	146
前	72	11	38	32	34
賀	—	105	105	132	122
戶	134	145	131	120	119
島	186	130	136	143	156
別	130	173	182	206	182
川	—	109	127	34	131

第二部 国土計畫に關する特殊論考

B

都市名	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
宇都宮	3.9	3.9	3.9	4.1	4.2
延岡	—	3.0	3.7	3.8	3.4
前橋	4.0	3.9	4.1	4.1	4.1
岡崎	3.0	3.0	3.8	4.1	4.0
松山	3.2	3.7	3.8	3.9	3.9
宇野	3.5	3.4	3.5	3.7	3.9
長野	3.7	3.9	4.1	4.1	4.1
若松	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1
大津	5.1	4.2	4.3	4.4	4.4
大戸	3.0	3.0	3.1	3.2	3.4
松山	3.8	3.9	3.9	3.8	4.0
盛岡	4.5	4.2	4.5	4.4	4.4
山形	—	3.2	3.4	3.4	3.4
室蘭	4.4	4.4	3.8	4.1	4.1
室蘭	3.5	3.5	3.3	3.3	3.5
那覇	2.6	2.6	2.4	2.4	2.4
宮崎	4.3	4.5	4.4	4.6	4.6
高八	3.5	3.5	3.6	3.7	3.6
水戸	2.7	2.8	2.8	2.3	2.9
別府	5.2	4.0	4.0	4.0	4.0
大分	6.2	6.3	6.5	5.9	6.0
長門	3.8	4.6	4.6	4.8	5.0
大津	5.0	5.1	5.2	5.2	5.3
大津	—	2.4	2.3	2.5	2.5
大津	3.0	3.4	3.5	3.2	3.3
八尾	5.4	5.5	5.7	5.9	6.0
秋田	5.2	4.8	5.1	4.6	4.7
四日市	3.4	3.5	3.6	3.7	3.1
四日市	3.7	3.7	3.4	3.8	4.0
四日市	4.2	4.0	3.8	3.8	4.0
川高	—	3.9	4.0	4.2	4.4
高松	5.2	5.1	5.2	5.1	5.4
一宮	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7
一宮	4.0	4.4	3.9	4.1	4.1
一宮	5.4	5.5	5.4	5.5	5.7
郡山	4.2	3.7	3.6	3.3	3.5
大松	—	—	—	—	—
大松	4.7	3.9	4.3	4.4	4.4
大松	4.7	4.7	4.8	4.8	4.4
大松	4.7	4.8	4.5	4.5	4.5
今米	3.8	3.7	3.8	3.9	4.0
沼津	4.1	4.4	4.7	5.0	5.2
沼津	4.5	3.8	3.9	4.2	3.1
沼津	5.4	5.1	5.0	5.1	5.1
沼津	4.9	4.0	5.0	5.1	5.2
瀬戸	3.1	2.9	3.2	3.2	3.5
宇和	—	3.7	3.5	3.6	3.5
宇和	4.3	4.3	4.4	4.6	4.7
宇和	—	—	—	5.0	6.2

第五表A 各都市毎戸當灯數(灯率)

都市名	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
東大	5.6	6.6	6.2	6.4	4.5
京大	4.9	5.0	5.1	5.2	5.3
古	4.1	4.3	4.4	4.6	5.8
京神	7.0	7.2	7.0	7.8	3.9
京神	5.0	5.0	5.2	5.3	3.5
廣島	4.1	4.1	4.2	4.3	5.0
廣島	5.0	4.8	4.9	4.9	4.0
廣島	5.3	5.3	5.3	5.5	3.9
八	3.3	3.4	3.5	3.5	5.4
吳	3.2	3.1	3.2	3.8	5.4
仙長	5.2	5.3	5.3	5.5	3.4
函館	4.2	3.6	3.8	3.2	5.4
静礼	4.0	3.8	3.4	3.8	5.5
札	4.8	4.8	4.6	4.7	3.7
札	5.8	5.3	5.3	5.4	3.5
須賀	3.5	3.3	3.3	3.3	3.4
熊金	5.1	5.2	5.2	5.2	5.4
佐佐	5.5	5.6	5.3	5.7	5.5
佐佐	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7
佐佐	3.3	3.3	3.2	3.2	3.5
和歌	4.2	4.0	4.1	4.1	4.2
和歌	3.6	3.7	3.7	3.9	3.9
和歌	5.3	5.8	5.9	6.1	6.2
和歌	3.6	4.4	4.6	4.4	4.0
和歌	4.5	4.9	4.8	4.9	5.0
下野	4.4	4.0	4.0	4.2	4.3
豊尼	4.2	4.1	4.2	4.3	4.4
尼小	3.9	3.9	3.7	3.6	3.6
尼小	3.8	4.0	4.0	4.2	3.9
尼小	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5
新門	4.2	4.7	4.9	4.9	4.9
門德	4.6	3.9	4.5	4.4	4.8
德大	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1
德大	3.7	5.5	4.7	4.6	4.8
德大	3.0	3.1	3.2	4.9	3.4
甲府	3.6	4.5	4.8	4.8	5.2
府高	4.5	5.2	5.2	4.9	4.7
高青	4.3	4.1	4.2	4.2	4.3
青西	5.5	5.8	5.8	5.9	6.0
青西	5.3	5.3	6.1	6.2	6.4
福久	4.9	5.1	5.7	6.1	6.1
旭留	4.6	4.7	4.8	4.8	5.0
旭留	4.9	4.9	5.0	5.2	5.0
旭留	4.4	4.5	4.5	4.7	5.0
旭留	4.8	4.9	4.8	4.8	5.0
高千	4.5	4.6	4.8	4.9	4.9
高千	4.1	4.8	4.4	4.6	3.7

C

種別 都市名	昭和 10 年		昭和 8 年		昭和 4 年	
	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當
福松(福島)	—	—	300	6.6	300	6.6
島道田方	—	—	200	4.6	450	6.4
福松(福島)	1,000	20.8	—	—	500	14.5
尾半直	200	4.2	—	—	—	—
和	150	3.4	—	—	—	—
明岸飯米鶴	500	1.2	365	9.4	—	—
石田塚子岡	—	—	300	8.5	300	8.5
津倉山川上	150	3.8	—	—	—	—
山敷口越田	150	3.3	200	5.9	500	15.2
酒敦柄高中	110	3.0	120	3.5	150	4.3
田賀木田津	—	—	150	4.3	80	2.5
龜里城塚邸	—	—	250	8.3	200	6.6
川浦北隆	—	—	180	4.0	90	2.7
仁木藁基	—	—	200	5.8	—	—
丸首京平大	200	5.7	150	4.3	250	7.2
今米沼弘佐	200	6.3	—	—	—	—
瀨宇足鳥	100	3.2	—	—	—	—
高千宇延前	270	8.6	—	—	—	—
高八水別長	100	3.2	—	—	—	—
大清水子田城	300	9.9	144	4.7	300	9.8
分水子田城	300	9.9	150	5.3	300	9.8
山室那宮	—	—	330	1.1	300	10.1
高八水別長	—	—	40	2.0	—	—
大清水子田城	1,000	—	—	—	—	—
分水子田城	320	—	—	—	—	—
山室那宮	350	—	—	—	—	—
高八水別長	200	—	—	—	—	—
大清水子田城	170	—	230	—	—	—
分水子田城	—	—	200	—	—	—

第二章 都力測定及都力よ見たる日本の國土構造

B

種別 都市名	昭和 10 年		昭和 8 年		昭和 4 年	
	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當	坪當最高 土地價格	同 人 口 一 人 當
高千宇延前	—	—	480	6.0	300	6.5
松葉宮岡橋	—	—	150	3.0	—	—
高千宇延前	400	4.6	500	6.1	1,000	12.7
岡松字長若	300	3.2	—	—	—	—
岡松字長若	550	6.3	250	2.9	200	2.3
岡松字長若	400	5.2	400	6.1	650	9.4
岡松字長若	230	2.8	250	3.0	500	5.7
岡松字長若	150	2.0	100	1.6	100	1.7
岡松字長若	150	1.9	350	4.7	—	—
岡松字長若	500	6.8	300	5.2	450	7.3
大戸松盛	250	3.5	150	4.4	—	—
大戸松盛	220	3.2	200	3.9	150	3.4
大戸松盛	100	1.4	200	2.8	500	7.0
大戸松盛	70	1.0	200	3.2	210	3.6
山室那宮	300	4.9	230	3.6	300	3.2
山室那宮	60	0.3	250	4.5	300	5.1
山室那宮	—	—	120	2.1	200	4.5
山室那宮	120	—	—	—	—	—
山室那宮	400	1.8	600	11.0	200	4.2
高八水別長	200	3.1	100	1.7	150	2.4
高八水別長	—	—	120	2.3	—	—
高八水別長	100	1.6	150	3.0	300	5.8
高八水別長	750	12.0	400	7.0	600	14.4
高八水別長	200	8.2	160	2.8	250	4.5
大清水子田城	350	5.7	350	6.1	400	7.0
大清水子田城	150	2.5	300	5.4	360	6.6
大清水子田城	120	2.0	150	2.9	—	—
大清水子田城	150	2.5	200	3.9	—	—
大清水子田城	100	1.7	120	3.4	150	4.3
分水子田城	—	—	250	4.8	300	6.9
分水子田城	500	8.6	300	7.9	500	13.6
分水子田城	120	2.1	120	2.3	180	3.5
分水子田城	—	—	180	3.5	100	2.2
分水子田城	500	9.4	—	—	550	13.8
山室那宮	—	—	400	7.5	—	—
山室那宮	250	4.6	350	6.8	300	5.9
山室那宮	350	6.8	250	6.5	400	9.7
山室那宮	300	5.8	350	7.9	850	7.8
山室那宮	110	2.1	300	5.9	350	7.5
今米沼弘佐	—	—	400	9.1	500	11.0
今米沼弘佐	—	—	100	2.2	75	1.6
今米沼弘佐	—	—	200	4.5	270	6.6
今米沼弘佐	100	2.0	150	3.5	400	9.7
今米沼弘佐	—	—	300	6.5	200	4.3
瀨宇足鳥	—	—	180	4.8	200	5.4
瀨宇足鳥	250	4.9	300	4.5	—	—
瀨宇足鳥	—	—	150	3.4	900	22.0
瀨宇足鳥	—	—	250	6.7	70	1.6

第二部 國土計畫に關する特殊論考

B

都市名	年度						
	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
千代田	4.20	4.16	3.59	3.63	3.84	3.87	4.07
東京	5.50	5.00	4.52	2.55	5.26	3.81	3.78
千葉	4.40	3.68	7.87	7.39	7.11	5.05	2.76
前橋	11.85	10.77	3.25	3.30	3.07	2.75	3.62
松戸	9.62	7.90	7.53	7.09	7.35	7.83	7.09
長野	7.84	6.89	6.50	8.34	11.21	13.57	10.26
若松	10.55	6.83	5.95	5.38	5.88	5.99	5.85
大津	5.26	4.18	3.79	4.63	5.72	7.46	7.31
大津	8.19	6.92	0.28	4.34	4.14	4.36	4.22
戸田	9.01	4.55	4.59	4.26	7.06	12.51	10.81
盛山	4.00	3.03	2.55	2.76	2.51	2.08	3.04
山形	8.35	7.52	4.42	4.28	4.41	5.12	5.95
山形	6.58	5.26	4.75	4.88	5.39	5.59	5.71
山形	18.03	19.18	18.70	17.65	13.61	14.46	15.39
室宮	2.77	2.30	1.99	2.38	2.68	2.69	3.88
高八	2.55	2.05	1.83	1.98	2.28	2.80	2.89
高八	4.05	4.68	4.17	4.29	3.84	3.98	3.63
高八	5.83	4.48	4.02	4.33	4.20	6.15	6.06
高八	3.15	2.38	1.80	2.21	2.30	1.76	1.53
水別	5.98	5.73	5.66	5.04	3.93	5.65	4.57
大鏡	5.50	4.81	4.21	3.92	4.35	3.93	4.37
大鏡	10.73	9.25	9.08	11.48	10.83	13.86	14.74
大鏡	7.56	5.77	5.21	5.56	6.14	5.42	5.43
大鏡	—	—	3.11	3.74	2.75	2.35	3.04
清八	4.45	4.11	3.93	4.26	4.39	5.83	4.40
秋都	4.75	3.48	3.73	3.93	3.91	4.21	3.54
四日	5.66	6.41	5.95	5.48	5.50	5.44	5.23
四日	3.31	2.80	2.57	2.39	2.59	3.23	2.67
四日	9.90	7.23	5.65	6.09	6.86	6.13	7.69
福川	6.68	5.39	5.59	4.27	4.40	4.66	4.57
高鋼	—	—	—	2.87	3.27	3.62	4.32
高鋼	6.98	5.15	5.09	4.21	4.91	4.64	5.12
高鋼	3.16	2.88	2.36	2.35	2.42	2.91	2.92
高鋼	6.51	5.73	4.29	7.54	8.66	7.25	11.03
奈都	6.21	6.49	5.28	4.99	5.76	6.04	7.12
防大	3.13	2.57	2.26	2.20	2.35	2.33	2.54
防大	—	—	—	—	—	—	5.29
防大	5.00	4.22	3.65	3.85	4.16	3.97	4.20
防大	9.90	8.40	7.97	7.77	8.80	8.66	8.83
宇治	4.75	4.16	3.27	3.60	3.79	4.35	4.43
米沼	3.92	3.32	3.37	2.73	3.44	4.47	4.58
米沼	2.94	2.39	2.08	2.27	2.37	2.51	2.78
米沼	4.95	4.65	4.33	4.52	4.08	4.89	4.35
米沼	5.81	5.12	4.08	4.01	9.27	3.32	3.15
佐和	5.66	4.49	4.26	5.60	5.54	6.28	6.03
和	2.79	2.31	1.83	2.12	2.77	3.71	2.80
和	8.22	7.48	3.79	3.36	3.11	3.78	4.03
和	6.88	5.68	5.18	5.42	5.34	5.95	5.42

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

第七表A 各都市人口一人口直接國稅

都市名	年度						
	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
東大	45.01	31.15	14.53	15.07	18.33	21.24	28.89
大	7.88	13.39	13.23	15.10	18.84	20.76	26.84
京	9.44	8.90	8.18	9.46	10.88	14.08	15.06
阪	11.24	8.58	7.73	8.41	9.93	10.45	11.58
神	14.70	10.63	10.43	11.42	12.47	13.83	16.19
横	11.40	8.92	7.52	8.09	8.87	12.56	12.26
廣	9.30	8.67	8.22	9.27	9.54	11.27	11.93
福	6.80	9.27	8.38	8.05	8.85	10.15	10.13
八	3.10	3.48	2.39	2.67	3.16	3.29	4.03
八	2.47	2.03	1.97	2.43	2.96	5.07	7.04
仙	5.95	4.90	4.22	4.15	4.45	4.13	3.93
長	7.07	6.24	5.42	4.33	5.72	5.45	7.59
園	8.03	5.92	5.40	4.65	6.18	5.52	5.55
静	6.87	5.93	5.10	5.21	4.78	4.54	4.40
札	8.19	7.56	6.91	6.82	6.49	9.43	6.94
須	2.56	2.23	2.01	1.74	1.96	1.92	1.75
世	9.99	8.30	7.34	7.07	7.01	8.22	8.82
世	4.88	4.60	4.18	5.17	5.67	6.93	7.13
兒	2.90	2.51	2.44	2.59	2.93	2.95	3.43
歌	8.43	7.59	7.45	6.76	5.93	6.85	7.34
和	7.17	6.60	5.77	4.82	5.26	5.57	4.91
川	9.65	6.80	8.37	8.36	12.98	17.33	1.44
岡	11.51	10.00	10.08	9.61	8.25	10.54	9.55
濱	6.20	5.21	5.25	6.21	7.18	7.97	6.88
小	7.93	6.93	6.01	6.76	8.54	9.34	8.95
下	6.80	5.47	5.12	6.23	7.68	8.79	10.00
邊	8.47	7.33	8.25	7.96	8.54	11.25	13.31
尼	4.96	4.12	2.71	2.93	2.81	3.08	3.47
小	34.80	19.87	22.18	30.82	24.58	17.15	13.22
小	11.43	8.55	9.20	6.66	6.67	9.32	9.41
新	8.02	7.76	7.02	8.22	8.58	8.62	8.16
岐	7.90	6.15	4.64	5.08	5.81	5.55	6.42
門	5.29	6.02	5.04	5.09	5.69	6.89	7.35
德	5.33	4.29	4.29	4.29	4.57	4.67	5.11
大	4.84	4.04	2.83	3.32	3.66	4.22	4.60
甲	7.04	5.41	4.77	4.93	4.56	4.60	4.91
姫	7.32	6.14	5.77	5.86	6.24	7.53	7.14
高	7.13	5.91	5.20	4.83	5.61	6.38	6.47
青	4.62	3.85	3.00	2.95	3.98	2.73	2.61
西	23.50	18.55	18.99	17.33	17.33	20.27	20.94
福	5.12	4.67	4.41	5.00	5.35	6.53	7.58
久	6.37	7.07	7.00	7.54	7.44	7.95	8.97
旭	3.48	3.01	2.99	2.94	3.65	3.89	4.22
桐	4.01	3.61	3.08	3.77	3.77	4.29	4.33
富	9.93	8.82	7.78	7.84	8.00	7.59	9.20
高	8.27	4.14	3.89	4.20	4.18	5.12	5.11

第二章 国土計畫に關する特殊論考

第八表A 各都市人口一人貯金

年次 都市名	年次			
	昭和8年3月	昭和9年3月	昭和10年3月	昭和11年3月
東京	86.35	83.27	81.78	80.65
大阪	72.30	73.32	76.09	75.22
名古屋	141.55	132.04	124.75	119.44
京都	94.74	93.53	96.52	95.48
神戸	38.41	89.72	94.49	94.80
横浜	83.71	82.53	82.21	82.50
福岡	79.79	77.97	77.11	77.14
仙台	57.49	56.03	55.99	55.80
新潟	67.99	67.44	67.61	67.60
金沢	62.26	65.31	55.99	65.17
宇都宮	76.37	73.04	73.85	72.55
水戸	62.47	65.16	66.56	66.45
上野原	59.57	60.00	56.30	53.50
宇都宮	63.86	59.51	59.05	57.91
宇都宮	61.75	60.24	57.92	57.81
宇都宮	73.87	76.40	75.96	76.23
宇都宮	71.06	75.21	76.03	77.45
宇都宮	104.80	104.60	103.30	100.54
宇都宮	41.87	42.24	42.48	44.05
宇都宮	53.09	55.47	56.46	58.01
宇都宮	130.69	131.23	118.04	116.15
宇都宮	82.83	82.80	83.21	83.35
宇都宮	84.53	81.39	80.85	80.26
宇都宮	85.93	67.85	65.07	63.68
宇都宮	54.16	55.49	55.17	54.44
宇都宮	117.23	111.91	114.49	111.51
宇都宮	69.99	70.32	70.24	71.62
宇都宮	104.46	103.43	104.63	104.87
宇都宮	79.67	80.21	80.85	79.04
宇都宮	77.31	78.38	79.06	80.61
宇都宮	67.64	87.83	65.14	61.39
宇都宮	165.25	153.59	149.39	142.96
宇都宮	61.88	63.95	64.97	64.48
宇都宮	13.74	132.75	126.79	124.18
宇都宮	62.76	61.15	61.57	63.85
宇都宮	82.59	78.26	73.75	70.41
宇都宮	70.41	70.51	70.47	63.62
宇都宮	92.21	90.21	90.45	90.33
宇都宮	101.21	92.36	89.01	88.51
宇都宮	110.38	119.80	117.82	114.90
宇都宮	119.18	115.32	116.54	113.52
宇都宮	56.07	56.83	58.02	58.20
宇都宮	55.20	54.73	55.15	55.34
宇都宮	41.96	42.35	43.27	43.91
宇都宮	67.19	65.43	55.65	65.82

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

C

都市名	年度						
	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年
川取島	6.23	5.60	5.22	4.98	3.08	5.53	7.78
若松(福島)	8.52	6.70	5.08	4.32	4.96	4.66	5.13
尾道	5.31	4.41	3.87	3.98	4.70	4.88	10.02
浦直明豊三	10.75	9.14	8.44	—	4.15	4.09	4.17
和方石中原	—	—	—	3.65	3.89	3.67	4.10
田探塚子廣	4.05	3.44	3.64	7.15	6.92	5.09	5.03
岸平飯米帯	6.05	5.36	4.59	5.48	5.28	5.90	6.25
田探塚子廣	—	—	—	—	—	—	7.68
石谷岡山阪	—	—	—	—	—	—	2.18
釜熊鶴津松	14.45	10.39	9.06	17.82	14.80	19.16	25.13
敷谷條根山	—	—	0.11	2.09	2.60	2.94	2.26
口越田卷宮	—	—	6.00	4.34	4.62	5.81	27.94
田津田濱	5.85	4.85	5.23	5.25	5.02	5.18	6.14
津山南龜里	—	—	—	—	3.20	45.51	4.00
中南海丸首	—	—	—	—	—	—	1.23
酒唐高八	9.98	8.98	8.43	8.83	4.52	4.59	6.86
新高	5.38	4.05	3.80	4.21	9.72	8.67	8.36
津山南龜里	—	—	3.48	3.44	4.10	4.52	4.27
新高	11.96	8.79	10.46	—	3.95	3.62	4.16
新高	—	—	—	—	70.03	27.32	49.23
新高	—	—	—	—	—	—	6.88
新高	—	—	—	—	2.80	2.84	8.31
新高	—	—	—	—	—	—	3.83
新高	—	—	—	—	—	20.07	14.54
新高	6.74	6.06	-5.92	—	7.44	7.30	6.46
新高	5.13	4.36	3.97	4.52	4.09	4.64	4.65
新高	6.03	2.85	3.29	3.44	3.16	3.48	3.53
新高	—	—	—	—	3.39	2.42	2.26
新高	—	—	—	—	3.22	6.08	3.54
新高	—	—	2.93	—	2.71	3.05	3.08
新高	—	—	—	—	17.04	15.61	16.31
新高	—	—	3.22	—	4.15	4.24	2.91
新高	7.86	7.31	6.23	—	7.46	8.03	9.02
新高	—	—	—	—	3.89	4.13	4.31
新高	5.97	4.73	4.40	—	4.65	4.90	4.69
新高	—	—	—	—	—	—	2.78
新高	3.30	2.86	2.53	—	4.03	5.24	3.77
新高	0.99	0.79	0.66	—	2.90	4.01	3.47
新高	—	—	—	—	0.89	1.07	1.10

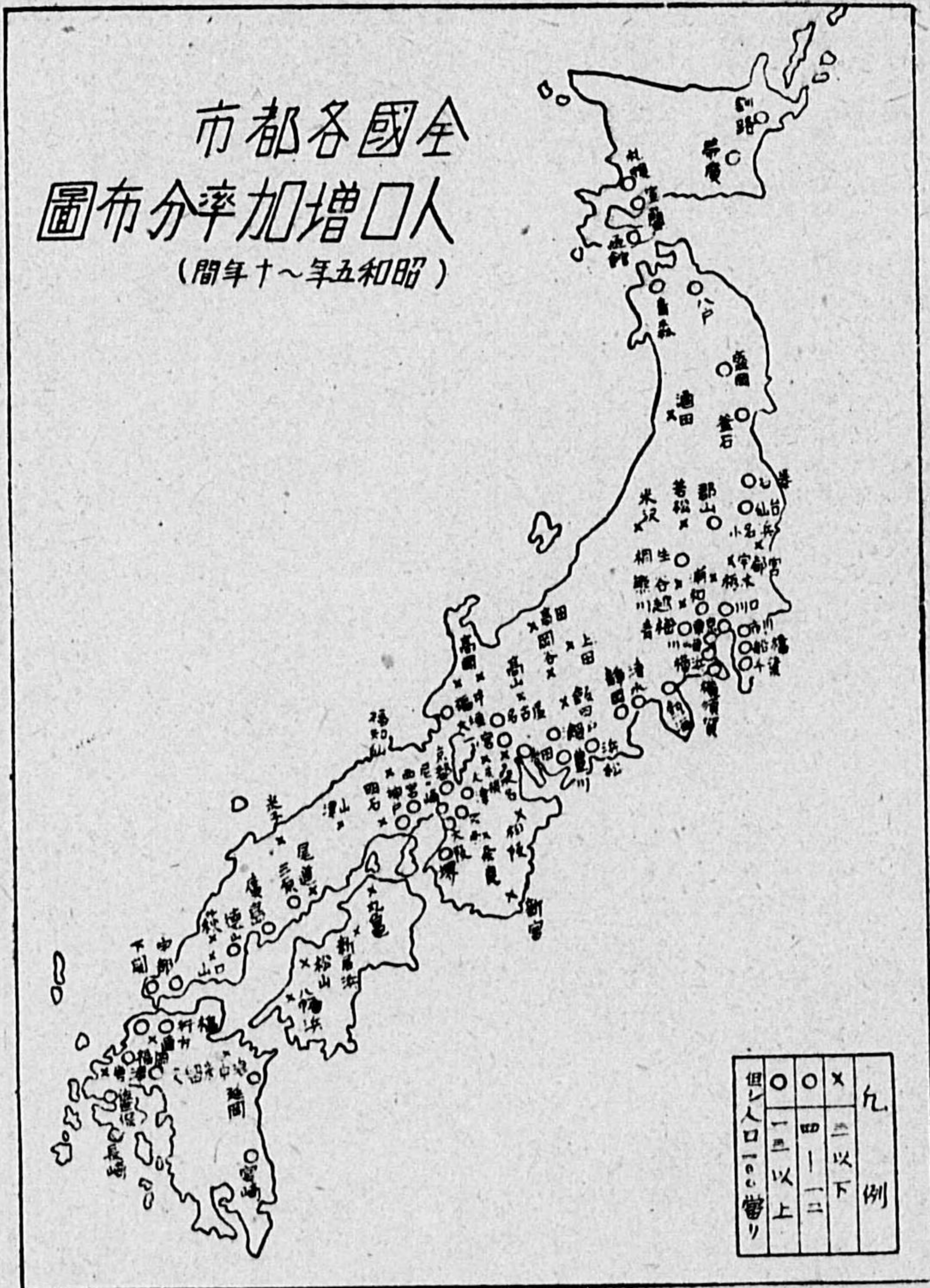
第二部 国土計畫に關する特殊論考

第二章 都力測定及都力より見たる日本の国土構造

年次		昭和8年3月	昭和9年3月	昭和10年3月	昭和11年3月
都市名		円	円	円	円
足利	利川	70.43	67.70	65.63	62.70
市島	取	—	—	—	87.42
若松	松(福島)	56.53	61.21	—	64.06
福	島	122.30	118.41	—	105.49
		78.66	78.56	—	75.95
尾浦	道和	64.33	61.60	—	68.82
直明	方石	—	110.85	—	110.51
岸	田	74.08	76.05	—	82.24
		70.92	69.89	—	77.24
		58.87	57.73	—	57.72
平飯	塚塚	67.14	66.91	—	66.15
米帶	子廣	74.55	76.24	—	78.72
熊	谷	54.04	63.91	—	66.88
		—	47.94	—	48.98
		—	96.07	—	85.94
鶴津	岡山	33.42	34.76	—	32.01
松倉	阪敷	48.53	47.60	—	48.64
三	條	99.24	119.01	—	110.08
		61.98	60.11	—	53.85
		—	51.99	—	51.11
徳山	山口	—	—	—	80.04
山川	越田	50.32	55.13	—	56.69
上石	卷	109.46	101.67	—	89.12
		129.96	119.13	—	102.88
		—	75.33	—	67.47
新	宮	—	131.37	—	133.72
萩	田	69.88	66.88	—	65.62
		—	41.17	—	37.03
酒唐	津	77.65	75.09	—	72.54
高	田	69.68	70.02	—	72.21
		—	—	—	—
八中	濱	—	—	—	65.45
海丸	津	68.83	67.39	—	71.12
首	南	—	—	—	139.42
	龜	77.65	77.35	—	78.21
	里	25.89	29.49	—	24.31

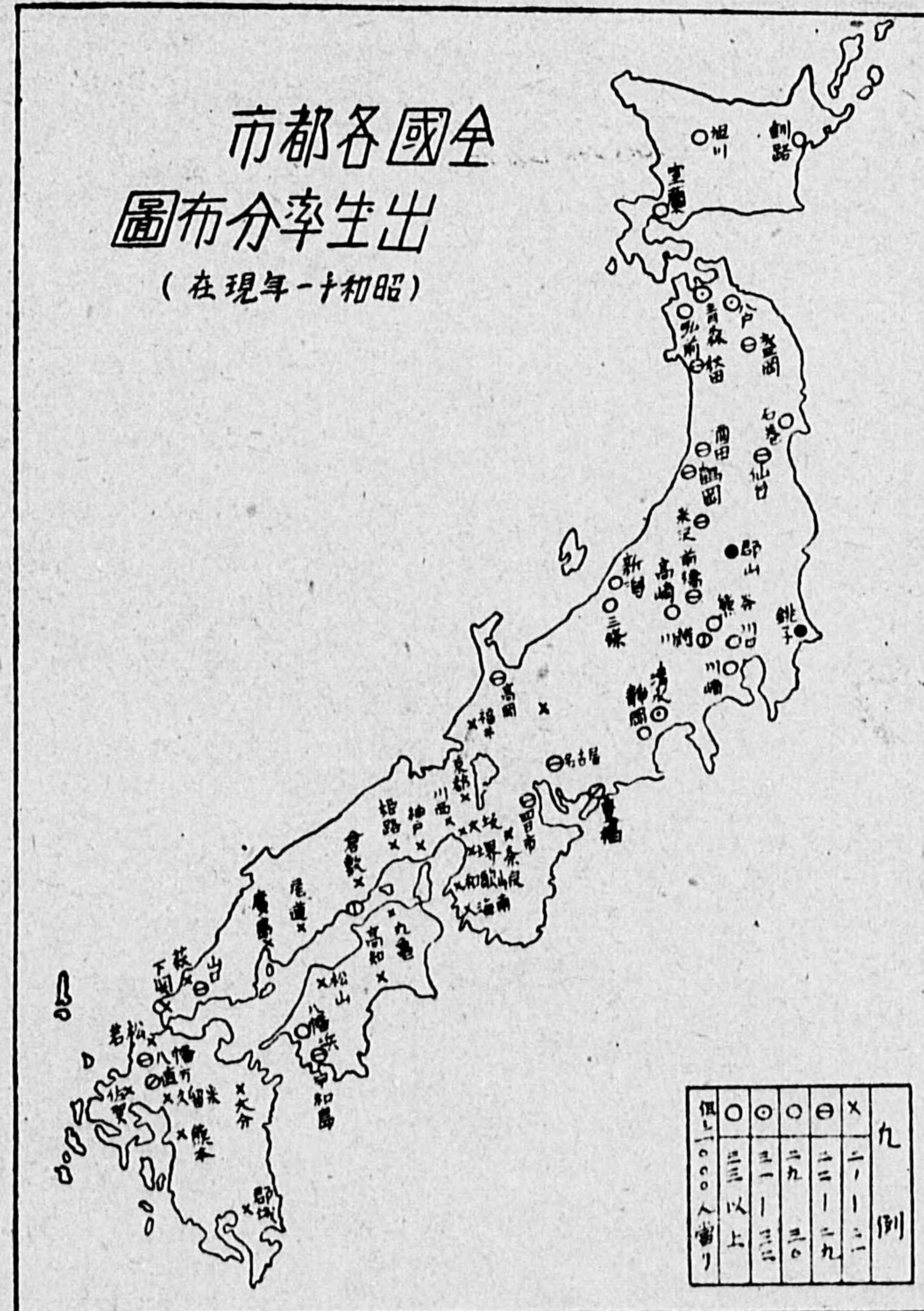
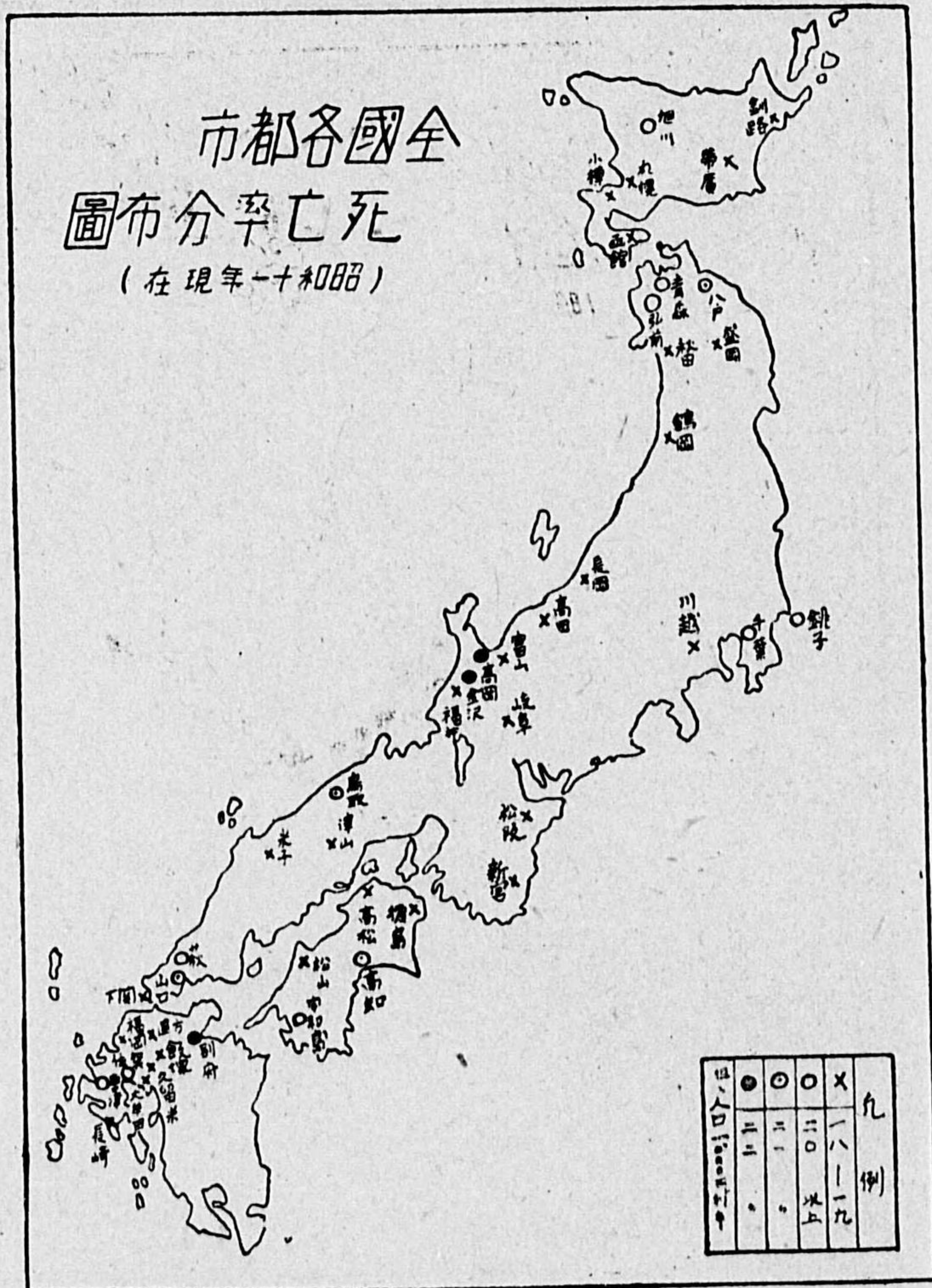
年次		昭和8年3月	昭和9年3月	昭和10年3月	昭和11年3月
都市名		円	円	円	円
高千	松葉	75.25	77.15	73.08	73.09
字	宮	70.00	69.59	70.31	70.05
延	岡	113.02	110.18	106.37	104.73
前	橋	73.52	73.31	66.93	60.65
		51.75	51.29	50.80	50.35
岡	崎	140.39	123.21	114.16	103.08
松	山	59.35	57.09	57.72	56.21
字	部	82.24	43.53	44.77	46.28
長	野	41.59	116.94	114.73	113.11
若	(福岡)	53.67	54.72	58.80	59.89
大	津	93.77	77.27	78.27	77.24
戸	畑	58.01	60.23	62.03	62.43
松	本	91.68	88.23	81.84	80.52
盛	岡	95.23	92.98	87.60	83.19
山	形	49.06	49.68	85.24	84.25
		99.28	107.22	104.08	104.54
室	蘭	61.63	61.61	59.23	58.94
那	羽	39.64	39.56	41.75	26.89
宮	崎	72.07	75.59	73.70	71.06
高		65.29	63.31	43.27	61.10
八	戸	130.42	125.06	121.36	109.59
水	府	85.11	82.34	73.92	74.31
別	岡	78.34	75.67	75.35	79.95
長	分	87.35	86.15	83.13	72.52
大		71.18	71.46	72.15	73.75
鏡	子	69.05	65.90	—	63.77
清	水	62.82	58.96	57.25	55.64
八	子	103.28	100.09	97.53	93.93
秋	田	39.26	40.05	39.74	39.73
都	城	52.50	55.00	—	53.39
四	市	39.66	112.39	105.61	101.79
福	山	61.82	61.19	61.29	60.75
川	口	—	96.89	93.43	88.00
高	岡	54.69	100.99	52.19	51.68
鋼	路	49.02	50.07	51.04	57.79
一	宮	181.04	164.42	155.62	149.95
奈	良	103.09	100.99	102.91	112.39
那	山	78.00	79.43	77.97	77.27
大	垣	175.85	167.50	157.99	151.01
松	江	51.05	54.99	55.77	54.62
字	田	52.11	106.65	103.94	100.03
今	治	81.11	76.30	73.86	71.90
米	澤	66.59	62.75	59.86	59.05
沼	津	67.99	61.90	60.12	58.92
弘	前	72.69	70.83	—	67.80
佐	賀	70.40	69.07	70.30	70.93
瀬	戸	100.35	97.43	—	87.84
宇	島	45.60	46.59	48.32	46.88

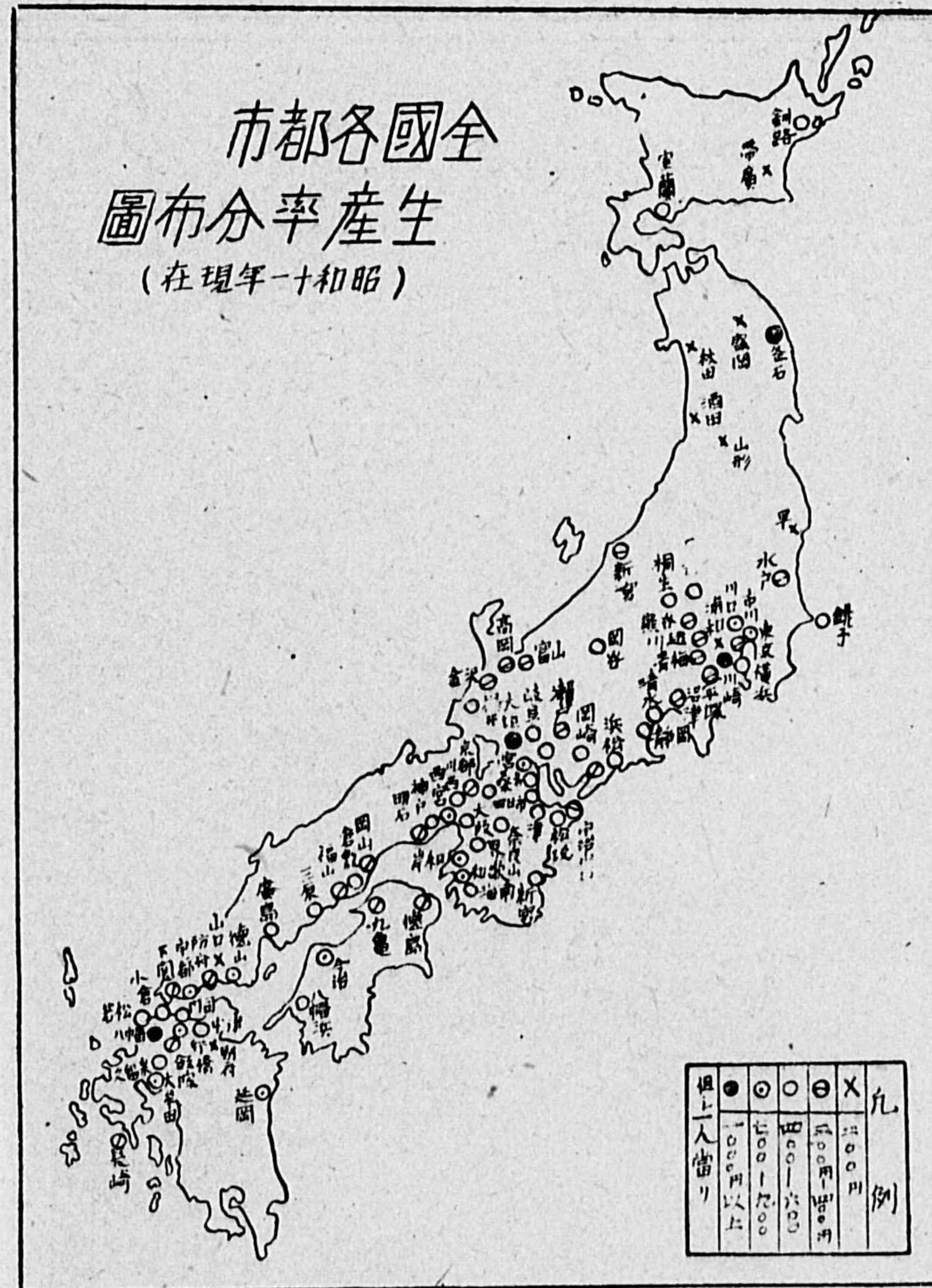
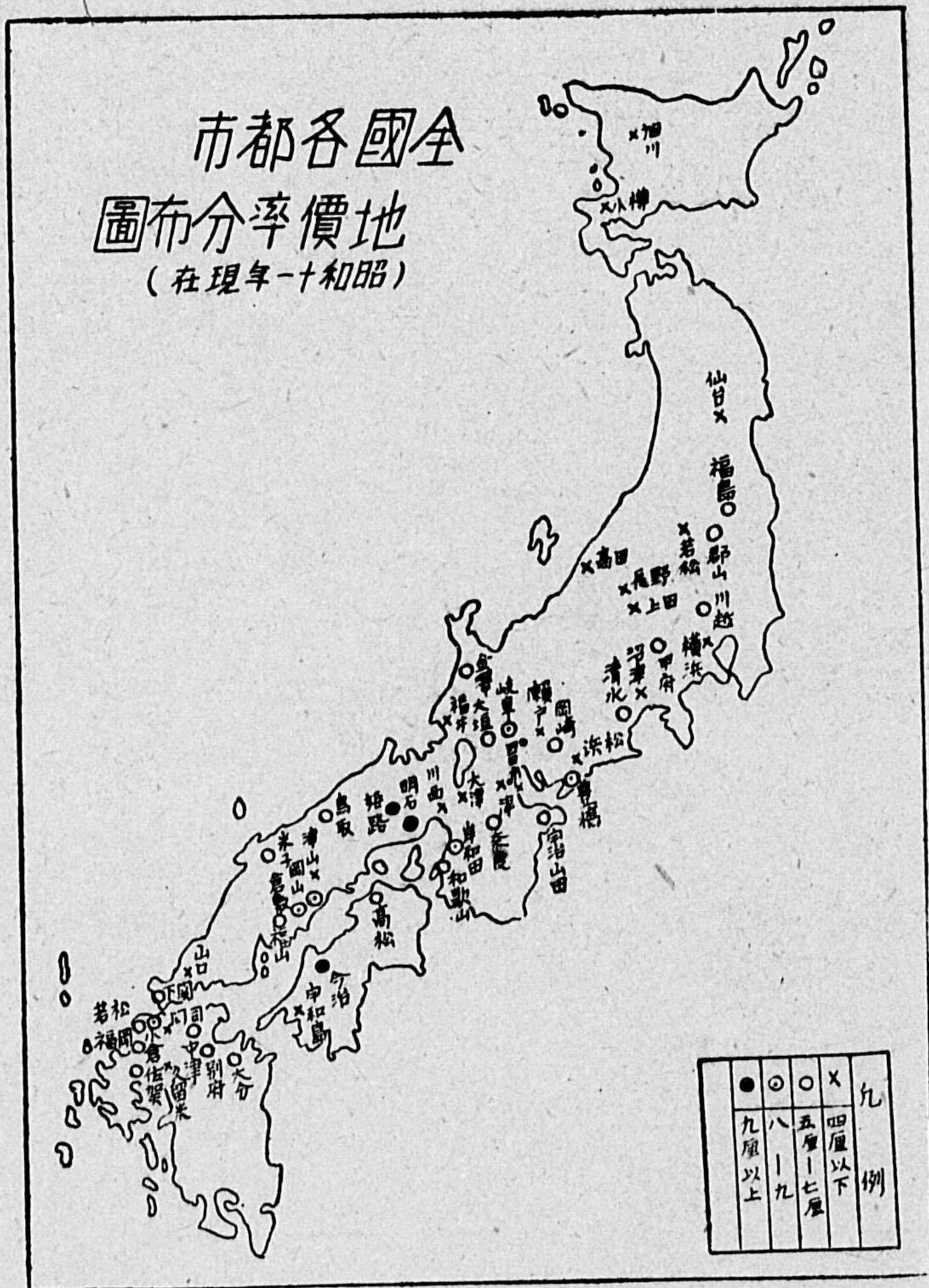
第二部 国土計畫に關する特殊論考

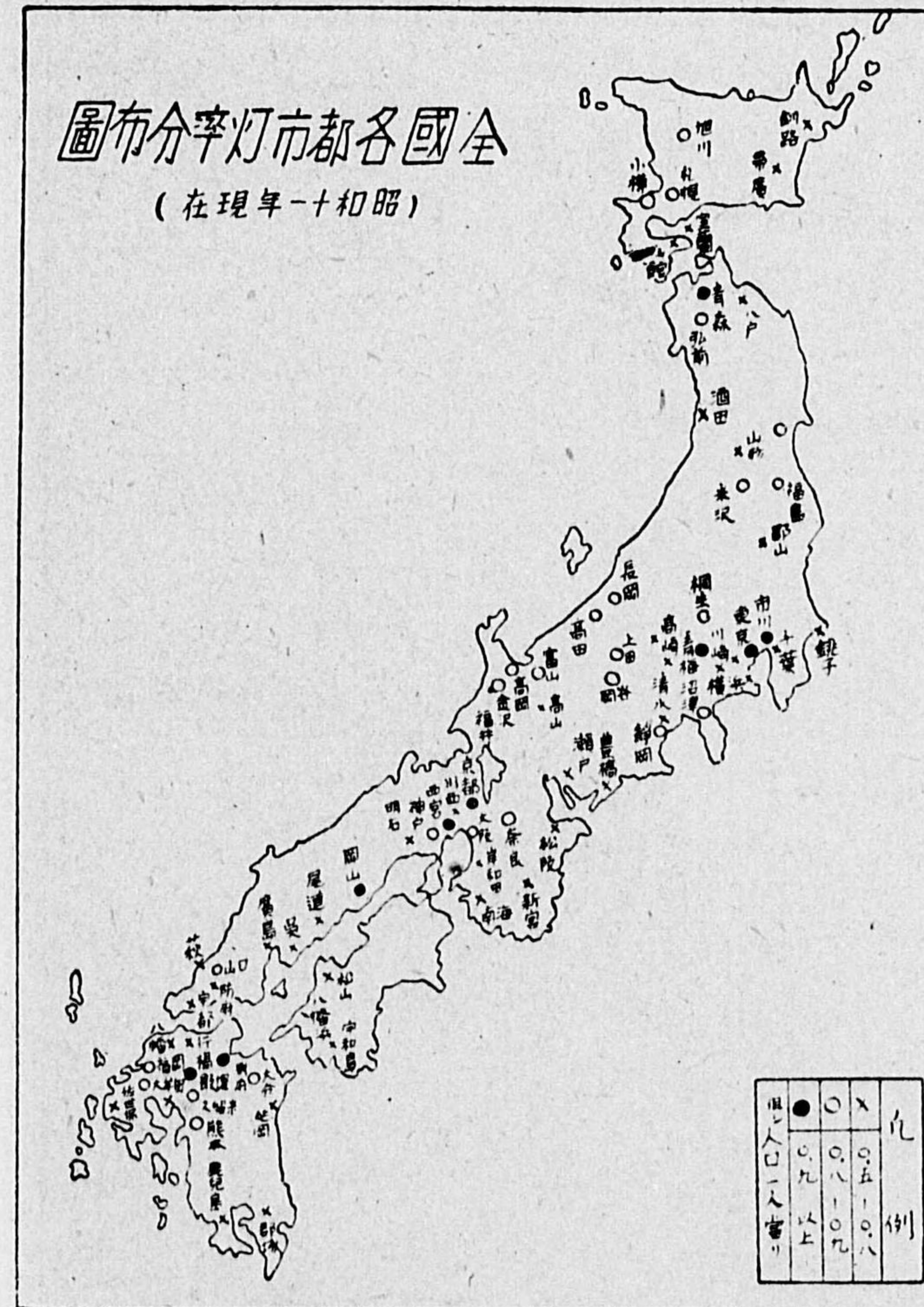
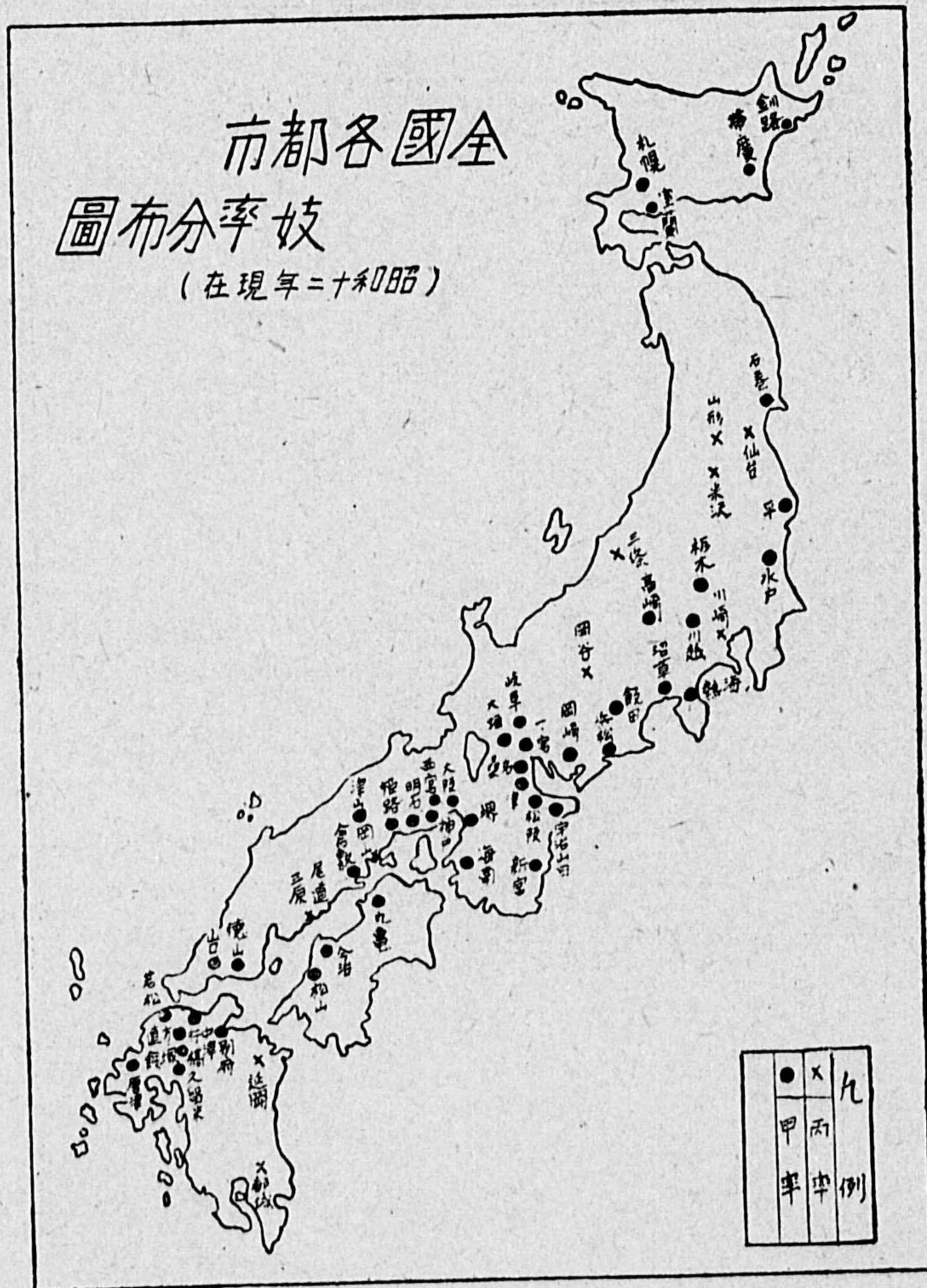


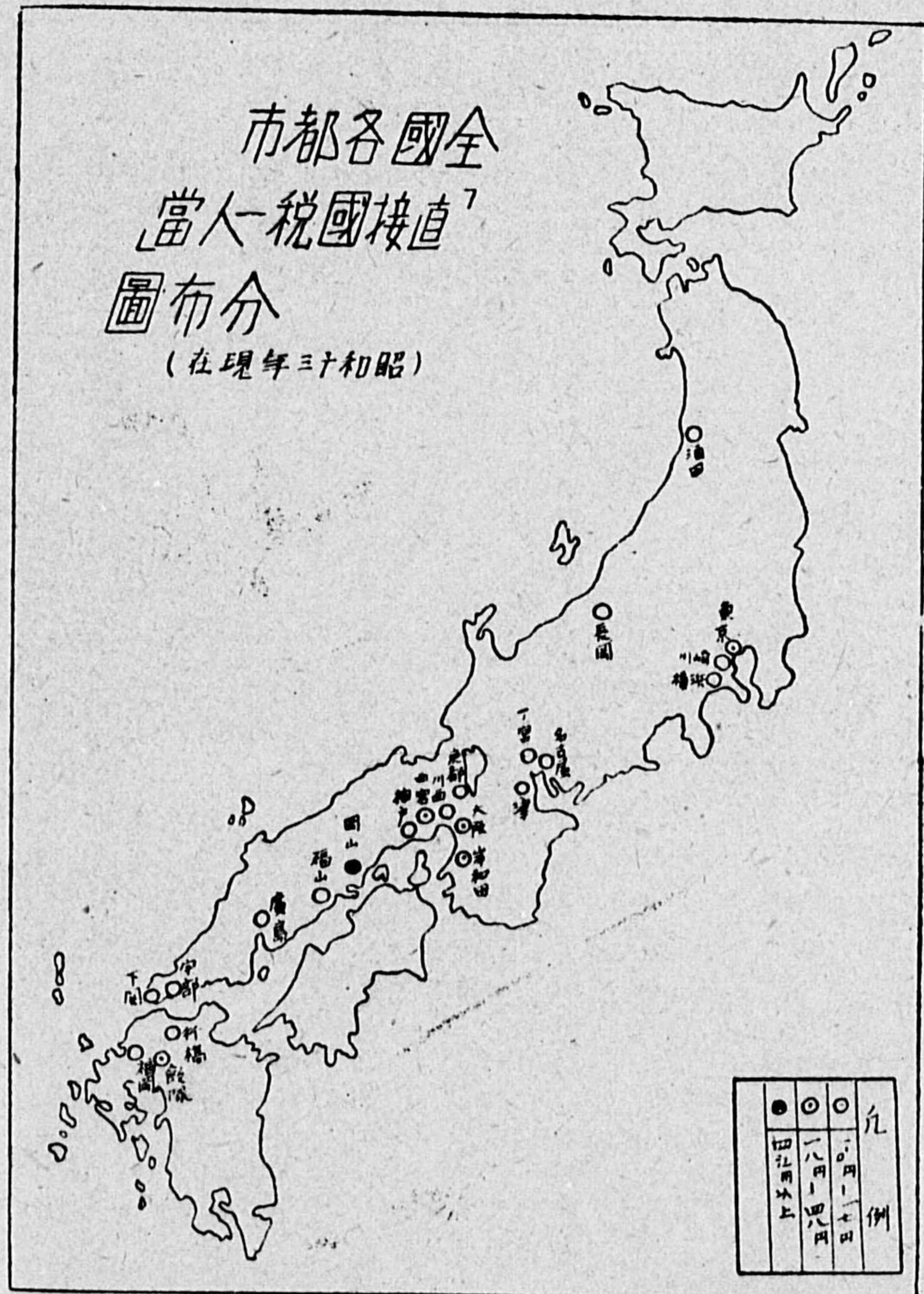
C

別 都市名	人口 増加率	人口一 人當生 産價格	被 率	灯 率	地價率 昭和 8年	地價率 昭和 10年	人口一 人當 接國稅	一人當 貯金
島利川取島	丙乙甲丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	丙丙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	丙丙乙乙甲
和	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
宇足市島嶺	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
若尾半浦直	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
船明豊三岸	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
平飯米帶釜	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
熊鶴桑津松	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
倉岡三彦徳	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
山川上石新	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
萩知	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
福酒敦初	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
唐高八中高	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	乙乙丙特	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙
海丸	丙丙丙丙丙	丙丙丙丙丙	甲丙特甲乙	乙乙丙特	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙	乙乙丙丙丙









第三章 本邦各都市に於ける工場誘致の概況

第一節 國土計畫前後

自由主義經濟下に於ける生産流態の第一段階として工業の大都市集中が行はれ、これに應じ人口が大都市に集積するのは公式である。

而して此の工業集中の形式については既往の立地學が或程度の解説をなして居る。然るに此の工業集中乃至是に伴ふ人口集積には當然或限界があり、その限界をこへると今度は逆に大都市の中から居住の分散が始まり、次で工業自體が離脱する。(尤是は心ずしも移轉の形式ではなく或時は擴張の形を採つて行はれる)

此の分散は、一應大都市を離れる事により夫々大なり小なりの能率上の「負」を伴ふが、然し同時に新しき環境は何等かの「正」を補ひ又交通機關は大きくその「負」を回復して呉れ様とする。見様によつてはかゝる分散期を見計らつて交通機關は發展を準備して居り、その準備

第三章 本邦各都市に於ける工場誘致の概況

に應じて徐々に工場が分散を初めるのだとも云へる。

云ふ可くば割引されたる立地條件が成立したとて分散が初まるのである。

かゝる求心から遠心への轉換を、若し自由主義經濟に於ける生産動態の第二段階とするなら、これについて來るものは當然此の動きを捉らへ、此の中に自個目的を發見し、此の動向を擴大強化し國土の廣さに迄擴げ、人口及生産の再編成をなさんとする働きである。

此の第三段階に於ては、自由主義は完全に影をひそめ、總ては國家の目的に副ふ可く(或は國家社會全體の意慾と云つてもいゝ)動員される。

而して現代特に目下の實狀に於て、我國の求めてゐる此の再編成の形態は、最後の形としては「大都市の消失と農村と健全なる調和を保てる中級都市の全國的均等分布」となるのであらう。

此の表現を以つて第三段階(尤既に計畫經濟)の生産流態に入らんとするのが所謂國土計畫なのである。(嚴密に云へばその中央計畫)

而して今自分がこゝに概説せんとするのは、此の國土計畫前夜としての、第二段階後期の工場誘致運動についてなのである。

第二節 活動地帯

第二段階に於て工業及人口は大都市からはなれ、徐々に先ずその側近の都市に後退し初める。

大阪が堺、尼崎を育て、東京が川崎、市川、川口を大ならしめたる如きはその適例である。

而して此の機を敏感に捉へる能力ある地方民は、此の際あらゆる工夫をめぐらして、此の遊離工場の誘致を計つた。(それは昭和八、九年頃からの事である)多年大都市の影となつて陰慘な生活を送つて居た彼等にとつてはこれこそ二度來ざる可き更生の機會なのである。

而して是等は勿論、先ず立地的に恵まれたる地方に於て試みられるのが當然である。

よつて順序としてその分布を視る必要があるのであるが、その前に豫備智識としてその「立地的に恵まれたる地方」即工業立地適格地方の構成について吟味して見る。

自分は都市の工業力を檢索する手段として「都市の人口當りの生産額」の分布を求めた。

而してそれはおよそ美事と云ふ文字の該當する程美しい分布を有して居た。

即人口一人當り一、〇〇〇圓以上の最高額のもの釜石、川崎、大垣、八幡共に表日本にある。

次で高額なる七〇〇——九〇〇圓のものは一〇市であるが、その二つが四國及九州東岸に飛べる丈で他は總て東京、大阪を中心とする平野及北九州に集結してゐる。

而して四〇〇——六〇〇圓の都市が此の點綴を仕上る如く三〇有餘顯はれ關東平野、東海道、攝津平野、瀬戸内海沿岸、北九州の「工業地方」を描き出すのである。

日本に於ける都市生産額の標準は二〇〇であるから、是は倍乃至三倍の強度の工業都市たる事勿論である。

よつて此の「工業立地適格地方」が支配的なものである事云ふ迄もない。

是に三〇〇——四〇〇圓級の都市を加へれば地帯は大體完成するのであるが、その結果我々の得たものは常識通り、

東北、裏日本の貧困

南九州、南四國の空白

名古屋、大阪地帯の高密度

であるが、たゞ常識を修正するものとして

山陽道、北四國の疎なる事

中部日本の北上傾向

が顯はれてゐる。

是等については云ふ迄もなく、立地論の餘蘊なく解説し得る所であらう。

自分はたゞ消費、交通の兩指向は別として、此の區域が北緯三十五度に沿ふ地帯なる事と、地理學上最も日照時長く、雨量少なき、労働上の最上條件にある土地なる事を發見し興味を有つのである。

とまれ、こゝにかゝる「立地々帯」が存在する事を識る時、我々は誘致運動が先ずこゝを温床とす可き事を豫測し得るのである。

かくして、こゝに工場誘致に活發なる都市の分布を視る事になるが、それに先き立ちあらかじめ斷つて置かなければならないのは、自分の統計は立地研究会（現在市政調査會内にある國土計畫研究会）によつて得たものであるが、それが國勢調査によるものでなく全く全國同僚の厚意的のものである事から甚不明瞭な報告もあり得た事と、私的なものである所から全國的の資料とはなり得なかつた事、及び國防の關係上その結果を詳細に發表する事が出来ない事等である。

それにもかゝらず、自分がこゝに何等かの解説を附し得ると考へ得るのは、自分がその誘致運動の最も盛んな愛知地方に十數年居住し、且その後も大なり小なり種々の都市のその方面の仕事に耳を借す機会が多く、實體について多少の自信を有し得たからである。

よつて直に結論からのべる順となるが、自分の知り得た六〇有餘の誘致工場の中の四〇は豫想通り前説北緯三十五度餘地帯に於て行はれ、その中の約三〇は東海道と濃尾平野に於て行はれてゐる。

たゞ、此の分布に於て意外なのは、東北諸都市の活動であるが、是は恐らく東北振興運動に刺戟された爲であらう。(因に是等の數値は昭和十三年以後のもの及軍直接の工場關係を除いて居る。主として昭和十三年以前四、五年に汎るものである。是は前出の如く諸資料より推定し昭和六、七年頃から活發になつたと推定し得るからである。)

第三節 誘致工場の諸相

先づ工場誘致の初まつた年次については左の様な結果がある。

大正一五年	一	昭和一年	一	昭和二年	一
-------	---	------	---	------	---

昭和三年	一	昭和七年	二	昭和十一年	三一
四年	一	八年	五	十二年	三九
五年	二	九年	二七	十三年	五三
六年	二	一〇年	二四		

此の數字は昭和八年頃より初まり一三年に向つて激増してゐる。

次に又誘致された工場の種類は大體次の様なものである。

纖維(バルブを含む) 三八

北海一、東北一、關東一、東海五、濃尾一九

京畿二、四國三、山陽一、山陰三、北陸二

化學及重工業 一二

東北五、關東一、四國一、山陽二、九州三

機械 三

東北二、濃尾一

その他 七

東北四、四國二、九州一

化學及重工業の中、大部分は化學工業で重工業は微量である。

此の統計以外に自分の知れるものとして理研コンツェルンが二、三新潟方面で誘致されて居る。是は機械工業にして農村との關聯深く誘致され易きもの、典型である。これを算入すれば誘致工場の大部分は纖維及機械工業であり、それが輕工業地方、東海、濃尾を主として行はれてる事豫想通りである。たゞ意外なのは化學工業が案外多い事と、それが又東北に多き事である。

又、誘致された工場の規模は一〇萬坪のもの約二割、一萬坪以上のもの六割に近く、誘致に よらざるもの（調査の副産物）が主として一萬坪級で八割であつたのに比し特色を示して居る。即大資本の方が誘致側に着目され、且信用され易く、都市振興としても効果的であるからであらふ。

●立地せる土地の地價には次の様な傾向がある。

坪〇・五圓以下	八	八圓	五	二四圓	一
一圓	二〇	九圓	二	二五圓	一

二圓	三四	一〇圓	一〇	三〇圓	四
三圓	三五	一三圓	一	三六圓	一
四圓	一五	一四圓	一	四〇圓	六
五圓	一九	一五圓	三	四三圓	一
六圓	九	一七圓	一	五〇圓	一
七圓	四	二〇圓	七		

大體に於て二、三圓が最も高く、一圓以下が案外少ないのは使用に適しない土地であるからであらう。又一〇圓、二〇圓と云ふのがあり、四〇圓が存外多いがこれも特殊地方の立地で且面積小なるものである。

第四節 誘致方法

誘致方法は多様を極めて居るが、此を整理すれば大要左の如くなる。

甲、固定費助成

一、金錢助成

第三章 本邦各都市に於ける工場誘致の概況

第二部 國土計畫に關する特殊論考

イ、一般助成。ロ、土地買收費、土地買收費の全額或は一部、○土地借料の全額或は一部。
(備考) 金錢助成を市町村にて爲す場合と個人がなす場合とある。

二、土地助成

イ、無償提供、市町村有地。私有地を市町村にて買收して。或は私有地を地元有志が買收して。ロ、廉價提供。市町村有地。私有地の廉價貸與。ハ、貸與、市町村有地の無償貸與、同上の廉價貸與。

三、整備助成

イ、整地。○工場敷地、附屬住宅地、ロ、公共施設。○道路の新設改修、○河川、運河、排水路の新設改修、水道工業用水。

四、地上權助成

農作物、家屋の補償。小作補償。

乙、經常費助成

一、課税免除

○全額。有限期間全額乃至半額。市税。建築税。地租(縣市附加税以外)戸數割。

○不動産取得税。市が工場より金を借り(土地買收費)此を免税の形式で償却。課税してその半額助成。村税を八年間免除、その二割を村に寄附。町道占用料免除。

二、公共施設使用料

瓦斯。水道。

三、電力

○縣管電力の廉價提供。縣、市等にて會社電力の廉價提供斡旋。

(備考) ○印は例多きもの。

土地助成は工場誘致の主流と云ふ可く、その中町有地を無償で與へたるものに岡山縣片上町

耐火練瓦三、六〇〇坪、山口縣小郡町若林紡績六、〇〇〇坪、島根縣宍道町出雲織物一五、〇

〇〇坪、高津町吉田町出雲織物二二、〇〇〇坪、高知縣豐濱町明正紡績三〇、〇〇〇坪、長崎

縣島原町島原酒精一〇、〇〇〇坪、大分縣津久見町信用組合津久見農産工場五〇〇坪、大分市

日本人造羊毛六七、〇〇〇坪、栃木縣小山町小平重工業、静岡縣安倍郡有度村綾羽クツシター

六、〇〇〇坪、同濱名郡新井町濱名紡績五〇、〇〇〇坪、盛岡市東北興業アルギン酸三、六〇

〇坪等の例がある。(數字は提供面積で必ずしも工場全面積ではない。)

此の中、津久見の例は産組で土地を買ひ工場に與へたのである。又島根縣高津町吉田町の例は二町合同でやつた仕事で、此の種の事業としては極めて珍らしい美風に屬する。

次に純粹なる「一般的助成金」であるが此の例は少なく僅に静岡縣磐田郡二俣町で昭和一〇年來一、四〇〇圓づゝ用意しての例及岩手縣石鳥谷で岩手耐火に對し時局轉換設備費として二〇、一〇〇圓助成してゐる位なものである。

助成金の主體は土地買收費で

イ、總額に對し何割かを支給する場合

例、福井縣細呂木村エスリボン一、三〇〇圓、宇都宮各和製作一七、〇〇〇圓、日本撚絲一〇、〇〇〇圓(地代三〇、〇〇〇圓の中)、静岡縣富士纖維二〇〇、〇〇〇圓、京都府舞鶴町日出紡績四〇、〇〇〇圓、同宇治町日本レイヨン二〇〇、〇〇〇圓、岡山縣福川村耐火レンガー一〇、〇〇〇圓(一三、〇〇〇圓の中)、山口縣麻里布町下川村帝人三一、〇〇〇圓、同麻里布町山陽バルブ二五、〇〇〇圓島根縣宍道町出雲織物二八五、〇〇〇圓高知市天滿織物五一、〇〇〇圓高知縣鳴田村郡是製絲二〇、〇〇〇圓同豐濱町明正紡績二〇〇、〇〇〇圓德島縣小松島小松島罐詰三、三四〇圓岐阜市新興人絹五三、〇〇〇圓同日本毛織一八、三〇〇圓大垣市若林製絲三〇、〇〇〇圓同大日本紡績四八、〇〇〇圓同大垣毛絲一五、〇〇〇圓

ロ、豫定價格の過超部分に對する場合

例、大垣市岸和田紡績坪三圓をこへる部(實價坪四圓)、同大日本紡績坪四圓及補償反當り六〇圓をこへる部(實價坪五圓)、同太陽レイヨン坪二圓五十錢をこへる部(實價坪四圓)

ハ、坪當りの助成單價を定めたる場合

例、三重縣朝日村芝浦製作所反當二五〇圓(反一、六五〇〇圓に對し)、同川越村大洋フェルト反當一〇〇圓(反九〇〇圓の中)同常盤村三重製絨所反當一、七五四、同日永村東洋紡績坪〇・二五圓(坪二・五〇圓に對し)、同楠村東洋毛織坪〇・五圓(二圓に對し)、中央毛絲坪〇・五(二圓に對し)、北海道旭川市國策バルブ反二八圓(三〇〇圓に對し)

廉價提供の例は頗る多く、山口縣富田の曹達工場(四〇、〇〇〇坪坪八一—一〇圓にて買收反二、〇〇〇にて讓渡)、香川縣阪出町四國曹達(町有埋立地一八圓を八圓にて)、その他山形市山形電鋼(區劃整理組合地)、栃木縣宇都宮市名和製作所、静岡縣沼津市東京人絹、愛知縣舉母町豊田自動車、三重縣四日市日本板ガラス(縣有地)、福井縣酒井紡績等がある。

無償貸與の例は秋田市では帝國高壓に市有地二〇年間、福井縣鹿谷村で吉岡織物に對し村有地を二〇年間無償貸與し(昭和九年)、德島縣小松島町で東洋紙業に對し一、五〇〇坪を無償で三年四ヶ月使用せしめてる。

整備助成は殆ど一つの常例となつて居て、工場取付け道路の如きは必ず市町村の負擔となつてゐる。

又、此の種のもので最も重要なのは排水路で、此は水利權その他と關聯あるを以つて市町村の援助なくしては構築し得ぬ性質のものである。(例として沼津の東京人絹工場、愛知縣矢作町東洋紡績、岡崎市日本レイヨン、三重縣四日市東洋紡、宮城縣仙臺東北金屬等がある。)

珍らしいのは工業用水の助成であるが、此は宮城縣仙臺市東北金屬、鹽釜町日本硫安、岩手縣石鳥谷町大日本纖維等に例がある。

工場敷地造成の助成例は勿論多いが(岩手縣宮古ラサ工業に對し縣にて敷地造成)、その附屬住宅地の爲に敷地造成を必要とし區劃整理で行つた例は愛知縣舉母町の豊田自動車の場合が著名である。(六、七萬坪)

地上權助成は地上權の厄介な地方に多い。愛知縣古知野服部工場(地上權及作離料反當七五圓づゝ補助)、岡崎市日本レイヨン(桑園小作補償反當三〇圓づゝ市より)、大垣市大日本紡(作離料反當六〇圓を越へる部分紅五圓) 島根縣江津町新日本レイヨン(農産物三〇、〇〇〇圓、家屋移轉三〇、〇〇〇圓)、三重縣朝日村芝浦製作所、同日永村東洋紡(離作料坪當り〇・一〇圓)、北海道旭川國策バルブ(家屋移轉及耕作補償)等の例がある。

經常費助成の中の課税免除は殆ど工場誘致の常套手段となつて居て特に魅力とはならない程

である。税種には不動産、建築税、地税、全市税等種々ある。

有限期間免除では五ヶ年が最も多い。(秋田の帝國高壓二〇ヶ年無税、島根出雲織物は七年免除後一〇年半額)

甚だ變つて居るのは岡崎市の例で、誘致の費用に要したる一〇萬圓を市が會社より借り入れ、此を無利子にて年々税額より差し引いて居る。

課税免除年限例は三年のもの二件、四年のもの二件、五年のもの七件、七年のもの一件、一〇年のもの一件、一三年のもの一件、二〇年のもの一件、全年のもの七件である。(數字は例數) 公共施設使用料については水道一疋につき一・八錢、瓦斯一立米につき六錢(現在一二・五錢)として誘致を策して居る例がある。(大分縣)

電力については電力縣營の地方に於て最も徹底して居る。福井縣にて現在一キロ五錢を二錢に、石川縣にては一キロ五厘に、富山縣では現在一錢四・五厘を〇・四錢に、富山市では大口二——二・五錢を〇・五——〇・八錢にそれぞれ値引きし誘致に成功して居る。此は電力を多く使用する工場の魅力である。

第五節 工場誘致の効果とその著しき例

工場誘致の結果は當然市勢に影響する事云ふをまたない。而して恐らくそれは次の形式を採るであらう。

人口増加——地價の昂騰——稅收入——市町村民の勤勞收入——觀興收入

人口増加は云ふ迄もない事であるが、此も誘致工場の業種によつて異なる。即紡績系のは女工なるを以つて女工數以上の増加を見ない。(此を對象とする商人の小數の増加は勿論ある) 人口増加は結局男工工業にして勞働力を要するもの程人口を集結する。尤、それも理研工業の如く幼年工にして農村通勤を企圖せる場合は矢張り人口集結を起さない。結局最人口集結をなすものは重工業であるとならふ。

地價の昂騰は大體に於て總ての場合に通用する。著しき例として愛知縣學母町の豐田自動車の場合は一、二年にして或場所は一五〇割の急騰を見た。

但し普通此は五割乃至二割と見るのを固しとし様。

稅收入は一般には免稅であるから當分の恩典は受け得ない。數値については知り得て居ない

が、愛知縣彌富町では昭和毛絲工場を誘致した爲、町稅の大半を輕減する事が出来たと云つてゐる。

地價の値上りに關する例。

上らず一八件、五割以下二三件、五割二八件、一割四九件、三割一八件、四割六件、五割六件、六割二件、七割五件、八割二件、九割一件、九割以上一件

市町村民の勤勞收入、觀興收入等は總て男工工業の場合丈であり(而してその場合は又適確) 商業收入は誘致工場が消費品をその町より買ふか、工場がその町の商人をその配給組織の一環とする良心を有した場合に限り有効である。理研工場は此の後者を以つて方針として居る。此等工場誘致について最も古き歴史を有するものは濱松であるが、最近のものとしては市にて大垣、町として愛知縣學母町であらう。

大垣市の例

誘致年表	工場名	面積	補助金
昭和七年	大垣毛織	約九、〇〇〇坪	一五、〇〇〇圓
八年	若林製絲	約三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇圓

第三章 東邦各都市に於ける工場誘致の概況

第二部 國土計畫に關する特殊論考

九年	大日本紡績	約三三、〇〇〇	四八、〇〇〇圓
一〇年	岸和田紡績	約二九、〇〇〇	坪三圓をこへた分(實價坪四圓)補助
一一年	大日本紡	約六一、〇〇〇	坪四圓及補償費反六〇圓を越す分の負擔(實價坪五圓)
一二年	太陽レーヨン	約三六、〇〇〇	坪二・五圓を越ゆる分負擔(實價坪四圓)

その結果の人口増加

昭和七年	一五、〇〇〇	昭和九年	四八、〇〇〇	昭和一二年	六〇、〇〇〇
八年	三〇、〇〇〇	一〇年	三〇、〇〇〇	一二年	五〇、〇〇〇
人口増加率	大正一四年—昭和五年	七・七%	昭和五年—昭和一〇年	一七・九	
生産率	昭和七年	七六一	昭和一一年	一・〇五一	

次に愛知縣學母町は頗る避遠の地で在來萎微發達せず、人口一萬五千の小都にすぎなかつたが、昭和十二年豊田自動車(七三萬坪)を誘致するのに町費二一、〇〇〇圓を醸出反當一〇〇圓の買收費に對し一〇圓を補助し隣接地に六七萬坪従業員住宅地を造成する「斷」に出た。その結果先ず人口に於ては左の如き躍進を示した。

昭和八年—一〇年	増加數	人口	増加數	人口
一〇年—一一年	二四	一五、〇〇〇	一二年—一三年	二、七二〇
一一年—一二年	七四	九六〇	一三年—一四年	七、七二〇
			二五、〇〇〇	

地價は平均十五割の値上りを示し、町民の男子は月收五〇圓の職工となり得た。商店街收入については明確な數字をあげにくいが觀興方面では左の數値がある。

昭和一一年	妓賣上本數	妓數
一二年	五三八、〇〇〇	六一
一三年	七〇八、〇〇〇	七四
	一、一八五、〇〇〇	一〇二

第六節 結 語

以上本邦に於ける工場誘致運動の概貌を示した譯であるが、此等の都市は結局に於て既に成功し、或はやがて或程度の成果をおさめ得様としている。

かくして此の動きが國土の合理的改構に資する事は大きい。殊に目下地方計畫國土計畫が準備されると云つても、我國の現下の情勢よりしてそれは到底獨逸的な徹底したものでなく、恐らく英國的な半自由主義的なものに止らふ。然りとせば國防國家が急ぎ望まれる現状よりして、此の動きを強化する作業が重要になつて來る。

その爲には是非、國家或は公共の手による立地研究機關の設置が必要とされる。又工場の再偏倚を防ぐ爲には資金調整の如き法の力を要し誘致せんとする自治體に對してはその斡旋指導機關が必要とされる。

x

最後にこゝに一考を要するは以上の誘致を開始せる都市に對し非活動都市の存在する事である。彼等は何故に動かないか。恐らくそれは次の理由のいずれかに倚るのであらふ

甲、上記の「立地々帯」外の都市たる場合

乙、「立地々帯」内にある場合

イ、局所的に立地上の缺陷ある場合——特に時代産業に對し

ロ、誘致す可き土地を有たざる時

ハ、民心が退嬰的な場合

甲は止むなき様であるが、さればとて東北にも工場が誘致された實例あり、又理研立地の如きがありとせば必ずしも此れも絶對性のものではない。國或は地方廳等強力なる機關により特惠的な條件さへ與へられれば可能となり得る。地方廳により特惠づけられた例として富山、福

井、石川の地帯の活動がある。

乙の中は勿論最も誘致易々たる地方でなければならぬ。それにもかゝらず活動なきは概ね此ここに掲げたる三つの理由によるのである。例へば静岡縣の如き最も工業適地にして尙且工業化せざる場合は

茶業發達し——勞働賃高く——水に缺乏して

等の事が多い。高松市の工業化せざる理由も水の缺乏によると云はれてる。

次に甚屢多きはその都市が自個行政区域内に誘致す可き土地の餘地なく、餘地ある町村は此に隣接するもその力なく、しかも兩者間に合併の機なき場合である。此の例も亦實に多い。(静岡縣中泉町、岩手縣盛岡市等一例)

又總てに於て、何等云ふ可き點なきにかゝはらず、舊藩等の氣風を負ひ市民に積極性なく誘致せんとせざる事もある。此れ等の場合最も抵抗多きは、イ、なる可きも此とて策なしとはしなす。

總ては國家乃至公共團體等に強力なる誘致助成機關が出来、説得をおしまなければ必ず成功すると考へられる。併せて、かゝる機關置についても國家に望まざるを得ないのである。

第四章 國土計畫と商店街

第一節 日本の國土計畫の形式

我國の國土計畫が獨逸のコツペイであり得ない事は當然である。

國土計畫とは一つの國家がその時、當面せる事情に對し總力を揚げて對處せんとする國土態制である。

此を單に國土諸力の綜合と解し「國土計畫」に一つの定型があると信ずる如きは迂愚も甚し

獨逸はベルサイユ條約を破棄する必要があつた。

此の爲には何としても世界を敵として一戦する必要があつた。

その必要故に自由主義は揚棄せられ、又その必要に備ふるのみの再軍備計畫として國土計畫が完行せられたのである。

アメリカも國土計畫を有つてゐる。

それはアメリカの國情が求めたものであるが故に、同じ名を冠しつゝ獨逸の國土それと冬と春以上の差異を示してゐる。

我國の國土計畫は我國の現状からのみ産れる。

恐らくそれは獨逸程の「鋼鐵の計畫」ではないであらう。

然らばそれはアメリカの如き春風胎蕩たるものか。それも否であらう。

我々にベルサイユ條約破棄の必要はない。

然しさればとてアメリカの様なゴールドラッシュにもない。

自からその中間の性質の國土計畫であらう。而してそれは又、日本の特徴として獨逸の形態へ移行して行く形を採るのではあるまいか。

従つて日本の國土計畫の形式については獨逸を最大限とし現實との間に目盛りを造つて置けばその時期時期に於けるそれが彷彿とし得られる事になるであらう。

國土計畫によつて支配さる可き小賣商店街も、その條件に於て推定されるより仕方がない。

第二節 獨逸の場合

先づ小賣商に對するナチの方針は黨綱領第十六條に示されてゐる。

第十六條 我等は健全なる中産階級を創設して此を維持し、大百貨店を即時、市町村化し、

且つ此を小生産業者へ廉價に貸與し、國家各支那又は市町村における物品調達に當り、總べての小生産業者を、最も繁盛に顧慮すべき事を要求す。

中産階級を基礎として制覇をとげたナチとしては當然の事ながら、結局強權主義の留意しなければならぬのは此の中産階級であらう。

たゞ中産階級の中でも商業人口丈は自から没落す可き理論にある。此れ丈はやがて解消の止むなき事は自明であるが、ナチは此れに順序を附し先づ、小數受益者の百貨店を左右し、中産商業の處理を最後にまわした。

而してむしろ一九三三年には小賣商業保護法を出し人口三萬以上の都市の商業を許可制とし既存の商店を保護する形をさへ示した。

此等の理念がいかに國土計畫の中に反映したかは明瞭でない。

國土計畫はあく迄「土」の秩序計畫であつて、しかもその課題が強兵、食糧資材の獨立、防空國土の建設であり、方法論の重點が農村の建設、大都市及工業の分散と云ふことにあるので小賣部門は主導的なポストには顯はれて來ない。(此はおよそこの國土計畫策定要領を見ても同様である)。

たゞ大都市の人口増加を抑制する暫定措置として商業許可制が働いてると云ふ消極的な顯はれ方をしてゐる丈である。(尤フエーダアの有名な人口二萬の規模都市の中の職業構成計畫には商業人口が明瞭に一定の比率で組み込まれてある)。

第三節 我國の場合

我國の小賣商業が好むと好まざるにかゝはず國土計畫前に於て既に大きな壓力に面してゐる事は皆知る如くである。來る可き國土計畫が此に拍車をかけるであらう事は豫知出来る。

而してそれが百貨店を抑制し商店街を「國家配給機關」の代行物として全市同業商業組合と、商店街商業組合を經緯とし構成せしめんとする事は想像出来る。

而して各店舗の資本及人的要素が在來の各戸の小單位から全商店街の企業合同に迄進む可き

事は瞭然である。恐らく最後には完全に全街合資による百貨街になるのであらう。

その時の構造が街路に沿ふてアーケードを有つものである事等も眼に見る如くである。

たゞ、その時に於てもそれは現在の「盛り場」性を有するものであらうか——その問題が残る。

自分は商店街の有する希臘以來の隣保的な市民クラブ的な價值を高く買ふものである（往古は市場廣場）。

恐らくは此れあるが爲我々は隣保意識（やがて此れが國家心に迄積分される所の）の萌芽を有ち得るのではないかとさへ思つてるのであるが、或は此は充分に市場化し、現在の商店街の慰樂性に代る新しい健全な盛り場が此れに附帶して發生するのもかも知れない。

此れは永らく商店街の存在を楽しんで來た我々としては淋しい極みである。

ポアが「我々の先祖は市場に群れる事を楽しんだ。

市場は古代市民の議會でありクラブであつた。古代市場は今日の商店街である。市民は群集を好む。

快よき群集の、緩慢なる祭典である商店街が市民の吸引中心たるワケである。

かるが故に商店街の價值はその社交性にある」と讚した。

その言葉を贈つて長さ別れを措しみ度い。

ナチさへもその都市建設要領の中で

「中世の人々は町の廣場で喋りするのを楽しんだ。

町の人々の心のつながりはそこで結ばれた。いつの間には資本主義の走狗交通機關が此れを粉碎した。

新しい都市計畫の留意はそこになければならぬ」とのべてる。

その廣場の再現は商店街が引きうけて居たのである。

長さ光榮の任務だつたと云はざるを得ない。

x

以上は然し商店街内部の變化である。國土計畫の當然の動きに従つて、受く可き、商店街界全體の影響はどんなものであらうか。

先ず國土計畫は

大都市の人口抑制——進んでは工業分散——地方都市の振興——地方消費の確立

を目圖とする。

此は明である。大都市の人口抑制の爲には或種の工業及商業の新設禁止は當然想像出来る。獨逸では先に云ふ如く小賣商保護法により

- 一、必要なる内知識が證明せられた場合
- 一、提議者が人格的に信頼し得る事

一、一般的設立禁止の例外許容がその地方の同一商業部分の過剰を來さぬ事

以外の場合に店舗の新設、擴張移轉を禁じて居る。

我國に於ても國土計畫は大都市に於ては新しき商店街増設を希望しないであらう。

而してその反動として素晴らしき僥倖をうけるのは地方小都市でなければならぬ。

地方小都市はその能力に應じ工業を附與せられ強化せられる。

此れによつて地方の商業が振興せられる事は云ふを俟たない。

たゞ若しその場合工場内購買組合が發達する様な事があれば、それも可成りのブレイキをうけるワケであるが、恐らく新しき施設により既存中産階級を崩壊せしめる事は極力さくる必要があるので、此れもその購買組合をその市商人に引き受けせしめる方法により保護されるので

はないかと思はれる。

殊に自分は商店街が完全市場となる以前に地方商店街に一つの黄金時代が來るのではないかと想像する。

それは國土計畫當然の仕事として國民の郷土定着化を圖りその爲に國民に土地と家屋を所有せしめ又地方にパンと消費の中心を興へる。そうした事の爲に地方々々に強力な消費中心たる商店街を確立せらるゝのではないかと思ふ。

尤、大都市主義は廢棄せられてしまつてゐるので人口二〇萬以上の都市は想像されないであらうが、それはそれに代へて次の様な形式で積分的な人口を有つ事になる。

即人口は交通機關の強統制によつて夫々の中心に保證結集される。

中心都市の結集半徑は三〇軒、第二都市は一〇軒、第三都市は五軒位と想像される。

かく組み立つる時は、中心都市は集團人口二〇萬であるが實質人口一五〇萬位な人口の中心となり得る。

かゝる中心が三〇軒の半徑を以つて（現在大體然り。但し現在にては此の交通が保證されてゐない。第二第三都市乃至それ以下の聚落は隨意、他のより強大なる都市に吸引されてゐる。

その爲に地方中心が強力とならず魅力を備へない) 全國に分布される。

それは防空よりも、國民保健よりも國民の郷土定着化から云つても理想に近いものである。

その結果新しき商店街の再分布が行はれる——事になるのである。

ナチ計畫には強權による國民郷土化はあるが此の人口の積分構成による大都市價值再現による郷土化の方法が缺けて居る。

此の點試案として誇る所以である。(尤、こゝに交通調整と云ふ難事業が前提となる)。

第四節 結 び

以上が國土計畫に於ける商店街の推定し得る姿である。

現に國土計畫前夜としての都市計畫は大都市に於て

住居専用地區——工業専用地區——空地々區

等の制度により大都市の形に整理を加へつゝある。更には又「交通専用道路」は道路の兩側に建築線の後退乃至風致地區の設定等により家屋の接續を防がうとして居る。

又當然考へ可き問題としてせまつてるのは「大都市中の商業人口の整理の必要」に伴ふ「地

方の新興工業都市の人口構成」である。

此の新興工業都市の商業人口はどこから來るのか。

若し夫れが周圍の農村から轉化されて來るとするなら、ちびたゞしき新商業人口が生れる事になる。それでは大都市の血のマイナスは地方で平然とプラスされる。

一國全體としては變なものである。

自分の案としては、先づ大都市の要分散商業人口をその新興都市に代入せしめる。

即、大都市商業人口をしてその優先商業人口たらしめる事を提唱してゐるのである。

とまれ既に序曲は初まつて居る。

誤りなきと同時に果斷なる指導が必要にせまられてゐるのである。

第五章 都市計畫による都市振興讀本

——或市長に贈れる——

第一節 概論

一、都市の興亡

一體都市なんかにも盛衰があるのでせうか。

若し「ある」とすれば、都市に生活の根據を有つものにとつてこんな不安な事はありません。而して事實は何人も知る如く矢つ張り盛衰があるのだから油斷がありません。

徳川時代に、街道の花と咲きほこつた東海道の各驛が、今は見る影もないものになり果てた話は誰でも知つてゐる事です。

川崎、八幡が二、三十年の間に十倍以上の人口になつてしまつた事も皆様御承知。

然しそう云ふ例は餘りハッキリしすぎて居りますが、例へそこ迄はつきりしないでもヨク人間がどうも身體の調子が悪るとか好いとか云つてゐる中にひどい病氣になつてしまつてゐる様

な事がある様に、一つの都市が何となく活氣があつたり近頃どうも不景氣でと云ふ様な事があ
ります。

それが世間一般の景氣に支配されてそうなら問題はありませんが、世間の景氣と關係なく沈
滞してゐる事がある。

是はその都市に老衰が近づいて來たので是を放つて置くと何處迄變な事になるか解りませ
ん。

決して此の場合いつか何とかなるさ等と高をくゝつてはならない。

取りかへしのつかない事になるかも知れないからです。

そこで年よりがよく血壓が低いとか高いとか心配する様に都市にも健康診斷が必要となるわ
けです。

二、都力推定

都市の健康診斷の方法については未だ好い研究も出來て居ない様であります、私は私丈の
考へで一つの方法を有つて居ります。

まあ、それで計つて見て今迄大過ない様ですから御傳授申上げませう。

これもクドクド申上げて居りますと時間がかかりますから先ず表示して御眼にかけませう。

都力測定指數

生産指數

生産率

生産額人口一人當

標準二〇〇圓

人口増加率

標準 年二%

消費指數

商業率

商店街最高 地價人口一人當り 標準五厘

或は 消費指數 2/3 人口

歡興率

藝、娯給、計人口千人當り 標準五人

燈率

電燈人口一人當り 標準〇、九燈

蓄積指數

税率

直接國稅人口一人當り 標準 五圓

貯金率

郵便貯金人口一人當り 七〇圓

その町の力を生産力と消費力と蓄積力との三つに分けます。

此の三つの力は必ずしも比例するとはさまりません。

独自の角度からその都市の力を示します。

生産力はその都市の總生産額を人口で除した生産率と、人口増加率と二つ併せて計ります。

生産率で好さ相なものです。これが頗る曖昧な場合が多い。

又増加率でも相當生産力を顯はすのでありますが、これも獨立には使へません。

町村併合その他の理由で増へてゐる事があります。

此の二つは必ず併用す可きであります。

それからその都市の状態が健全な場合、此の二つの數字は約

$$\frac{\text{生産率}}{\text{人口増加率}} = 100$$

となつて居る様です。

生産率の高い事はその町に活氣がある事を意味しますが、それは必ずしもその町に金が落ちてる事を意味すると限りません。

金は蓄積乃至消費の形式で落ちます。

消費指數は商品的なもの、飲食、觀物と云つた様な歡興的なもの、二つに分かれます。

此も相互に必ずしも深い關係があるとは申されません。

そこで此れを併用する事が出来ないのので、自分はその吟味指數として、燈の數を使ひます。夫々に併せて用ひます。

此の中商品的な方は、地價で表はれますが此が人口一人當り五厘と云ふ標準で大體見當づける事が出来ますが、地價指數と人口の方が一般的な様な氣もします。

蓄積指數については夫々適當なものもありませんので國稅一人當りを用ひてゐるのです。

それから此れ等の指數は必ずしもベストであると思つては居りませんが、たゞ得易いものだからあげた丈であります。

此等の數字は都市年鑑さへ見れば大體地價を除いて皆手に入ります。

三、國土計畫との關係

さて以上の測定標準で都市の力を測りますと大體何かと病態が解ります。

例へばこゝに甲乙丙の都市があるとします。

生産率	甲 一〇〇	乙 六〇〇	丙 一〇〇	丁 一〇〇〇
-----	-------	-------	-------	--------

人口増加率	一%	五%	一%	一%
商業率	二厘	五厘	七厘	一厘
歡興率	五人	一〇人	一〇人	二人
稅率	三圓	八圓	九圓	三圓
貯金率	二〇圓	七〇圓	七〇圓	二〇圓

甲の様な都市はそのまゝには住めません。

そして若しその都市に觀光的な材料でもなかつたら、工業振興を無理にもやらなければ衰滅する虞れのある都市です。

乙は隆々として天日の如き都市であります。

丙は若しその近所に工業都市でもあるのでなかつたら恐らく城下町か何かで有福な町でせう。(例、金澤仙臺等)

そして若し此れが近所の都市の工業力の反映によるのでなかつたらやがていつか甲同様の形になる虞れがある都市です。

丁は逆に恐ろしい勢で伸びてる新興都市の形ですが、此は工業に餘りに專一であり過ぎた爲

吸収能力たる消費が育たなかつた形であります。決して見かけ程幸福な都市ではありません。

(例 川崎、八幡)

さてこふやつて測定してみると、大體病狀乃至處法が解つて参ります。

そこで振興策となる譯でありますが、此が近頃の國土計畫で少し前と變つて來るのではないかと思はれます。

即、國土計畫のなかつた頃は、都市振興は可成り難かしい問題でありました。

可成り無理をして、やつてそれで必ずしも實效が上るとはさまりませんでした。

それは東京、大阪、名古屋、北九州と云つた様な強力な都市があるので、どうしても地方の中小都市はその殘飯以上を貰ふわけに行かなかつたからです。

然るに國土計畫は此の四つの強力な都市その他、大都市に人口なり生産が偏るのを防ぐ事を第一次の仕事とします。

出來れば此れを粉細して地方の不景氣な小都市や農村にバラ撒き度い。

それが國力から云つても、國民體位から云つても國防から云つても好いことでもあります。

従つて國家はあらゆる政策を以つて地方都市の振興を誘導する。

従つて地方の小都市は今度は初めから御客さんであつて御馳走は眼の前にある。

そして此れをたべることが國策なのだから問題はありません。

たやすく、實效が大きいのですから全く海路の日和です。

尤、此は獨逸の様な強力體制下の國土計畫だと、口さへ開いてればボタモチがひとり手に入つて來るわけですが日本の國土計畫はそこまでは参りません。

そこに奮發する都市としない都市との差を起し易いのです。

つまり棚の上にボタモチはあるが背伸をして採る丈の條件があるわけです。

第二節 都市振興策種々相

さて以上の様なわけで特に中小都市は振興策を講じなければなりません。

又その可能な時代が参りました。

又、例へ大都市でもそれが眞の振興状態でないものは直さなければなりません。

そんな、こんなでいろんな振興策が考へられるわけです。

都市の振興策にどんなものがあるか、例によつて話を簡単にする爲に先づ表示致しませう。

都市振興策

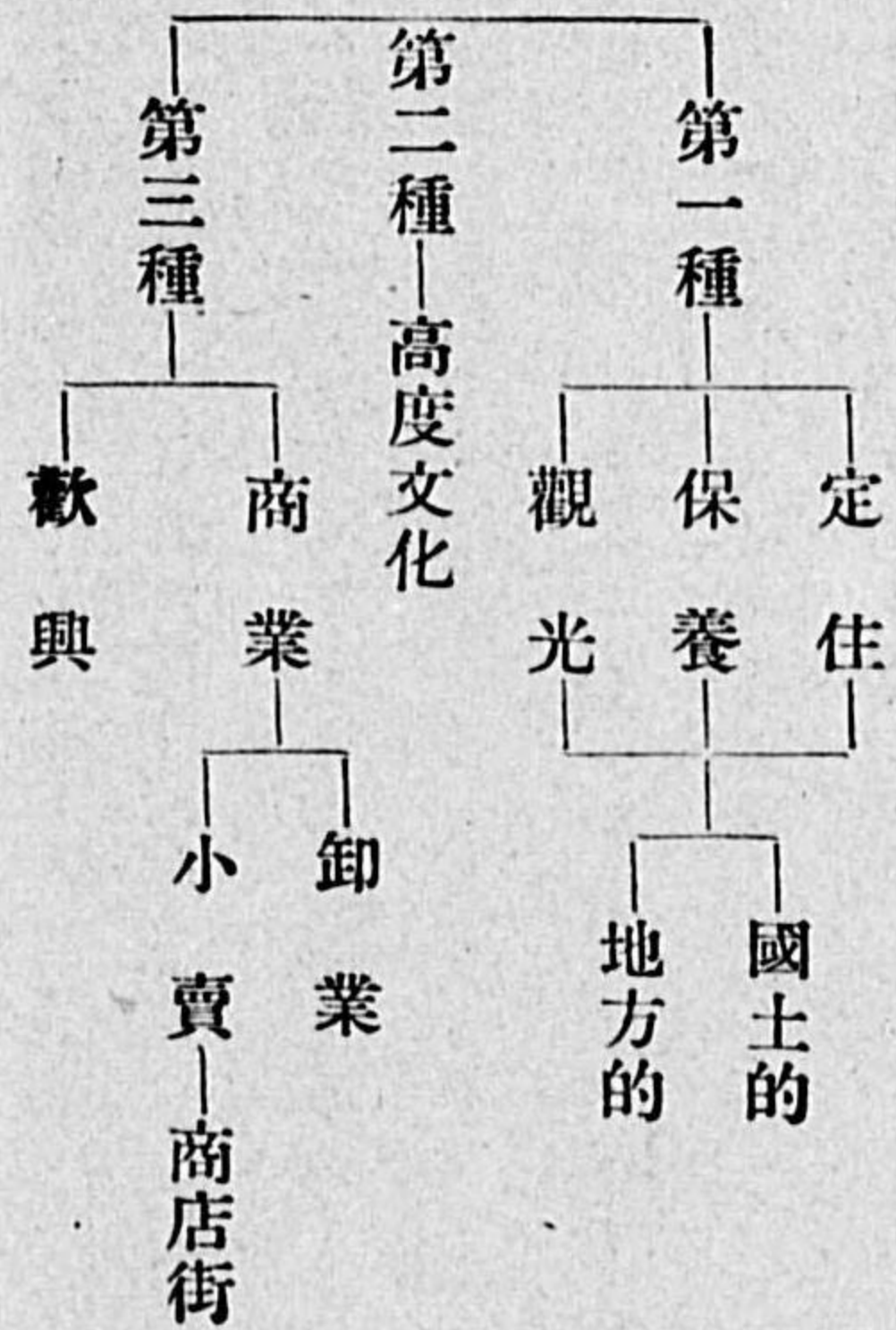
イ、政治、軍事、文教等の施設の増強
ロ、生産振興

自市工業

圈内(十五軒)農業

圈内工業

ハ、消費整備



ニ、交通整備

但し地方的乃至國土的のもの

都市は大體こんな様なものを基因として盛衰して居る様であります。

振興策も自から此等による事になります。

而してその中イ、は大した難かしいものではない。

此はそう云つた様なものを誘致する事で努力を惜しみさへしなければ何とか出来ます。

又努力しても仕方のない事もある。

又最後の交通整備の問題は之は港灣を造るとか鐵道終端にするとかの問題で、此れも大效ある事に議論はありませんが、たゞ、どんな場合にも何とかなると云ふわけでもなし又誘引策と云つても大してむづかしい問題ではありません。

私がかゝで皆様に御話し度いのはロ、とハ、の問題です。

ロ、では自市工業の誘發、ハ、では觀光計畫、商店街計畫、歓興中心計畫等について申上度いと思ふのであります。

結局御話しを分けて

工場誘致法

都市美計畫

盛り場計畫

と致します。

第三節 工場誘致法

振興策の第一次は工場誘致であります。

一、誘致の必要な場合

尤、之は

イ、自市工業が生産率人口當り六〇〇圓以上ある場合

ロ、自市工業は二〇〇圓位でも隣接都市(三〇〇圓以内)が工業的に強力であり(六〇〇圓以上)自市の消費条件好く、その隣接工業都市が既に消費的の適性格を缺いてる時等の場合は、工業誘致の必要はない。

そうした場合は、むしろ此の次申上げる都市美計畫に直進す可きであります。

然し、そうでなく

イ、自市は工業力二〇〇圓以下であり、隣接工業都市なく

ロ、隣接工業都市あつても自市に消費条件なき時

どうしても工場誘致をしなければならぬ。之は必至であります。

二、誘致方法

工業發生條件

自然環境(湿度、空氣等の)

消費地に近き事

資源地に近き事

媒材の所在地に近き事(電力、水、石炭等)

労働地に近き事(質及量)

之は一般に工業立地條件と云はれてるもので、私に云はせると工業發生の「地方」を決定する條件であります。

然し之等の條件も國土計畫や時代の推移で大分變つて参ります。

又此の基礎條件が當つて居りましても同じ様な土地が無限に擴がつて居る場合は、その様な「地方」のどこに工場が來るか「誘致」が決定する事になり相であります。そこで昔からの工場誘致法をあげますところあります。

(工場誘致法は第二部第三章第三節を参照するものとして略)

こゝに最重要な事は之等のモトになる條件として

土地の氣風

誘致都市の條件

と云ふものが左右してゐる事が解ります。

土地の氣風について申せば餘り保守的な所ではどうしても此の運動が初まりません。

玉を抱いて罪ありで誰が見ても何とかかなり相なのに、何ともならない場合がよくあります。

小さな事にコダワツたり、ひがみ根性が多かつたり、町全體の事なんかどうでもいゝ自分の事しか考へない。

又何か少し進んだ考へを出すと思つてしまふ。

こふ云ふ精神が指導部にあつたらおしまひです。

先づ女房の不作同様或はそれ以上の意味で市民は氣の毒です。

それから、いくら市民がその氣でも工場を誘致す可き土地がない事がある。

例へば甲町は資力大きく工場誘致でも何でもし度い。

然し昔から町村併合をやらないので土地は寸尺も餘つてない。

然るに、それに隣接した乙村は驛にも接して居り、土地はあるのだが誘致する資力はない。

こふした場合よく提携すれば片がつくのですが、お互に一殊に乙村の方に何だいと云ふ氣があつて一歩も進めない。

こふした例は實に日本中に多いのです。

厭やな例で決して興國調ではありません。

此れで動きがとれない場合は官廳なり何なりの獻身的な斡旋が必要です。

或は前申した精神上の缺陷の場合も官廳側の斡旋で或程度ゆけるかも知れません。

此の邊の美しい例は群馬縣の太田で、太田の人達の骨折りで彼處の出身者中島知久平氏が大了した、特別の立地條件なきにかゝらず太田に工場をたてる事になりました。

そこで近隣の町村が合併して大きな都市を造つて、此れを迎へる事になりました。

人口五〇萬位の都市は造れると意氣込んで居ります。

まあ、一つの美談でありませう。

三、都市計畫

工場誘致の場合都市計畫は何をすればいいか。

之れは恐らく次の様なものでせう。

工業地域、出來れば工業専用地區の設定

交通中心を利用し得る様道路及運河の計畫

工業用水及排水路計畫

労働者の爲の慰樂施設

區劃整理

就中、區劃整理は最重要で之れによつて工場誘致地も出せば(例、名古屋市に多し)道水路も實現出来るのだから之は最大切です。

又、工業専用地區としたのは工場適地を他の目的のものに亂用され工場の來られなくなるのを押へる爲です。

第四節 都市美計畫

生産計畫について消費的な計畫に入ります。

此の消費計畫程日本でないがしろにされてるものはないのでありますが、私をして云はしむれば之れ程その都市の爲にも國家の爲にも重要なものはないと思ひます。

國家の爲には人的資源の培養環境として、都市の山紫水明性を回復す可き事は最近漸く唱へられ初めました。

之れについて否やはありませんと思ひます。

都市の爲——と云ふ意味は次の様になります。

先づこゝに一つの生産都市があると致します。

之れが非常に強力で生産率に於て人口一人當七〇〇圓乃至、一、〇〇〇圓位になつたとします。そうすると不思議な事に此の都市の消費力が下つて來る。

地價は下る。商品は賣れてもロクナものが賣れない。

そして此の都市がこんな風に不思議な貧乏をしてゐる時に此の都市の二〇—三〇軒のところ

にある縣廳所在地見たいなところが頓に商店が賑になる。
金が入る。

之れはどうした譯かと云ふと、その生産都市は生産一途で都市美をかへり見るいとまがなかつた爲消費的な環境が破壊されてしまつたのです。

早く云へば働くところではあるが金を使ふところになつてしまつた。

之は生産都市自體としては實にくだらない話で、之は何とかして生産消費兩建てで行かなければならない。

その爲には強力に此の都市美計畫を浴せかけなければなりません。

先づ都市美計畫で不快な汚れを一掃する。

そしてその上にその都市美保證區域の眞中に消費の精神を確立させる必要がある。

又此の場合此の生産都市のシテ役にあたつて(従つて少々賢い所の)「消費一方の都市」としては工業都市たる相手が仲々都市美的に回復出来ないところがつけ目でせう。

自市としては施設維持に必要な程度の精々二〇〇—三〇〇圓一人當りの生産力に止めて置く。

そして専ら都市美に集中隣接工業地帯の成果を吸収する。

人の悪いやり方だが、最も賢いやり方でもあります。

こふ申すと何か私が好んで都市同志のけんくわを望んで居る様であります之れは物の申し様でありまして、國家としてはあらゆる都市が生産消費相侵さずバランスして居る時が最好いのであります。

それから都市美が別莊地、觀光地、保養地等の利用價值を高める爲に必要至極である事は問題ありますまい。

まあ、それやこれやで此は一見頗る重要なのであります。

都市美計畫を大別すると次の様になります。

都市整備

都市美裝

都市造型

慰樂綠地の配置

都市整備と云ふのは餘り大げさなものでなく都市の亂雜さを整理する程度のもので、都市美

装は都市の公園化、都市造型はそれから進んで都市に美的中心を造る事です。

一、都市整備

特に日本の都市の中で何とかしなければならぬものは

空中及公水面の淨化

建築及廣告の整理

路上構作物の整理

空中及水面の淨化の中空淨化は大都市の場合丈ですから省きまして公水面の淨化ですが都市には特に静水面の汚れた場合が多い。

此れを清くする爲には

淨化水の注入

汚物投棄の嚴禁

上流に工業污水多き工場を設けぬ事

と云つた様な配意が要ります。

河川に工業用水や下水を流入せしめる必要があるなら、それはせめてその都市を出た下流の

所でやつて貰ひ度いものです。

又特に工業地域の撰み方は此の際重要な事で決して之を都市の上流等にもつて行つてはいけません。

(盛岡の北上川が上流の鑛毒で汚れたり、高知の市中の流れが上流の工場の爲に汚かいを極めて居るの等絶對に問題です)

次が建築及廣告の整理ですが、建築は兎も角として日本の都市が廣告で屑籠同様に汚されてる状態は困つたものです。

之は美觀地區を造つて建築の取り締りをやると同時に廣告も整理して廣告場所を決定するなり、廣告塔をこしらへて、そこへまとめるなりしなければなりません。

上海で廣告ランドと云ふのを見ましたが、半月形の芝生に沿ふて廣告を配置した美事なものでした。

日本では眺めで一番大切なところへ廣告をやる事になつてゐる。利益の爲に公益をかへり見ざる不埒至極な神經です。

第三が路上構作物ですが之れに

電柱、交番、ポスト、便所等ゴミ箱、自轉車等

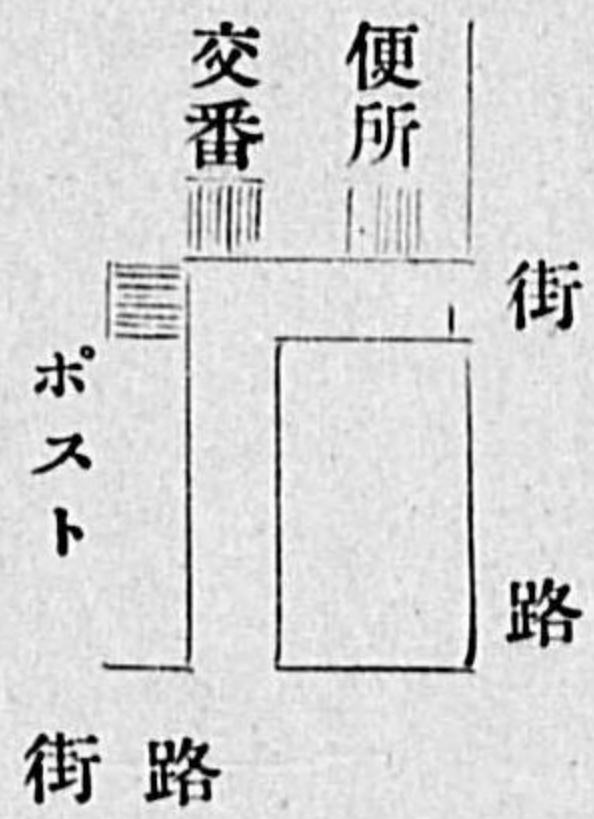
等問題があります。

電柱は地下へ埋設す可きものなのですが、それでは餘りお金がかゝつてお話になりません。私の案では各道路に併行して路次を通します。

此の路次に「電柱を通し」「ゴミ箱を置き」「自轉車を置き」ます。

アメリカの例では此の路次に必要に應じ小廣場を造り、そこで荷造り何んかをさせます。うまい考へです。

交番、ポスト、便所等についてはやり場がありません。



私は此は街路の重要交叉點に直角の路次を造り、それに入るか、或はそう云ふところへ横斷地下歩道を造りその中央に地下廣場を設けその中に入れたらと考へてます。

此の地下廣場は有時の際の防空壕にし様と云ふ譯です。

二、都市美裝

之れはいはゞ都市の公園化であります。此のやり方は

水邊美裝

街路美裝

等に分かれませう。

水邊美裝は云ふ迄もなく水邊の美裝ですが、都市に於て此の水邊程魅力のあるところはありません。

所が概ねどこでも之は一向水を利用し相もない連中が物を干したり汚物を投げ込む丈にしか使つて居ません。

私は特に都市の中心部の河川湖沼の周圍は必ず太い道路で縁取り度いと思ひます。

都市の中心部許りではない、市民が逍遙する事の出来るところは皆そうし度い。

即水邊に沿つて少くも三―四米の植栽地帯を取る。

その外が歩道で二米位、それから又植栽で之れが又三―四米、その外車道及歩道、家となる譯です。

そして所々に小さな足溜りになる様な小公園を設ける。

又、こふ云ふ河畔、湖畔は夜の利用も多いから初めから適當な照明を計畫しとかなくては

けません。

又、街燈が街樹にかくれない様に氣をつけ出来たら緑を益々緑にする爲水銀燈等と云ふのを用ひるのも好いでせう。

街路の美装としては、街路樹が問題になりますが私はそれより一步進んで適當な廣場、廣小路を所々に設けて街路に變化を與へて貰ひ度いと思ひます。

殊に廣場は大變な値打ちで私は日本でも此れに、小さな藝術的な調刻を置く日がくる事を祈つて居ります。

外國の都市の美しさは建築の美しさ、も一つは此の廣場の美しさです。

それも百坪ソッコの廣場に芝生が眞青になつて居り、それに可愛い、お伽噺の彫刻が置いてあるの等エも云はれません。

水邊街路を通じてどの場でも大切なのは道路や水邊を美しくかざるのみならず、そうした場所の建築を考へる事で、水邊なら水邊の曲り角、道路なら道路の正面突き當り等に來た建築は意匠に注意して貰はなければなりません。

又そうした場所には出来る丈け公館の顔を出す事です。

三、都市造型

次に都市造型ですが、之は都市造型だ等と云ふムツかしい文句を使ふと解りにくい。解り易く申せば都市を都市美的に組み立てる事です。やる事をならべれば直ぐ納得が參ります。

都心構成

文教中心構成

住宅地構成

工場遮斷構成

都市美街構成

丘陵計畫

先づ都心と云つてその都市の中心を造ります。

公館の集合地の中心に廣場を造り、各公館も美しい建築にしその前庭は美しい庭園にする。その前庭は往來から出来る丈眺められる様にする。

日本には之は少ないのですが臺灣の各都市のは實によく出来て居ました。

之れが、あるないで町の品位は丸で違ひます。

次に今度は神社や學校の周圍をせめて五〇米以上の幅の綠地帯で包み又神社や學校の正面に美しい取りつけ道路をつけます。

之れも殖民地の神社では立派にやつてました。

京城の朝鮮神宮や臺北の臺灣神社等好い例です。

私は此の綠で取りまく手は市中のあらゆる神社や學校でもやつてゆき度いと思つてます。

續いて今度は住宅地の美化で之は大邸宅のある所も工場住宅地も同じ事で美化してなくてはなりません。

どうも日本の住宅地は大邸宅のある所は石塀許りだし工場住宅はキリギリスのカゴ許りだし話になりません。

家には充分の空がある様に垣根は出来る丈ない様に。

家々は必ず道路から相當空地を置いて建つて居る様に。

家の集團の中心には廣場がある様に、その廣場は美しい廣場である様に。

そんな風に我々は希望してます。

又そふ云ふ一團の住宅地を通過交通が通る事も絶対にさけなければなりません。

出来る丈安靜にす可きです。

工場地は工場地で又綠化して置く必要がありますが(各工場の中に充分綠地を採る)。何にしてもそう云ふ工場地帯と一般の他の地帯とは何か太い綠地帯で遮斷しなければなりません。

外國の或都市では(田園都市レッチャオース)その爲に初めから工場地と住宅地の間にゆるい丘陵地がもれ上つて互に視野に入らない様に考へて居る所があります。

又獨逸ではその綠地帯に畑を用ひて居る所もあります。(フランクフルト、アム、マイン)

都市美術構成は町全體を都市美的な大道路で大きく組み立て居るのです。

そう云ふ目的の爲にはその町で一番大きな幹線を使ふ。

それはドウしても五〇米以上のものでなくてはなりません。

それをさき程の都心から十字乃至星形に放射させます。

そして都市の周圍に同様の幅の幹線を丸くめぐらす。(維納のリング、巴里のブルバード)

即放射型構成をやるのです。

まあこんな事をやつた末に若しその町を見おろす事の出来る臺地があつたらそれを必ず公園

にし美化しとく。

之は高臺から都市を眺めせしめる事は市民精神涵養の意味から云つて大切であり又最都市を美しく眺め得る方法だからであります。

ざつとこんなことで都市美の最重要な都市造型が出来上るわけであります。

之れで名勝舊蹟があれば夫々緑で包み之れを此の都市美の組み立ての中に結びつけるので

四、慰樂綠地の配置

以上の様に都市美構成をすると

住み心地を増し

散歩價値を増し

觀光價値を増す

等種々ないみで消費價値を完備するワケであります。此の外にどうしても

鑑賞用の公園

運動用の公園

娛樂用の公園

と云つたものが必要であります。

鑑賞用の公園は眺る一方のものでありますが舊蹟や、城跡等是非公園として置かなければなりません。

之は觀光價値から云つて重要至極です。

運動公園はその支配する「地方」の青年や何かを吸収する働きをします。

娛樂公園は動物園等のある公園で之も必要です。

私は將來スポーツランドの様な東京の郊外にある玉川園とか何とか云ふ様な大人も子供も樂天地が發達するのではないかと思つてます。

どうもそう云ふものが一つないと觀光地としても足だまりがつかないでいけません。(その點觀光地に温泉のある事は一應それ丈で足溜りになるからありが度の條件です)

それから公園計畫全部についてドウも日本の公園はゴロリとコロがつて休ませて貰へるところがありません。

ベンチではどうもユツタリしない。

公園の中には是非そう云ふところがほしいと思ひます。

又娛樂用と云へば水面があつたら必ず船が浮べられる事も楽しさを増します。

船のない水面は何となく淋しい。

そんな事も考へていただき度い。

五、都市計畫

都市美計畫は殆ど全部が都市計畫ですから取り立て、都市計畫は此れ此れと申す事はありません。

住居専用地區

美觀地區

風致地區

廣場計畫

街路計畫

公園計畫

等と云ふ事になりませう。

風致地區は仲々便利な法律で美觀道路の沿道等之れで押へるといつ迄も美しい風致が得られる事になります。

第五節 盛り場計畫

消費計畫の「上り」は盛り場の計畫であります。

「銀座」及「淺草」の建設であります。

之は私の都市哲學から申せば國家的に重要至極なものでありますが、まあそうした悠遠な説明は此の際はふきませう。

たゞちよそ一つの都市として何はともあれ之れのシツカリしたものを有つ事は都市經營の上から云つて抜きさしならぬ重要事だと云ふ事に御氣づき願へばいゝのです。

さつき申した様生産都市としていくら働いても、ソノ働いた金がヨソの都市で消費されたりいくら住み好い住宅地になり都市美的に模範的なものが出来上つても、結局市民が其の都市で何にも買はないものなら變な話です。

逆に又其の都市が一向生産的に活動しなくても周圍の都市からドンドン金を使ひに來ればそ

れでも好いぢやないかと云ふ事になる。

まあ種々な意味で之は重要な仕事であります。

それから又此の金を費ふ「商店」も必ずしも「銀座」「淺草」の形式でなくても好いぢやないか。

商店さへあればそれで好いぢやないかと云ふ様な事も云つて云へない事もないではありませんが、一つは私の都市哲學から云つて「銀座」「淺草」の形式が欲しいし現代人は又そう云ふところで物を買ふのが好きであるし事實論理的に云つても商業と云ふものはあゝ云ふものに集約されてゆきつゝある現状です。

大なり小なりあゝした形式になる可きものでせう。

一、盛り場の基礎計畫

1. 盛り場の數

さて然らば盛り場を造るとしてそう云ふものは一つの都市に幾つ位あるのかと云ふ様な話になります。

之も理屈ぬきに簡単に申せば大體之は相當小さな人口の時代からあり得るのですが誰にも満

足を與へ得る様になるのは人口一〇萬位の時です。

地價で云へば三〇〇圓以上五〇〇圓位。

交通量は夜の八時から九時位迄の間で一〇〇〇人位流れる。——と云ふ町が非常に賑か歩いてる人達も頗る樂し相である。

こう云ふのが街の長さで一軒位。そしてそれが中心距離で二軒置位に一つづゝ出る。

その一つの盛り場を中心に一軒の圓を描いて見ると丁度所屬人口が五萬乃至一〇萬位になります。つまり人口一〇萬に一つとなるわけです。

2. 盛り場の形

此の盛り場の道路の方向や幅は種々で方向は決して居ないと云ふ方が本當の様です。

道路の幅は出て来る人の量に對し狭からず廣からず自動車の通らない路なら四—六間幅。歩車道のある時は歩道三間以上。そんなところが現實に成功してる様です。

盛り場になる爲に大切な事はその街が片側町にならない事。

堀が出たり工場が堀を出したり神社の土堀に顔を出されたり宿屋が占領したりする事は困る。

空地や銀行も禁物です。

又盛り場の中を車が通り抜ける事も絶対禁物です。

之は副道か何かをこしらへて通り抜ける車は或時間はツチラへ流せる様にしなくてはなりません。

又是非こうあると有難いと思ふ事は盛り場の大切なところに廣場がある事で(宇都宮の馬場、松本のナワテ)之は建築線の後退で、廣小路の様な感じを出すのでも一向かまいません。

私は今名古屋の大須の盛り場計畫の相談をしますがあそこではアーケードで建築線の後退させ廣小路の感じを出しました。

さてこんなお話では未だ何だか盛り場の形が眼に浮ばないでせう。

そこでもつと具體的に申すと盛り場には種々ある。

市場商店街

都市美商店街

商店街盛り場

感興盛り場

綜合盛り場

此の中商店街盛り場迄は直線式で之は人口二〇萬位迄は此の形です。

之れが感興盛り場即淺草になると集團的な形をとる。

之は一つの都市がその發達過程で「銀座」と「淺草」を別に造る様になつた場合でこの「淺草」的なものが獨立してヒョッコリ生れる事はまあないと見て好いでせう。

綜合盛り場は「銀座」と「淺草」が組になつて出た場合、

之は人口五〇萬位からその中心盛り場として出ます。

此の綜合盛り場は大體「型」になつて居てソノ一方の脚が銀座になり一方の脚が淺草になるワケです。

今の廣場の問題は商店街盛り場と云ふ様な「銀座」の中に「淺草」的なものが芽生へて來て一寸した中心を見せ初めた様な時はソノ部分。

感興盛り場ならその集團の中心。

綜合盛り場ならソノ「淺草」部分の中心に欲しいのです。

その廣場が足溜りになり心理的に人を吸収し且人足をそこで停らせませう。

サテ之で大體の粗つぼい骨組みは出来ましたが實は此れ丈では未だ大切なかまへが抜けて居ります。

そのかまへのお話をする爲にはも一應盛り場の根本問題に戻らねばなりません。

それは盛り場の視ひは何であるかと云ふ問題です。

盛り場の根本的的目的は何であるか。

之は誰でも先ず問題なしに、第一に

平面デパートたらしむる事

と斷定なさり得る。

之は商人から云つても消費者から云つても「その通り」である。

然し私は私で盛り場の目的は此の他にもつと重大な事があると唱へてゐる。それは市民にとつて、

愉快な楽しい市民クラブになる事。

である。

私は特に此のartの方の目的に重要性を認めて居るのです。

私のウルサイ盛り場哲學も實はこゝから出るのです。

此の平面デパートについては必要にして且充分な丈の店數を集め(數に於て約一五〇軒)それが皆信用のある好いお店ならそれで問題結了であります。

然し「愉快な市民クラブ」たらしめるのはソウ簡單には參らない。

此の爲には今申上げた廣場がある事なんか非常に有効なのですがその他に大切な條件としては街の形が「包まれた感じ」になつて居らなければならぬ。

例へて云へば街路なら直線街路よりは丁字路『字路乃至曲線道路がよろしい。

廣場等でも道路がクシザシに通つてより廣場に對して喰ひ違ひに入つての方が廣場の包まれた感じが出ます。

此の包まれた感じになつて初めてその中に居る人にクラブらしい落ちついた感じを與へるのです。

3. 盛り場の誘導強化施設

以上の様な構が出来上つたところで今度はそれを商業的「市民」クラブに仕上げる爲には

イ、朗なる市民の流れ

ロ、商品の鑑賞

ハ、都市美（特に夜の）

等が之れを肉づけしてくれなくてはなりません。

此の中、ロ、ハ、についてはあとで種々申上りますが、イ、は理論として盛り場自體もその發達するに従ひ吸引を初めるわけである事勿論であります。が盛り場が初め生れ出る爲又、例へそれが伸びて最中でも之れを強化するものとして盛り場外の有力なシカケによりこうしたものが流して貰へれば、之れにこした事はありません。

此の「朗な市民の流れ」をこしらへる仕掛け即、「人寄せ」の方法に二つあります。

一つは兎も角何でもかでも人を寄せる法。

例へば

- 停車場
- 市場
- 官公署
- 學校

と云つた様なものを設置する事等でありませぬ。

たゞこう云ふものもとなつて商店街が出来た例はありますが、こう云ふ「人寄せ」によつて寄せられた人はその氣持が、せわしいので盛り場に本當に向くとは云へませぬ。

盛り場へ來る人間は初めから多少朗な平和な氣持であつてくれないと有難くない。

そう云ふ便利な人寄せとしては

- 百貨店
- 劇場 映畫館
- 社 寺

等と云ふものがあります。

事實昔から社寺、劇場の前に盛り場が出来易い事は皆様御承知のわけであります。

こうして雪ダルマのシンが出来ますとそれを包んでそれからそれと盛り場が大きくなつて參るのであります。

4. 街力測定

さて、以上の様な基礎計畫について、整備に入るわけですがこんな基礎計畫をいついかな

る所でもやれると云ふわけのものでありません。

街の希望その股賑過程等に應じてやらなければならぬ。

そこでそのやれる程度をさめる爲に街の力を測定する必要があります。

之れにも私の使つてゐる標準があります。

先づ地價で一、〇〇〇圓以上する所ならそれは日本的で觀光價値のあるところです。

「綜合盛り場」位に當然なつて居る所ですし又して好い所です。

地價三〇〇圓位が又一區切りで此の位から以上ですと、大分市内でも遠い方から人が来る盛り場で五―六〇〇圓になればそれが地方的な中心になつて居り三〇〇圓代だとその町の中の各方面から人が来る様な場所です。

五―六〇〇圓級は「商店街盛り場」らしい整備の出来る時ですし三〇〇圓代は「都市美商店街」で街を美しくする位がせいぜいです。

一〇〇圓級はやつと商店街が出来上つた時代で此れ以下では街になつてません。

だから一〇〇圓以上する所なら可成り思ひ切つた基礎的な根本計畫をやつて然る可きですし、三〇〇圓から五―六〇〇圓なら次に申す整備時代。(五―六〇〇圓は中間かも知れない)一

〇〇圓でしたら極めて金のかゝらない方法しかやれません。

此の街の力を交通量でも大體測れます。

之は夜の人の一番出る時間例へば八時から九時位迄の一時間の交通量で計る。(年の最平均した時)。

それが一〇、〇〇〇人以上でしたら一、〇〇〇圓級五―六〇〇人以上でしたら五―六〇〇圓級、二三、〇〇〇人だつたら三〇〇圓級一、〇〇〇人以下だつたら一〇〇圓乃至以下と見當がつきます。

之は極大體ですがそんな風である様です。

何にしても、こんな風に街力を測定してそれから程度を考へなければいけません。

二、盛り場の整備

以上基礎計畫で御話した事は大體に於て御他力で強力な市なり縣なりの力によるのでなければ出来ない事許りでしたがこんど申上げるお話はそうやつて出来上つた町内の整備ですから出来易い事許りです。

尤、さればと云つて之れも

商業組合

地主家主組合

と云つた様な強力な組合が出来て居なければ實際は出来ません。

そう云ふ準備があつての事と考へなければならぬ。

又同じ整備でも程度がありそれをさめるのも街力です。

街力によつて三〇〇圓以上してゐる場合なら中計畫それ以下なら小計畫で止めなければなりません。

一、〇〇〇圓以上なら大計畫となります。(新設の場合は勿論大計畫)

大計畫

大計畫は一、〇〇〇圓級は勿論六〇〇圓級の中の旺盛なものでもやる可き規模です。之等は
いづれも基礎計畫についても勿論ふれてゆかなければなりません。六〇〇圓級の商店街盛り
場では主として、

商店街に商店をそろへる。

それも「信用のある店」「慰樂關係の商品を賣る店」「文化品を賣る店」と云つた様なものを

そろへなければならぬ。

それから進んでは

既存の暗い建物を處理する事

知名な健全な喫茶店を招致する事

町の餘興場を設ける事(空地等)

映畫館等の娛樂館を集める事

と云ふ様な事が爲されなければなりません。

又若しそれが綜合盛り場なら商店街と觀興街を完全に分離獨立せしめる。

尤それは「形に組み立つて居なければなりません」が。

そうした工作が第一次に必要となります。

之れはどうしても商業組合が地主家主の組合と聯結するのでなければ成功しません。

仲々の大事業です。

中計畫

之は簡單に町内の裝飾で賑かにする丈の事で三〇〇圓級以上の街でやる事です。その大要を

のべると次の様になります。

イ、彩圍ひ灯圍ひ

之は街の周圍を賑かにする。

その爲に最大切なのは街のツキ當りです。これは晝なら看板とか幕とか建築とかでかざる。夜は店の灯、看板、廣告塔等で明るくしとかなければなりません。

ついでに街の兩側。

之は街灯、看板、陽蓋ひ、等で賑かにする。

街灯はこうした非常時ですから鈴蘭やネオンは許されません。

せいぜい往來安全灯ですが、たゞ折角つけるなら能率のある様にして貰ひ度い。

即、折角つけた街灯が街路樹や電柱のカゲになつたり陽蓋ひや、旗にかくされていたのでは何にもなりません。

又街灯の中にゴミがたまつてたりホヤのかけたのをかけつ放しにしとく等と云ふのも下らぬ事です。

私は今後益々電力が不足になるのですから街の明るさを電力許りでなく建物の形や壁の色で

明るくし度いものだと思つてます。

例へば形で云へば西洋建築が反射がきくし色としては黒よりは白がい。

それで私は共同建築にして明色で塗る事をあすゝめしています。

若し西洋建築が出来なかつたら看板をそろへて、それでヒサンをかくすのもい。

何かそう云ふ工夫が要ります。

看板は此は店の爲に必要なさまつてますが、之をネオンや何かでなく小型の四角なガラスの安灯にして軒から出したらどうかと思ひます。

そのガラスの色をトキ色とか黄とかにする。

そして店名を色文字で書くとか店の品物を繪で畫く。

一寸町が面白くなります。

ひるまの彩圍ひできゝめがあるのは陽蓋ひです。

之れは若し新調するのだつたら色陽蓋ひにす可きです。黄青、紅白等町中でそろへたら可成りキレイです。とも角汚れたまゝに汚ないのをかけておくのは御断りです。(東京人形町、巢鴨等)

それから盛り場の彩園ひ灯がこひの爲には店がまへも大切です。

それは店のかざりを遠くの方から歩く人に見へる様にする。

例へばイ、ロ、ハと云ふ様なところに特に賑かなものをかざり之れに灯を投光する。

往來

ショウキンドの口のとこ等頗る大切なところです。

こうすると町を歩くものは歩きながら町の商品が皆見へ、町が明るく感ぜられます。

ロ、街 調

そこで大體町の明るさ賑かさが出来たら今度は町の情調、面白み



を出す。

それは

時局調

季節調

と云ふ様に大別されますがその手段方法は大體ショウキンドを使ふ事になります。

即、時局調としてはショウキンドは出来る丈精動的なものにする。

精動的なポスター標語を厭味なく効果のある様に使ふ。

又時のニュース等で重要なものは月番のショウキンドに掲げる。

時々代用品の陳列會をやる。

慰問袋用品をならべる。——と云つた様な事をする。

季節調は、ショウキンドで季節を出す。

勿論それは商品でも出ますが私は成丈それを緑りのものであつて貰ひ度いと思ふ。

夏なら朝顔、秋なら菊と云つた様な季節の感じの強いものをウインドに使ふ。

それも出来たら奥さんなりお嬢さんの自慢の活花なんかだつたら面白いと思ふ。

そう云ふ緑りはどれ丈市民の硬い心を柔らかく人間らしくするか解りませんし又その町の魅

力を増すか斯りません。

それから之は時局や季節とは關係ありませんが盛り場の爲に必要な情調として

店員精神

が大切な事も見のがせないと思ひます。

ツツケンドンな店員や愛嬌のない店員が一人居ても街の氣分はメチャクチャです。

之はどうしてもやさしい親切な店員許りである必要があります。
私はよく

今日のお客に明日賣る心

よそのお店で賣る心

之れが一番大切な店員精神だと云つとります。

今日來たお客に其の場で無理に賣る氣にならない様。いわゆる「素見自由」の氣持でなければならぬ。

又、家に品物がなければ同業の他の店へ案内する。(鹿兒島で其の例に會ひました)。此の氣持もうれしい。

デパートに客が魅かれるのも此の「素見自由」なのだから氣をつけていたゞ度い。それから

昨日のお客に眼で御禮

もなす可き事です。

ヒドイ店員になると今サツキ賣つたお客にさへ鼻も引つかけない。

昨日のお客が通つたら「昨日はどをも」と口に出さなくても眼で御禮が云つて貰ひ度い。(之れはデパートで出來ない事)。

ハ、催 事

まあこんなところで整備の大部はちわりますが但しそれ丈では未だ迫力が出來ません。

此の外に季節の種々な催事が必要です。

夏場の相撲等其の最たるものですが私は土曜日曜の夜の夜店で青物を賣つたり、するのを見ますがあれもいゝ事です。(高知にその有名なのがあります。)

又社寺の縁日なんかも變な日にしないで皆土曜日曜にしたらどうかと思ひます。

何にしても市民は特に土曜日曜の夜退屈してます。

健全な簡単な慰樂を興へていたゞくと大喜びです。そしてそれは自然市民として「我等の街」の氣分にあらせます。

小 計 畫

以上が中計畫。

小計畫と云ふのは大盛り場でも沈滞期にある場合小盛り場ならこれからと云ふ時代にやる可

さお話で今申した様な事の中、金をかけないで出来る事丈やる——と云ふ手なのです。以上ゴタゴタしたから表にしませう。

盛り場等級	盛り場種類	計畫規模
一、〇〇〇圓級	綜合盛り場	上昇期 沈滞期
六〇〇圓級	商店街盛り場	大計畫甲 中計畫甲
三〇〇圓級	都市美商店街	中計畫乙 小計畫乙
一〇〇圓級	市場商店街	小計畫乙

甲 基礎計畫
乙 整備計畫

三、店舗及飾窓

サテ盛り場が出来たところで今度は店と飾窓ですが、簡単に一二の注意を申上ませう。
店舗

こゝでも私は店内の彩圍ひ灯圍ひを強調します。
即ち店の正面は必ず彩り美しく且灯を強くかけて置いて、いたゞき度い。
場合によつてはお店の正面にショウキンドをこしらへてるお店もあります。
それ迄にする事もどうかと思ひますが明るい必要はある。

又此の灯りも必ずしも電氣の灯である必要はありません。

晝間は出来る丈天窓を利用して太陽の光線をあてゝいたゞき度い。

晝間は其の方が感じがいい。(心齋橋筋に多い)

それから店の中間にムヤミに品物をさげるのは店内をインキにします。

之は矢張り往來から正面ツキ當りが見へる構へが一番好いと思ふ。

それから大切なのは明るさの調子ですが之はあく迄店内しかも正面が一番明るくショウキンドが之に次ぐと云ふ形がいい。

此の爲にはショウキンドのバックは光りを吸収する様なものにする事。

及店内正面に投光照明をあてる事です。

それから又店内の照度を高める爲には

裸電氣は止めて反射笠をかける

グローブは外して反射笠にする

天井や壁は光りを反射させる様な明色で塗る。

陳列に凸凹の少ない様にする

と云つた様な注意が大切です。

此の裸電氣の效果に關する迷信愚信は日本的です。

此の爲にお客はマブシクなり店内が見へずしかも灯りが要らないところへ亂射されてるから結局暗くなつてゐる事に氣がつかない。

困つたものです。

此こにあげた注意を守れば恐らく照度は倍以上になりませう。

飾窓

ショウキンドでも

裸電氣

灯具の見へる事

お斷り勿論です。又

灯りが商品全般にかゝらぬ事

暗すぎる事

皆しけなし。(田舎へゆく程必ずウインドが捨ててある)

それからショウキンドで一寸した注意で面白いのは
正札の形と色をキレイにそろへる。
事です。

大きな荷札の様な白い正札や呉服に靴へつける様な正札を貼るのは困つた無神経です。

四、盛り場建設に必要な都市計畫

かくして盛り場建設に必要な都市計畫は次の様なものであらう。

街路網 (特に副道)

地域制 (商業地域)

區劃整理

小公園計畫

結 語

以上で都市振興策の大體の解説をおへました。

尤、之れは土地により都市により種々加減しなければなりません。

そう云ふ事は土地の方の考へ可き事です。

そして私は若し氣宇の大きな人があつて都市の振興は都市丈いぢつていた所で仕方がない。その地方の都市農村を綜合して振興させその一因子として發展させて初めて、百年の大計になるのだと云ふなら、それこそ國土計畫的な立派な考へだと手を揚げざるを得ません。

新しき黎明に當つて、賢く機會を御つかみになり子孫の爲にゆたかな郷土を御建設ならん事を祈ります。

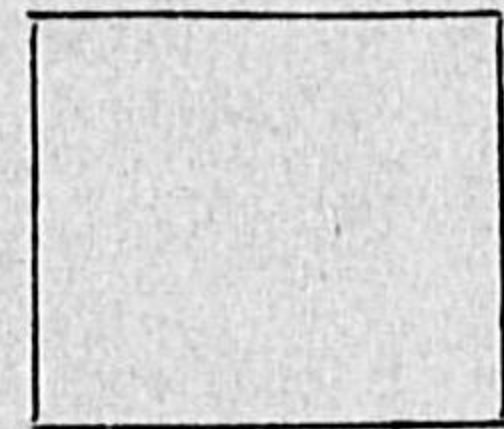
(尙、此の他消極的都市振興讀本としては

交通整備をする事

防火帯を設け、燃へない町にする事

等がありますが要點が稀薄になるおそれでハブキました。)

昭和十六年四月二十八日印刷
昭和十六年五月三日發行



日本國土計畫論

定價三圓六十錢

著者	石川榮耀
發行者	東京市神田區小川町三ノ五 志村ビル 平野伊太郎
印刷者	東京市牛込區南山伏町一 野吾由次郎
製本所	東京市神田區錦町三ノ一一 星野製本所
發行所	八元社 東京市神田區小川町三ノ五 志村ビル 電話神田(25)四一八〇番 振替東京一〇五九六五番

!! 來 出 版 重 ! 評 好

企畫院調査官 美濃口時次郎著

人的資源論

菊版箱入三二〇頁
定價三・二〇 千・一八

高度國防國家建設の條件として、資源獲得・軍備擴充・技術の高度化・人的資源の健全なる發展は、我國當面の課題として益々その重大さを要求しつつある。今次事變勃發以來極度に低下しつつある我國人的資源の諸要因は奈邊にある？ 凡そ歴史を省みても民族の盛衰は、一つに人的資源の消長にかゝつて居り、資源開發も、軍擴も技術の高度化も人的資源の發展を俟つて始めて可能なのである。本書は斯る國家的急務に應へて、既に權威として知られる著者が、山積せる資料と實査と、一年餘月を費して展開せる理論である。

滿鐵調査室 森 喜 一 著

再編成過程の日本中小産業

菊版箱入二五〇頁
定價二・三〇 千・一四

重工業への轉換過程下に於いて、中小産業の危機はそれ自體當然の趨勢でありながら、尙且存立の根を斷ち得ない、そこに日本中小産業の特殊性がある。膨大な生産者層と、半封建的諸條件に培はれて來た現情への對策も、その本質を極める事なくして解決し得ない。本書の特徴は、實査に據る正確なる統計を基礎に、轉失業問題を生起しつつある日本中小産業の本質を分析し、尙將來への方向を指示してゐる。

東京市神田區小川町 八元社 電話 神田四一八〇
三ノ五志村ビル 振替東京一〇五九六

913
85

終